

【資料翻刻】

池田家文庫「備陽国学記録」(三)

倉地 克直

凡例

一 本稿は、池田家文庫資料叢書を継承する事業として、岡山大学附属図書館所蔵池田家文庫に収められている「備陽国学記録」全六九冊(総目録番号R1-1-1-69)を順次翻刻するものである。今回は(三)として、元禄元年(同十六年(R1-6))を収めた。

一 「備陽国学記録」は岡山藩学校の業務を記した日誌である。学校役人が留めたものを後に適宜一冊に綴じている。また編輯にあたっては朱筆による訂正・加筆が行われ、付紙による追加もなされている。岡山藩学校は江戸時代の藩校として最も古いものの一つであり、しかも創立から廃止まで二〇〇年余り途切れることなく活動しており、そのことは江戸時代の教育史上注目すべきことである。加えて、その全期間にわたって記録が残されているという点でも希有な事例と言える。またこの記録には、庶民のための学校として著名な閑谷学校に関する記事も含まれており、貴重である。

一 翻刻にあたっては、できるかぎり原本の体裁を再現するように努めたが、紙面の都合上、または読みやすさを考えて、変更を加えたところもある。改行はいちいち指摘せず、闕字・平出は省略した。

一 表紙は、およその形状を罫線枠で囲んで示した。朱書された貼紙の内容は、「」を付けて記し、右肩に(貼紙朱書)と注記した。
一 付紙は、およその場所に※印を付け、その付近に内容を「」を付けて示し、(付紙)と注記した。

一 本文中の朱書による訂正・挿入は、(朱書)と註記し、内容を「」を付け

て記した。

一 本文中の二行分けの割註は、へ、を付け活字を小さくして示した。

一 史料本文の字体は原則として常用漢字を用い、異体字・略字・俗字・あて字については一部を使用し、必要に応じて通用の文字を右行間に()で示した。地名などの表記が通用のものと異なる場合、適宜現行の文字を同様に()で示した。

一 史料を読みやすくするために、適宜、読点(・)、並列点(・)を付けた。
一 明らかに誤字・誤記と思われるものは、右行間に正しいものを()で示し、疑念が残る場合は(カ)とした。脱字と思われるものは(脱)(脱カ)、重複していると思われるものは(衍)(衍カ)とした。意味不明の場合合は(ママ)とした。

一 変体かなは平かなに改めたが、格助詞のうち次の文字と、接続詞の「并」は活字を小さくして使用した。

者(は) 江(え) 茂(も) 与(と) 而(て) 而已(のみ)
くりかえし記号は、原本に順って、「ゝ」(漢字)、「ゝ」(ひらかな)、「ゝ」(かたかな)、「く」(二字以上の熟語)を用いた。

一 旧字・古字のうち、次のものは新字体に改めずそのまま使用した。

龍 瀧 籠 籠 嶋 餘 飴 亘 富 舛

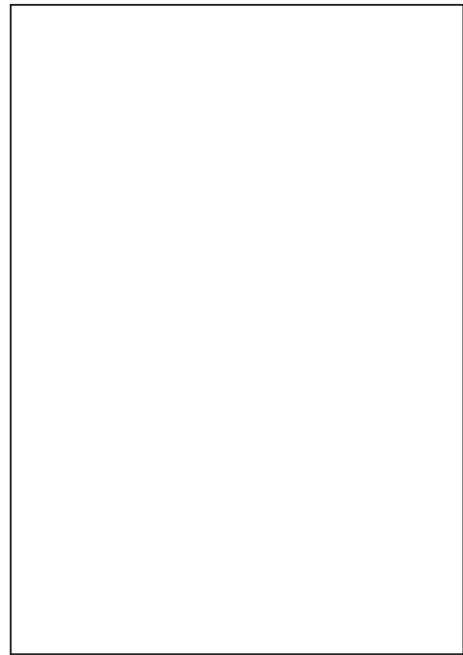
一 異体字・俗字・略字・合字については、次のものを使用した。
珎(珍) 躰(体) 悴(悴) 盼(悴) 嚶(扱) 并(并) 苧(州)

吳(異) 糧(糧) 扣(控) 帑(紙) 欵(歟) 取(最) 窄(窄) 哥(歌)

磯(磯) 迎(とて) ム(しめ) 才(等) 乃(より) ヌ(して)

一 原稿作成・原本との照合・割付・校正・版組は倉地克直(岡山大学特命教授)・今津勝紀(岡山大学文明動態学研究所教授)・東野将伸(岡山大学学術研究院社会文化科学学域講師)が行った。

（表紙）



（小口書）
「元禄国学記」

（前欠）

（元禄元年）

八右衛門詣中室、徹聖前之胙、闔戸復座、胙ハ左右之上段ニ置、堂中之諸
生詣中室、手自頂戴之、退出又

同日

一吉田平助当年廿歳ニ付、御法之通列座之除札

同日

一佐分利五郎四郎元服仕、入大生之列

十七日

一参校初

正月十七日

一内講習止

是窪田道和就不出也

十八日

一講堂之講积初、三宅誠庵講之

同日

一兒玉玄賀講积聴聞ニ初而出

二月四日

一积菜有之

二月上丁积菜之儀

開戸

啓櫃 御名代 泉 八右衛門

中村又之丞
松井七右衛門

献果

又之丞
七右衛門

参神再拜

焚香再拜 八右衛門

献酒俯伏 八右衛門

酒注 又之丞
捧盞 七右衛門

告辞俯伏 泉 八右衛門

備前国主中大夫拾遺源綱政使臣泉八右衛門仲愛謹积菜敢告

辞神再拜

中村又之丞

松井七右衛門

閉櫃 八右衛門

又之丞

闔戸 七右衛門

礼畢

今日講积無之

是小原善助父ノ喪有之、窪田道和家内ニ病人有之、依不出如斯

参校諸生胙頂戴有而退出也

一今朝朝飯出候諸士

岩田十太夫 市浦清七郎 国枝平助

大野清左衛門 加世藤三郎 泉 藤兵衛

中村長次郎 安田茂兵衛 中村又之丞

松井七右衛門 泉 八右衛門 岡田権六

居相孫八 横山半助 白井孫左衛門

山脇佐左衛門 河喜多勘助 山田藤四郎

益田勘右衛門 竹田円知 吉田五兵衛

梶川助八 梶川甚助 富田助六

岡田段九郎 益田文藏 箕浦善六

岡 友右衛門 広田八十郎 片山休甫

則武弥七 六左衛門 李兵衛

善兵衛

二月十一日

一安田茂兵衛時々読書ニ参候節、附食望之旨申二付、河喜多勘助達奉行所ニ

任其意

二月十三日

一巳之上刻侍従君・信州君蒞学ニ如例

是明十四日御廟祭ニ付、今日御両君共ニ御参廟、依之直ニ被為入也

泉八右衛門開中室之扉、御上香俯伏再拜、畢而於講堂之縁側講論語、是

取前御意被成候者、先年小原善助講シ候次之章ヲ窪田道和講之、以後其

次々可講旨被仰出

一講釈畢而諸生之書付御覽有之

一諸生講堂之左右ニ伺公仕、中村又之丞・松井七右衛門ハ左右之櫛形之脇

ニ伺公仕

一御入之時校内処々詰所覚

一外門 渡瀬儀左衛門

一中門 白井孫左衛門

一客舎ノ脇 山脇佐左衛門

一風呂屋ノ脇 河喜多勘助

一食堂東ノ方 横山半助

一杉舎之前 山田藤四郎

一梧舎之前 益田勘右衛門

一食堂之西ノ方 富田助六

一食堂ノ中 岡田段九郎

一台所口 則武弥七

一為御祝左之諸士諸役人江夕飯出之

泉 八右衛門 中村又之丞 松井七右衛門

岩田十太夫 市浦清七 舟橋七郎右衛門

泉 藤兵衛 安田茂兵衛 窪田道和

中村長次郎 横山半助 岡田権六

居相孫八 渡瀬儀左衛門 白井孫左衛門

河喜多勘助 山脇佐左衛門 山田藤四郎

益田勘右衛門 子共六人 休甫

則武弥七 六左衛門 李兵衛

二月十四日

一樂人大森理左衛門・松末織部来校

是御廟祭依有之也

十七日

一竹村喜藏参校仕間敷就断有之、除列座之札

廿日 一通之子共袴代出ル

廿四日

一白井孫左衛門・渡瀬儀左衛門兩人共ニ学校役儀御赦免被仰付

二月廿四日

一伊木長九郎家来岡門助時々読書ニ参度旨願申二付、任其意

三月二日

一池田権之助君御室御遠行ニ付、自今日四日迄諸事穩便ニ可仕旨御触有之

十六日

一中村又之丞・松井七右衛門兩人共学校役儀御赦免被仰付

同日

一横山半助・河喜多勘助・山田藤四郎・益田勘右衛門、右四人向後御切米御扶持共ニ学校御知行之内ニ而可遣之旨被仰渡、其外普請才之儀被仰出有之

十七日

一学校普請在之ニ付、小生之參校当十九日より相止、依之參校中江触状遣之但諸講習ハ有之筈ニ申合

十九日

一斎村源太退校仕度旨願申ニ付、任其意

三月廿六日

一青地惣三郎・同孫助、親父惣助より断有之ニ付、除列座之札

四月三日

一岩田重太夫・市浦清七・小原善助、三人共ニ泉八右衛門助ニ学校へ可相詰旨、日置猪右衛門被申渡

(朱書)「但十大夫二百石、清七七拾八俵五人、兩人共岸藤右衛門組、善助被遣御切米八拾石御小性組」

五日

一津田十次郎・泉八右衛門・岩田十太夫・市浦清七・小原善助、学校江参会

八日

一勝千代君蒞学

十二日

一自今春秋講習四九ノ日ニ改ル

十三日

一勝千代君蒞学

五月三日

一右同断

八日

一右同断

十二日

一益田勘右衛門ニ御借候居处作事出来ニ付、今日移ル

五月十四日

一学校御簡略ニ付、諸事相止候条如左

一通之子共左之五人令退校候事

岡田段九郎

益田文蔵

箕浦善六

岡 友右衛門 広田八十郎

一岡田権六儀も付扶持ニ而在之処、令帰宅候事

一表門裏門之御足輕自今日番引候事

一表門番人清右衛門申付事

是右ハ西之御丸之者也

一裏門番人善兵衛申付事

是暮六ツ切ニメ候而奉行中之外一切通之候儀停止之事

一飲室之役富田助六ニ申付事

但參校日或ハ諸講習之節計風爐仕掛置、其外ハ相止候事

一食堂之掃除弥七・六左衛門・善兵衛三人相勤之候様ニ申付

一講釈日校門之番右同断

一時之大鼓止候事

一諸講習之節螺吹候事止

一読書并習字出入之子共止事

五月廿一日

一時之大鼓前々之通打候而可然旨市浦清七申ニ付、何茂相議其意、依之弥七・

六左衛門・善兵衛三人代りニ可相勤之旨申渡

廿三日

一横山半助ニ御借候处出来ニ付、今日移ル

六月廿三日

一土用ニ入講堂之講習止

但食堂之内講習ハ有之

廿四日

- 一 則武弥七部屋之儀願申二付、任其意、自今日普請仕
同日
- 一 杉舎之学房出来二付、居相孫八・富田助六・警者之休甫今日移ル
廿九日
- 一 左之通小仕置衆御触状之趣
時分柄人立御示候、若ハ御法度之辻踊仕躰も候者、為御鎮忍衆ニ御足輕
被指添、明日より御廻し可有由、猪右衛門殿被仰渡候、此段御心得ニ御
月番方迄拙者方より御知らせ申候ても能候半哉と如斯御座候、以上
- 七月朔日
一 山田藤四郎学房出来二付、今日移ル
- 七月四日
一 暑氣甚敷二付、内講習自今朝二成
- 九日
一 御賄人六左衛門儀只今迄平詰ニ仕候処、自今非番之日御用無之節ハ、透々
ニ令帰宅、私用弁候様ニと岩田十太夫達泉八右衛門ニ、其通ニ申渡
- 十日
一 自今日十五日迄休ニ成、如例
- 十四日
一 内講習止
- 十八日
一 講堂之講釈始ル
- 廿五日
一 学房不残毀之、御払ニ成
- 同日
一 称徳亭・範馳軒・浴室、三ヶ所毀之、御払ニ成
- 八月朔日
一 客舎之北ノ堀申付候処、今日出来
- 十日
一 明日御廟御祭二付、楽人大森右平次来校
- 十四日
一 表門之番人清右衛門今朝病死死任ニ付、人足老人宛夜番申付
- 八月十五日
一 清右衛門妻子今日在所（音）かう部村江引取
- 十七日
一 御賄之六左衛門病氣ニ付、当番之日も夕飯過より令帰宅候様ニ申付
- 十八日
一 片桐古帆子順古・河合貞安子習悦兩人共ニ講釈聴聞ニ初而出
- 十九日
一 今晚之講習止
是昨夜より大風雨ニ付、如斯
- 廿八日
一 勝千代君蒞学
- 廿九日
一 山田藤四郎講候春秋今日終ル
- 同日
一 講堂之屋祢昨今兩日ニ葺直ス
- 九月朔日
一 御賄之六左衛門病氣ニ付御断申、自今日出勤不仕
- 同日
一 小原善助閑谷釈菜ニ付、去月廿六日ニ參、今日帰
- 九月廿三日
一 左之通泉八右衛門申渡覚
- 一 善兵衛儀講堂之掃除毎日相勤、六助掃除仕所ヲも助可申候、自今当番之
日ハ喰捨可被下之事
- 一 六助儀東西之舎并廊下食堂ノ掃除毎日相勤可申候、校厨之勤只今迄之通
可勤候、右之外ハ可令免許候
- 同日
一 校内宗門御改判形今日仕

廿四日

一 則武弥七自今日校厨之勤番并時之大鼓打申儀可相勤之旨申付

同日

一 參校衆江來月二日方初候旨手紙遣之、自今廿九日ニも參校有之筈ニ相定

十月二日

一 參校初ル

十月二日

一 塩見玄三子省三初而入学、十一歳、右座

同日

一 小原善助子大藏初而入学、左座

同日

一 市浦清七郎子善藏初而入学、七歳、但見習

同日

一 梧舎之北井掘候様ニ申付、自今日初ル

同日

一 浅井玄春・岡田権六兩人共ニ読書ノ師ニ御雇ニ付、今日より出勤

三日

一 酒折宮ノ神職久山民部講釈聴聞ニ初而出

同日

一 富田助六ニ易经本義老部被遣之

四日

一 窪田道和子源之助初而入学、十歳、右座

九日

一 太口兵太郎右同断、十二歳、左座

同日

一 易講習自今晚始ル

但河内洛書之内ハ小原善助講之、何茂初日ハ麻上下着之、為聴聞郷司七

右衛門・神蕃之丞・村瀬孫之進參

十月十七日

一 青地清次郎參校仕間敷旨就断有之、除列座之札

十九日

一 浦上与一兵衛子兵助初而入学、十一歳、右座

同日

一 渡部千太郎參校仕間敷旨就断有之、除列座之札

廿四日

一 佐藤重太夫講釈聴聞ニ初而出

十一月三日

一 本兵衛向後弥七・善兵衛並ニ校厨勤番可仕旨泉八右衛門申渡

但当番ノ日ハ喰捨被下之

同日

一 勝千代君蒞学

十九日

一 中川江雲講釈聴聞ニ初而出ル

是森不干甥也

廿九日

一 服部見瑞易之講釈聴聞ニ初而出

十二月十五日

一 參校止、如例

同日

一 今晚齋切振舞有之、講内諸役人中ニ茂出之

同日

一 左之通泉八右衛門申渡覚

一 横山半助・河北勘助・山田藤四郎・益田勘右衛門・則武弥七・善兵衛ニ

拝借銀令免許之

一 居相孫八・富田助六兩人御褒美銀子一枚宛被下之

一 則武弥七儀御用数多有之候間、校厨之勤番・時ノ大鼓・校門開閉之儀令

免許之、其外之役儀ハ只今迄之通弥可相勤之、但校厨之番差合在之時ハ

見合助可申事、只今迄校厨ニ而被下候老入扶持、手前へ被下之、校厨之

喰捨ハ外ニ被下之旨申渡

一六助義腕方之役令免許之、刀ヲさし袴着之、校厨之勤番并時之大鞆・校門開閉、其外ハ善兵衛同事ニ可相勤之旨申付

是切米都合八俵被下之、御法之通志割引有之旨申渡

十二月十九日

一人足七助腕方ニ申付、但六助跡役也

一六助ニ蕃刀一腰被遣之

一表門番人ニ御草履取ノ三助当分被仰付、参ル

是西之御丸之御草履取也

一六助改名五兵衛

一表門之三助妻子共引越参、自今日相勤

一五兵衛自今校厨詰番之日ハ不断之喰捨手前江被下之旨申渡

一浅井玄春・岡田権六江金子老歩宛被遣之

一中室御掃除如例

一当年参校之諸生式拾八人

内六人辞校

吉田平助

竹村喜藏

青地惣三郎

青地孫助

青地清次郎

渡部千太郎

六人初而入学

塩見生三

小原大藏

市浦善藏

窪田源之助

田口兵太郎

浦上兵助

通之子共六人退校

齋村源太

岡田段九郎

益田文藏

箕浦善六

岡 友右衛門

広田八十郎

元禄二己巳年

正月朔日

一中室御鏡餅辰之刻横山半助開中室之扉、奉之

御鏡餅之飾如例

一蓬菜二ツ如例

一三ヶ日校厨料理右同断

五日

一読初之儀如例

諸生於講堂如例年、巳之刻泉八右衛門詣中室、開扉焚香俯伏再拜復座

次ニ満座之諸生皆再拜、畢而山田藤四郎撃柝、孝経之五等之孝ヲ同声ニ

読之、次ニ小原善助講孝経之巻頭、畢而八右衛門詣中室、徹聖前之胙

闔戸復座、胙ハ左右之上段ニ置之、堂中之諸生詣中室、頂戴シテ退出也

正月九日

一内講習初ル

同日

一鈴木三省講釈聴聞ニ初而出ル

十七日

一参校初ル

同日

一舟戸助九郎次男嶋之助初而入学、八歳、左座

十八日

一講堂之講釈初ル

正月十九日

一丹羽小平太子松之助初而入学、九歳、右座

同日

一山田藤四郎居宅御借シ被成ニ付、御長屋江今日移ル

同日

一益田勘右衛門・李兵衛兩人学校人足ニ米為精候之処、自今相止候筈ニ申付

ル

廿一日

一夜食自今夕止之

一中室御繕就有之、御神位ヲ当分蘭舎江奉移

閏正月四日

一勝千代君蒞学

同日

一沢慶閑次男宇八郎初而入学、十五歳、左座

十七日

一瀧川久三郎右同断、十二歳、左座

廿八日

一中室之御戸帳御簾出来二付、今日掛之

晦日

一中室御繕出来二付、御神位今日中室江奉移

二月二日

一自今日十六日迄參校止、如例

同日

一左之諸生三人參校仕間敷断有之、除列座之札

安田孫之進 下方甚四郎 結城定之丞

十日

一今日上丁二付、积菜有之

二月上丁积菜之儀

開戸

捲簾

啓積

献果

御名代 泉 八右衛門

岩田十大夫 小原善助 十大夫 善助

参神再拜

焚香再拜

献酒俯伏

告辞俯伏

辞神再拜

徹酒果

閉積

降帳

垂簾

闔戸

礼畢

一小原善助講論語之卷頭

一积菜為御祝儀參校之諸生并出入之衆・学校役人中・下役人江朝飯出之

舟橋吉兵衛 吉田半八 波多野伝助

津田八助 片岡八郎 田口兵太郎

中村長次郎 波多野権三郎 河合鉄之助

塩見生三 大西久作 窪田源之助

丹羽松之助 浦上兵助 市浦善蔵

右八諸生

国枝平助 舟戸助九郎 大野清左衛門

舟橋七郎右衛門 丹羽小平太 安田茂兵衛

岡田権六 泉 藤兵衛

泉 八右衛門 小原善助 岩田十大夫

窪田道和 横山半助 居相孫八

河北勘助 山脇佐左衛門 山田藤四郎

益田勘右衛門 梶川助八 梶川甚助

八右衛門

八右衛門

八右衛門

八右衛門

八右衛門

八右衛門

八右衛門

八右衛門

八右衛門

八右衛門

八右衛門

八右衛門

八右衛門

八右衛門

八右衛門

八右衛門

八右衛門

八右衛門

八右衛門

八右衛門

八右衛門

八右衛門

八右衛門

八右衛門

八右衛門

八右衛門

八右衛門

八右衛門

八右衛門

酒注 十大夫

捧盞 善助

善助

善助

善助

善助

善助

善助

善助

善助

善助

善助

善助

善助

善助

善助

善助

善助

善助

善助

善助

善助

善助

善助

善助

善助

善助

善助

善助

善助

- 益田文蔵 在津市右衛門 佐野新助
 富田助六 片山休甫 則武弥七
 李兵衛 善兵衛 五兵衛
- 泉八右衛門小頭 細工人 御足輕
 花房又四郎 九人 三人
 御廟御掃除ノ者 学校人足 五人
- 二月十七日
 一 参校初ル
- 廿三日
 一 勝千代君蒞学
- 廿八日
 一 高屋安之丞講釈聴聞ニ初而出ル
- 三月八日
 一 和意谷御墓祭明日有之ニ付、泉八右衛門・小原善助・市浦清七、今日参ル
- 九日
 一 易講習止
 是奉行中和意谷江依参也
- 三月九日
 一 駒田延融初而入学、十四歳、左座
- 十一日
 一 泉八右衛門・小原善助・市浦清七、從和意谷今日帰ル
- 十三日
 一 学校之留帳從津田重次郎御用ノ由申来ル、依之富田助六今日重次郎江持参之
- 同日
 一 勝千代君蒞学
- 廿三日
 一 加藤文大夫子平九郎初而入学、十歳、右座
- 廿八日
 一 大村六之丞講釈聴聞ニ初而出ル
- 四月八日
 一 勝千代君蒞学
- 十二日
 一 水野万之助初而入学、十五歳、左座
- 同日
 一 泉八右衛門次男申吉初而入学、十歳、左座
- 十四日
 一 佐藤万助元服仕ニ付、入大生之列、改名門左衛門
- 廿三日
 一 市浦清七并同姓善蔵僕老人自今日桃舎ニ住居仕ル
 是簡略ニ付附食ニ而桃舎ニ住居仕度旨清七泉八右衛門江合相談、如斯
- 四月廿四日
 一 丹州君御家来湯原喜兵衛子孫四郎初而入学、十五歳、左座
- 廿七日
 一 糟谷茂左衛門子初而入学、長子槌右衛門十一歳右座、次男鉄之丞九歳左座
- 晦日
 一 中室御掃除之節自今山田藤四郎・益田勘右衛門両人之内老人宛出勤候様ニ
 泉八右衛門申渡ス
- 五月七日
 一 高屋安之丞読書之師ニ被雇之
 是参校日ハ朝於校厨支度仕候様ニ申渡、且晚講習有之節も同前也
- 十九日
 一 中村長次郎元服仕、入大生之列、改名金助
- 廿二日
 一 自今日当月中参校止
- 五月廿四日
 是侍從君近日御帰城就有之如斯、且御帰城以後御目見え不濟内ハ如例

- 一表門之番人三助病死仕二付、妻子共旧宅江歸ル
是病中療治之内從学校人參被遣
六月二日
一今日土用二入、參校止、如例
十一日
一校内諸役人江今晚切麦振廻有之
廿日
一土用明候得共、盆後迄參校止、如例
是残暑尔今依甚敷也
但内外ノ講習ハ如常有之
廿二日
一自今日明後廿四日迄御穩便二仕候旨御触有之
是堀田総州君之姬依御遠行也
廿三日
一講堂之講积止
右同断
六月廿八日
一講堂孟子之講积止
是講堂之御作事依有之也
七月三日
一伊木勘解由殿家来松本半之丞講积聽聞二初而出ル
十七日
一今日參校止
是從今日初り候筈之処、前夕より大風雨二付、如斯
廿日
一御廟諸御道具虫干有之ニ付、役人中江從校厨昼飯參
同日
一学校御書物虫干有之ニ付、昼飯出之
廿一日
一吉田源次郎初而入学、十四歳
是昼夜共ニ市浦清七同宿之願有之ニ付、任其意
同日
一表門番人今日被抱之、弥五助
是只今迄桜井夫右衛門長屋ニ在之候也
七月廿三日
一土肥飛驒家来菅野段兵衛講积聽聞二初而出ル
廿五日
一校厨之前ニ浴室今日出来
廿九日
一芸場之道具并習字道具自今山田藤四郎預之候旨、泉八右衛門申渡
同日
一善兵衛・五兵衛兩人、六左衛門病中月替りニ校厨之賄仕候様ニ今日申付
但賄番之月ハ喰捨被下之旨申渡
八月三日
一講积止
是土倉四郎兵衛殿養子犬千代君依御死去也
六日
一守田五左衛門弟安之丞講积聽聞二初而出ル
十七日
一戸田一雲子雲節初而入学、十二歳、右座
廿七日
一樂人大森理左衛門・同宇平次・金谷久太郎来校
是御廟祭依有之也
八月廿二日
一閑谷积菜有之ニ付、小原善助当十七日ニ參、今日歸
同日
一淵本弥三左衛門子弥五八參校日ニ參、習字讀書仕度旨申ニ付、任其意
廿四日

一吉田源次郎從今日附食成

廿五日

一侍從君音樂御聞有之由二付、今日迄樂人逗留仕ル

九月六日

一李兵衛御用二付、去月廿八日二和氣郡学校領江參、今日歸ル

十六日

一樂人大森理左衛門・同宇平次・金谷久太郎來校

是依御祭礼也

十七日

一泉八右衛門供奉被仰付、弓大将相勤ル

十八日

一勝千代君蒞学

九月廿八日

一勝千代君蒞学

十一月六日

一金谷久太郎樂大鼓就被仰付、於学校稽古仕ル

八日

一勝千代君蒞学

同日

一講堂之講釈孟子今日講終ル

十二日

一窪田源之助致剃髮、改名小貞

十三日

一講堂之講釈自今日中庸講初ル

十三日

一勝千代君蒞学

十八日

一河北勘助病中二付、山脇佐左衛門学校諸見届メ判致之候様二申付

廿日

一校内之諸役人江今日齋切振廻有之、如例

廿三日

一俵屋意休講釈聴聞二初而出

廿五日

一寒二入二付、自今宵夜食出ル、如例

十二月二日

一高屋安之丞只今迄読書之師二出勤仕候処三、断申自今不出

十二月三日

一勝千代君蒞学

八日

一右同断

十三日

一右同断

十五日

一参校止、如例

廿三日

一左之通被遣之

一金子貳百疋

一同断

一金子百疋

是表門番人三助病中薬用申二付、為薬代如斯

廿四日

一内講習今日迄二而止

晦日

一尾沢梶之助元服仕ル二付、入大生之列

同日

一富田助六銀貳拾六匁被遣之

是病氣二付地黄丸五箱服用仕ル二付、為代銀被遣之也

一当年参校之諸生三拾六人

内初而入学拾三人

舟戸嶋之助

丹羽松之助

沢 宇八郎

瀧川久三郎

駒田延融

加藤平九郎

水野万之助

泉 申吉

湯原孫四郎

糟谷槌右衛門

同 鉄之丞

吉田源次郎

戸田雲節

元禄三庚午年

正月朔日

一中室御鏡餅辰之刻横山半助開中室之扉、奉之

御鏡餅之飾如例

一蓬菜二ツ如例

一三ヶ日之間校厨料理右同断

五日

一読初之儀如例

諸生於講堂如例年、巳之刻泉八右衛門詣中室、開扉焚香俯伏再拜復座、

次三満座之諸生皆再拜、畢而山田藤四郎擊柝、孝経五等之孝ヲ同声ニ読之、

次二小原善助講孝経之卷頭、畢而八右衛門詣中室、徹聖前之胙、闔戸復座、

胙ハ左右之上段ニ置之、堂中之諸生詣中室、頂戴シテ退出也

正月五日

一舟橋吉兵衛・深谷甚右衛門兩人、当年廿歳ニ付、御法之通除列座之札

同日

一波多野伝助元服仕ニ付、入大生之列

九日

一内講習初ル

十七日

一参校初ル

同日

一参校之諸生奉行師匠中并通之子共迄雜烹酒出之

是此儀自今年有之筈ニ相定

土器 田作 ミソ 餅 するめ

向 大豆 雜烹 煎子 たうふ

同 香の物 こんふ かつを

な 吸物椀ニ而出ル

酒三献

正月十七日

一井上宜全読書之師匠雇之、自今日勤ル

是紙屋町之医師千葉義庵甥也

十九日

一生駒加右衛門次男次郎吉初而入学、十歳、左座

廿三日

一勝千代君蒞学

同日

一伊木勘解由家来岩佐安右衛門子儀助講釈聴聞ニ初而参

同日

一山口屋正載右同断

廿七日

一小原大蔵改名宗助

二月二日

一参校止、如例

五日

一积菜有之

二月上丁积菜之儀

開戸

岩田十大夫
市浦清七郎

捲簾	同前	右式拾六人參校衆
褰帳	同前	大野清左衛門 守田与五郎
啓積 御名代 泉 八右衛門	舟戸助九郎 郷司七右衛門	舟橋七郎右衛門
獻果	清七郎	淵本甚左衛門 加世藤三郎
參神再拜	十大夫	泉 藤兵衛 岡田権六
焚香再拜	八右衛門	小原善助 岩田十太夫
獻酒俯伏	八右衛門	窪田道和 横山半助
告辞俯伏	八右衛門	山脇佐左衛門 山田藤四郎
辞神再拜	八右衛門	日笠定右衛門 井上宜全
徹酒果	八右衛門	益田文蔵 清水牛右衛門
閉積	八右衛門	淵本弥五八 梶川助八
降帳	清七郎	富田助六郎 休甫
垂簾	十大夫	八右衛門預り小頭 同小頭
闔戸	同前	又四郎 弥兵衛
礼畢	同前	善兵衛 御細工人
一 小原善助講論語之卷頭		久右衛門 足輕五人
一 今朝飯台出ル諸生		御廟堂ノ 学校ノ 市浦清七家来
津田八助	尾沢樞之助	人足一人 人足六人 壹人
湯原孫四郎	片岡八郎	二月十日
駒田延融	田口兵太郎	一 樂人来校
小原宗助	糟谷鉄之丞	是明後十二日御廟祭依有之也
市浦善蔵	吉田半八	十一月
吉田源次郎	河合鉄之助	一 侍從君・信州君蒞学、於聖前御焚香御拜、畢而小原善助講論語功言令色ノ章
塩見生三	戸田雲節	及曾子ノ章講之、次ニ參校ノ諸生書付御覽可被成旨御意有之、終而東ノ舎
窪田小貞	加藤平九郎	ヲ御廻り被遊、御帰駕
舟戸嶋之助	沢 宇八郎	一 參校之諸生講堂之左右ニ着座仕、御通被遊候時、前江下座仕
		一 重而よりケ様之節ハ參校中江屋飯出之候筈ニ相定ル

二月十一日

一晚校内役人江夕飯ニ一種料理仕、酒才出シ申候
是御機嫌好被為人ニ付、為御祝儀如斯

同日

一吉田弥太六參校仕間敷断有之、除列座之札

十二日

一樂人歸ル

同日

一參校之諸生書付泉八右衛門今日御城江持參仕

是昨日御意ニ付、何某子何某幾歳と書付指上ル

二月十七日

一參校始

十八日

一勝千代君蒞学、講習御聴聞被遊

廿三日

一右同断

廿八日

一右同断

晦日

一浅海宇之助初而入学、十五歳、右座

三月朔日

一御賄ノ六左衛門為病氣療治湯ノ郷江參

八日

一勝千代君蒞学、講習御聴聞被遊

九日

一泉八右衛門・岩田十太夫昨日和意谷江參、今日歸ル

是御墓祭依有之也

十日

一横山半助ニ老人扶持御加増都合三拾俵ニ四人扶持、御目見え被仰付

三月十日

一河喜多勘助・山田藤四郎・益田勘右衛門、三人ニ老人扶持宛御加増被下、都合式拾俵ニ三人扶持ニ被仰付

十五日

一横山半助今日以鳥目御目見え申上

十八日

一勝千代君蒞学

同日

一上村忠兵衛・武田善兵衛・雀部玄固、講釈聴聞ニ初而出ル

十九日

一浦上兵助断有之ニ付、除列座之札

廿二日

一糟谷鉄之丞改名尾関弥三郎

是尾関弥五左衛門養子ニ參、如斯

廿三日

一勝千代君蒞学

廿九日

一參校止

是御出船依被遊也

四月八日

一波多野権三郎元服仕、入大生之列

四月八日

一字佐美大助講釈聴聞ニ初而出

十八日

一左之銘講釈聴聞ニ初而出

平右衛門子

笠井勘七 今中源助

小幡孫十郎弟 今在家村医者

天引友仙 平尾道節

廿四日

町医者

神 立益

小幡孫十郎

- 一 易経講習自今山田藤四郎講之候筈ニ申付
廿七日
- 一 村瀬段右衛門子初而入学、次男平蔵十七歳右座、三男弥平十六歳左座
同日
- 一 藤岡伝左衛門子梶之助初而入学、十四歳、右座
五月十八日
- 一 居相孫八郎弟横山瀬兵衛毎日参、読書仕度旨願申ニ付、任其意
十九日
- 一 入江節元初而入学、十四歳、左座
廿四日
- 一 小林又次郎読書之師ニ被雇、自今日出勤
六月四日
- 一 内講習朝ニ成如例
十四日
- 一 土用ニ入、参校止、如例
十八日
- 一 居相孫八郎ニ為袴代金子貳百足被遣之
廿五日
- 一 校内諸師役人ニ切麦振舞有之
七月二日
- 一 参校始
十八日
- 一 松舎ニ蓮池出来申ニ付、自今日堀掛ル^(堀)
十九日
- 一 長谷川源蔵子権之丞初而入学、十一歳、右座
廿二日
- 一 田中三甫子初而入学、平蔵十五歳左座、次男文十郎十三歳右座
廿三日
- 一 江見藤九郎講釈聴聞ニ初而出
- 八月三日
- 一 江見雲碩講釈聴聞ニ初而出
四日
- 一 松井勘八子千之助初而入学、十一歳、右座
同日
- 一 市浦清七閑谷積菜有之ニ付参、同性善蔵同断^(姓)
八月八日
- 一 水野万之助元服仕、入大生之列
同日
- 一 従老中被申渡趣如左
一 御簡略以後惣御役屋敷繕普請何茂自分ニ仕候様ニ成申候、就夫学校御屋敷之儀ハ先年より惣廻り之かこひ屋根之修理柱のねつき学校より仕、其外ハ自分ニ仕候筈ニ、泉八右衛門・津田十次郎申合仕り来候、是共ニ自分繕ニ可仕候哉、中村又之丞・岩田十太夫家ハ分際ニ過申候、然ルヲ面々ノ繕ニ被仰付候も如何と御用人衆へ八右衛門相伺候、四、五年以来折々相尋候へ共、埒明不申候故、八右衛門家ハ自分ニ仕候、又之丞・十太夫家ハ先学校より申付置、埒明候時分入目ニ而指引仕候へと李兵衛ニ申付置候、頃日老中御指図候ハ、又之丞・十太夫家繕、半分者学校より、半分ハ自分ニ仕候様ニと被仰候由、津田十次郎今日被申聞候、繕入用者去年より浮置候へ共、勘定も済候間、当春より之入用半分宛ニ仕候へと李兵衛ニ申渡候、以上
- 八月八日
- 一 市浦清七・同善蔵今日從閑谷帰
十七日
- 一 荒尾猪左衛門次男長五郎初而入学、十一歳、左座
十八日
- 一 梶田伝左衛門・成瀬市左衛門講釈聴聞ニ初而出ル
同日
- 一 楽人来校

是明日御廟祭依有之也

八月廿二日

一菅沼小源太子数之助初而入学、十三歳、左座

廿六日

一河喜多勘助今日死去

廿八日

一勝千代君蒞学

同日

一河喜多勘助死後三ヶ月之扶持切米被遣之

（以下、一丁分錯簡を入替え）

廿九日

一山脇佐左衛門見届役申付

是勘助跡役也、昼夜之勤令免許

九月二日

一小林又次郎自今日附食ニ而学房へ来居

十三日

一小原善助講堂之講积仕

是窪田道和煩ニ付、如斯

廿八日

一從今日道和講积相勤

十月二日

一立野八郎兵衛子友之助初而入学、十一歳、右座

十一月四日

一田中平蔵改名立軒

十三日

一講堂之講积大学終

十五日

一学校下役人江支配切手出之

同日

一富田助六ニ袴代銀壹枚御加増被下之旨申渡

十八日

一講堂之講积自今日論語始

廿二日

一浦上兵助再參校仕度ニ付、任其意

（二）まで錯簡を入替え）

廿三日

一勝千代君蒞学

廿八日

一右同断

十二月七日

一寒ニ入夜食出之、如例

十三日

一佐々木半平子清之助從閑谷来校、六歳ニ而於講堂講大学三綱領

十五日

一參校止、如例

十六日

一今晚校内役人中并諸生ニ蕎麦切振廻有之

十二月十七日

一煤掃有之

廿四日

一御入之時御用之御刀掛御手拭御火鉢、其外御茶碗諸道具才之類、自今富田

助六ニ預之候旨、泉八右衛門申付

同日

一左之師匠金子式百疋宛被遣之

岡田権六

井上宜全

小林又次郎

同日

一御人足仁助・御門番之弥五助ニ米壹俵宛被下之

是兩人共ニ精出シ相勤候ニ付、為御褒美被下之也

晦日

一中室御掃除如例
一当年参校之諸生四拾六人

内初而入学十四人

生駒二郎吉 浅海宇之助

村瀬弥平 入江良元

松井千之助 荒尾長五郎

再参校

立野友之助 浦上兵助

(二行脱アルカ)

元禄四辛未年

正月朔日

一中室之儀式并三日之間諸儀式如例年

五日

一読初如例年、小原善助講孝経

同日

一左之諸生兩人廿歳二付、御法之通除列座之札

吉田半八 岡 二郎兵衛

同日

一左之諸生四人自今参校仕間敷旨断有之ニ付、除列座之札

佐藤門左衛門 津田八助 波多野伝介

同 権三郎

正月六日

一横山半助宅へ横山玄立母并姉妹以上三人引受申度旨半助奉行所へ相断、任

其意、今日引越

十六日

一市浦清七・同善藏父子共今日本宅へ帰

十七日

一参校始ル、参校衆へ雑煮出ル
同日

一吉田定右衛門子藤八初而入学、十三歳、左座

廿三日

一藤井伝介弟若林秀節講釈聴聞ニ初而出ル

同日

一岡田権六付食ニ而自今日学房江来居

同日

一勝千代君蒞学

廿七日

一湯原孫四郎自今参校仕間敷旨断有之ニ付、除列座之札

廿九日

一守田与五郎子小吉初而入学、九歳、左座

二月二日

一参校止、如例

一积菜有之、是当朔日上丁ニ而候得共、日蝕ニ付、今日有之、泉八右衛門御

名代ニ被仰付、日置草也殿参拜

二月 中丁 积菜之儀

開戸

岩田十太夫
市浦清七郎

捲簾

清七郎
十大夫

褰帳

清七郎
十大夫

啓櫃 御名代 泉 八右衛門

献果

清七郎
十大夫

参神再拜

焚香再拜 八右衛門
 献酒 八右衛門 酒注 清七郎
 捧盞 十大夫
 告辞 八右衛門 俯伏
 備前国主中大夫拾遺源綱政使臣泉八右衛門仲愛謹积菜敢告
 辞神再拜
 徹酒果 十大夫
 清七郎
 閉櫃 八右衛門
 降帳 清七郎
 十大夫
 垂簾 清七郎
 十大夫
 闔戸 清七郎
 十大夫
 礼畢
 窪田道和講論語之卷頭、畢而堂中之諸生胙頂戴仕、直ニ食堂飯台ニ着
 今朝飯台出候諸生
 佐分利五郎四郎 村瀬平蔵 同 弥平
 田口兵太郎 田中立軒 田中文十郎
 戸田雲節 藤岡梶之助 菅沼数之助
 荒尾長五郎 松井千之助 立野友之助
 生駒二郎吉 舟戸嶋之助 尾沢梶之助
 水野万之助 沢 宇八郎 河村真三郎
 駒田延融 浅海宇之介 河合鉄之助
 大西久作 塩見省三 糟谷槌右衛門
 尾関弥三郎 加藤平九郎 長谷川権之丞
 吉田藤八 守田小吉 吉田源次郎
 泉 申吉 窪田小貞

右三拾式人
 片岡八郎 入江良元 中村金助
 浦上兵助 小原宗助 市浦善蔵
 右六人不参
 舟橋七郎右衛門 斎藤加助 大野清左衛門
 舟戸助九郎 守田与五郎 淵本甚左衛門
 田部藤九郎 泉 藤兵衛 岩田丑作
 泉 八右衛門 岩田十太夫 市浦清七郎
 窪田道和 横山半助 岡田権六
 居相孫八 山脇佐左衛門 山田藤四郎
 益田勘右衛門 岡田政右衛門 井上宜全
 山脇清助 迫間提三 益田文蔵
 箕浦善六 淵本弥五八 梶川助八
 梶川甚助 富田助六 閑谷ノ休甫
 則武弥七 善兵衛 五兵衛
 六左衛門子 小頭 泉八右衛門家来
 六三郎 又四郎 儀兵衛
 右三拾六人
 御足輕四人 御廟ノ人足式人 学校ノ人足六人
 座機就有之不参 小原善助
 二月十六日
 一学校御用人江春御借米切手出
 十七日
 一学校始ル
 同日
 一左之六人今日初而入学
 喜左衛門子
 塩川平七、十四歳、右座
 万之助弟

水野三五郎、十二歳、左座

同人弟

同 助四郎、九歳、右座

関左衛門子

柴山源八、十二歳、左座

三男

同 万作、十歳、右座

薄田権八郎、十歳、左座

十七日

一自今於橘舎読書有之筈ニ相定

是諸生多ニ付如斯

同日

一左之三人読書之師ニ被雇之

早川権内 山本玄佐

山脇清助

十八日

一勝千代君蒞学

同日

一楽人来校

是御廟祭依有之也

十九日

一石黒後藤兵衛子藤五郎初而入学、十二歳、左座

同日

一栖村孫之丞子市之丞右同断、右座

十九日

一堤八兵衛子亀太郎初而入学、十歳、右座

廿一日

一楽人帰

廿三日

一勝千代君蒞学

廿六日

一井上宜全自今日学房へ来居

是喰捨被下之旨申渡

三月七日

一河原左助子松右衛門初而入学、十一歳

同日

一岡才兵衛孫加藤玄固勝手へ参、読書仕度旨ニ付、任其意

同日

一幸元林庵自今読書ノ師ニ被雇之

十日

一泉八右衛門・小原善助・市浦清七郎以上三人、昨日和意谷へ参、今日歸ル

是依御墓祭也

十四日

一自今左之三人参校日ニ八朝飯学校ニ而給候筈ニ申渡

横山半助 山田藤四郎 益田勘右衛門

十四日

一箕浦善六読書ノ師ニ被雇之

同日

一幸元林庵子三省出入仕度旨御断申ニ付、任其意

四月十一日

一春田十兵衛孫菊之丞初而入学、十一歳、左座

同日

一馬場半平子大助右同断、十一歳、左座

同日

一佐藤清内子弥八郎右同断、十三歳、右座

十四日

一井上宜全ニ金子貳百足被遣之

十九日

一喜多嶋忠右衛門子松之丞初而入学、十二歳、右座

- 廿日
一 泮宮ノ橋破損仕ニ付、從樋小屋新敷成
奉行虫明又八郎
五月七日
一 御城坊主仙齋子千太郎勝手へ參、讀書習字仕度旨願申ニ付、任其意
九日
一 岡三之丞初而入学、十五歳、左座
五月九日
一 齋藤左次兵衛子弥九郎勝手へ參、讀書習字仕度旨願申ニ付、任其意
十四日
一 易本義講習今日終
廿一日
一 小原善助自今日客舎へ来居
廿二日
一 自今日当月中參校止
是御帰国ニ付、家中御目見不濟内ハ如例止
六月二日
一 參校始ル
三日
一 小原善助自今日講釈勤ル
同日
一 千田友軒子友司講釈聴聞ニ初而出ル
五日
一 吉田源次郎元服仕、入大生之列、改名義左衛門、自今日学房へ来居
七日
一 青山源十郎子牛右衛門初而入学、十三歳、右座
八日
一 勝千代君蒞学
同日
一若林弥三郎講釈聴聞ニ初而出
六月八日
一 小山玄東講釈聴聞ニ初而出
同日
一 浪士河本瀬兵衛右同断
同日
一 渡部友の右同断
是淡河友古弟子也
九日
一 平井六郎右衛門子小太郎初而入学、十四歳、右座
同日
一 喜多嶋忠右衛門次男次郎四郎初而入学、十歳、左座
十五日
一 參校講習共止
是本多平八郎君御遠行ニ付、自今日来ル十八日迄穩便ニ仕候様ニ、從御
小仕置衆御触ニ付、如斯
十九日
一 詩經講習始ル、但朝六ツ半より有之筈ニ相定 如例
廿二日
一 青地惣三郎再參校仕、十五歳、左座
同日
一 町医神立益読書師ニ被雇之
廿三日
一 勝千代君蒞学
同日
一 井上庄助講釈聴聞初而出
同日
一 淡河典育右同断
同日

- 一 江西源八右同断
同日
一 土肥平兵衛右同断
是四人共学房江出入候而読書仕度旨断有之ニ付、任其意
廿四日
一 土用ニ入参校止
廿八日
一 今晚校内役人中読書之師ニ切麦振廻有之、如例
七月十七日
一 参校止
是自今日初候筈ニ有之処ニ、残暑尔今依甚敷也
廿六日
一 小林又二郎今日退校
是安田茂兵衛養子ニ被仰付ニ付、如斯
廿六日
一 東西ノ舍繕并柱之根継有之
八月二日
一 参校始ル
三日
一 土鉄砲馬場利兵衛講釈聴聞ニ初而出
四日
一 同人子平十郎参校日ニ勝手へ参、読書習字仕度旨ニ付、任其意
同日
一 梧舎之畳表替有之
是参校之諸生多ニ付、左座之諸生於梧舎習字有之筈ニ依相定、如斯
七日
一 沢宇八郎剃髮仕、改名順迪
同日
一 読書ノ師飯台着座之次第、或ハ長幼或ハ等ヲ以如左定
- 山脇清助 岡田政右衛門 山本玄佐
箕浦善六 岡田権六 早川権内
幸元林庵 神立益
以上八人校厨食堂廊下東方西ニ向並也
八日
一次之小子読書之儀参校済九ツ半より八ツ時迄、左之六人教候様ニ申付
居相孫八 吉田儀左衛門 岡田権六
早川権内 井上宜全 替者ノ休甫
九日
一 高木左近右衛門子平十郎初而入学、十一歳、右座
同日
一 伴半兵衛子左膳右同断、十三歳、右座
同日
一 原田利左衛門子二郎助右同断、十四歳、左座
同日
一 長屋伝次郎右同断、十四歳、左座
同日
一 杉舎ノ井上宜全居申学房、泉八右衛門休息所ニ成申ニ付、宜全今日槐舎ノ学房へ移ル
十二日
一 自今日左座之諸生梧舎へ分ル
同日
一 雪隠式軒杉舎学房ノ傍ニ出来
十三日
一 赤坂郡伊田村ノ住医難波十郎右衛門講釈聴聞ニ初而出ル
十四日
一 市浦清七郎閑谷釈菜有之ニ付、当十一日ニ参、今日帰ル
十六日
一 鈴木所左衛門子吉十郎付食ニ而自今日学房へ来居

- 十七日
一 富田助六忌中二而引込
是父源兵衛依病死仕也
- 十九日
一 早川権内付食二而自今日学房へ来居
同日
一 御賄六左衛門子六三郎十三歳、参校日勝手江参、自今日読書習字仕
是諸用為承相勤候様二申付、但参校日并晚講習有之日ハ朝晩喰捨被下之
旨申渡
- 廿六日
一 藤岡梶之助除列座之札
是父伝左衛門依立退也
- 廿六日
一 浴所校厨之西脇二仕替之
同日
一 窪田道和忌中二付不参
是妹死去仕二付也
- 廿七日
一 衆人来校
是御廟祭明後日就有之也
- 廿九日
一 詩経講習止
是窪田道和依忌中也
- 閏八月朔日
一 泉八右衛門忌中
是息遊軒依死去也
- 三日
一 伊予ノ住人村田五郎右衛門観校
- 四日
一 裏玄関并腰掛繕仕
十日
一 横山半助宅へ横山玄立今日引越
是泉八右衛門へ相断申候二付、任其意
- 十八日
一 勝千代君蒞学
- 十九日
一 詩経講習始ル、但自今晚七ツ二初ル
是依暑氣散候也
- 廿四日
一 内講習止
是窪田道和家内二病人依有之也
- 九月四日
一 内講習始ル
- 十日
一 富田助六父之喪終テ今日帰房
同日
一 横山玄立今日町宅へ移ル
- 十三日
一 本兵衛御用二付、和氣郡学校領へ当六日二参、今日帰ル
- 十四日
一 田口兵太郎断有之退校
同日
一 片岡八郎元服仕、入大生之列
- 十六日
一 衆人来校
是依御祭礼也
- 十七日
一 衆人帰ル

廿七日

一 高桑勘兵衛子勘太郎初而入学、十一歳、左座

廿八日

一 勝千代君澄学

廿九日

一 岡田権六忌中ニ付引込

是伯父死去ニ付也

十月二日

一 食堂ノ炉開

同日

一 舎々江火鉢出之

十一日

一 市浦清七郎不参

是幼女死去ニ付也

廿一日

一 岡田権六忌明候而帰房

十一月朔日

一 本兵衛和氣郡学校領へ当廿七日ニ参、今日帰

十五日

一 学校下役人へ御支配切手出ル

十八日

一 吉田儀左衛門信州君へ就被召出退校

同日

一 岸六郎左衛門子省三講釈聴聞ニ初而出ル

十九日

一 沢順迪成長ニ付、入大生之列

十二月十三日

一 益田勘右衛門病氣ニ付、御銀奉行御赦免之旨御断申ニ付、自今山田藤四郎

と兩人格年ニ相勤候様ニと泉八右衛門申渡

元禄五壬申年

十四日

一 居相孫八郎於学房遠慮仕罷在

是八木左衛門閉門依被仰付也

十六日

一 今晚役人中師匠中江蕎麦切振廻有之、如例

十七日

一 煤掃有之

十九日

一 内講習今晚迄ニ而止

廿一日

一 左之読書之師七人江金子式百疋ツ、被遣之

山脇清助 岡田政右衛門 箕浦善六

山本玄佐 早川権内 神 立益

幸元林庵

廿五日

一 駒田延融成長ニ付、入大生之列

廿九日

一 片岡八郎改名ヲ多兵衛

同日

一 柴山源八改幸之介、同方作改名政之助

廿九日

一 大西久作退校

同日

一 加藤玄固御断申退校

一 当年参校之諸生凡七拾貳人

内 式拾六人初而入学

正月朔日

一中室御鏡餅辰ノ刻横山半助開中室之扉、奉之

御鏡餅之飾如例

一蓬萊二ツ如例

一三ヶ日校厨料理右同断

二日

一居相孫八郎遠慮御赦免被仰出、從今晚出勤

正月五日

一読初之儀如例

諸生於講堂如例年之、巳ノ刻泉八右衛門詣中室、開扉焚香俯伏再拜復座、

次ニ滿座之諸生皆再拜、畢而山田藤四郎擊柝、孝經五等ノ孝ヲ同声ニ読之、

次ニ小原善助講經之卷頭講入、畢而八右衛門詣中室、徹聖前之胙、闔戸

復座、胙ハ左右之上段ニ置之、堂中之諸生詣中室、頂戴して退出也

同日

一佐分利五郎四郎当年廿歳ニ付、御法之通除列座之札

同日

一浅海宇之助參校仕間鋪断有之ニ付、除列座之札

同日

一岩田重大夫子丑作初而入學、八歳、左座

九日

一内講習始ル

正月九日

一鈴木吉十郎改名定右衛門

十七日

一參校初ル、參校聚江雜煮酒出之

十八日

一講堂ノ講釈初ル

廿三日

一三宅誠庵今日講堂之講釈勤ル

廿七日

一今井夫右衛門子伝三郎初而入學、十五歳、右座

二月二日

一參校止、如例

四日

一早川權内仕官之志有之、退校

同日

一岡田正右衛門信州君江被召出ニ付、自今日読書之師ニ不出

同日

一椀方七助御暇被遣

是御手廻ニ出候ニ付也

七日

一積菜有之

二月上丁積菜之儀

開戸

岩田十大夫
市浦清七郎

捲簾褰帳

清七郎
十大夫

啓牘 御名代 泉八右衛門

献果

清七郎
十大夫

參神再拜

八右衛門

焚香再拜

八右衛門
酒注 清七郎
捧盞 十大夫

献酒俯伏

告辞俯伏

辞神再拜

備前国主從四位下侍從源綱政使臣泉八右衛門仲愛謹積菜敢告

徹酒果

十大夫
清七郎

閉櫓

八右衛門

降帳垂簾

清七郎

闔戸

十大夫

礼畢

同前

一 小原善助講論語卷頭、畢而參校之諸生從左右老人宛詣中室、胙頂戴之、

直二 食堂飯台二着

一 今朝飯台出諸生如左

尾沢梶之助

水野万之助

片岡多兵衛

沢 順迪

河村伝九郎

駒田延融

村瀬弥平

田中立軒

青地惣三郎

入江良元

岡 三之丞

菅沼数之助

原田次郎助

長屋伝次郎

吉田藤八

泉 申吉

荒尾長五郎

水野三五郎

柴山幸之助

石黒藤五郎

小原宗助

尾関弥三郎

生駒次郎吉

河原覚之助

馬場大助

春田菊之丞

高桑勘太郎

市浦善藏

薄田権次郎

喜多嶋次郎四郎

守田小吉

岩田丑作

喜多嶋次郎四郎

中村金助

村瀬平蔵

河合鉄之助

塩見生三

浦上兵助

戸田雲節

田中文十郎

塩川平七

平井小太郎

今井伝三郎

糟谷槌右衛門

伴 左膳

窪田小貞

加藤平九郎

長谷川権之丞

松井千太郎

立野友之助

喜多嶋松之丞

丹羽半八郎

高木平十郎

舟戸嶋之助

柴山数之丞

堤 龜太郎

櫛村市之丞

水野助四郎 佐藤弥八郎 青山牛右衛門

右五拾九人諸生

大野清左衛門 守田与五郎 富田久兵衛

三宅誠庵 加世藤三郎 安宅権兵衛

鳥居弥三右衛門 舟橋吉兵衛 佃 兵内

岸 六郎左衛門 岸 省三 泉 藤兵衛

右之衆中居掛り

泉 八右衛門 小原善助 市浦清七郎

岩田十太夫 窪田道和 横山半助

岡田又右衛門 吉田儀左衛門 岡田権六

石原藤藏 居相孫八 山脇佐左衛門

山田藤四郎 山脇清助 迫間提三

幸元林庵 神 立益 山本玄三

武田円知 杉森用甫 箕浦善六

淵本弥五八 馬場平十郎 梶川甚助

渋谷千太郎 岡 玄固 斎藤弥九郎

富田助六 井上眞全 則武弥七郎

関谷ノ休甫 李兵衛 善兵衛

ぬしや次郎右衛門 六三郎 細工師 安右衛門

足軽七人 御廟ノ人足式人 学校ノ人足五人

二月七日

一 晚校内下役人一種料理酒出ル

十七日

一 参校始

同日

一 早川小助子忠八郎初而入学、十四歳、左座

八日

一 香西五郎右衛門親類土肥只右衛門講釈聴聞二初而出

二月十八日

一町医者松嶋玄柳子立白講釈聴聞二初而出

同日

一山田清閑子清益右同断

同日

一人足六兵衛梳方二申付

廿一日

一松末織部当番故、学房江来居

是神職頭二付、御国中為社家諸願月十日宛、武田内記・松末織部・大森

右平次請込、取次仕

廿三日

一信州君御医者小川宗淵講釈聴聞二初而出ル

廿五日

一楽人来校

是明後廿七日御廟祭依有之也

廿六日

一侍従君・信州君蒞学如例、於聖前御上香、俯伏再拜、畢而窪田道和論語学而之篇道千乘之国之一章本文計講之、次二参校之諸生之書付御覽被遊、從

東舍食堂御廻覧有、御帰駕

一御帰駕以後為御祝諸生并役人中・校内之諸生・下役人不残、赤飯・煮しめ・

酒出之

一諸生ハ講堂之内左右二着座

一表門御步行横目老入

一校門之脇立番山脇佐左衛門

一講堂之左縁小原善助

一同右縁 横山半助

二月廿六日

一晚役人中校内之諸生下役人不残、一種料理酒出之

二月廿八日

一勝千代君蒞学

同日

一楽人婦

廿九日

一柴山幸之助改名益之助、同政之助改名数之丞

同日

一松末織部今日歸

三月三日

一益田勘右衛門今日病死

十七日

一信州君御家来兩人初而入学

山田半兵衛次男浅之助、十三歳、左座

桜井孫三郎嫡子李三郎、十歳、右座

同日

一閑谷ノ休甫相煩申二付、為保養入用老步老切被遣之

十八日

一淵本弥三左衛門学校付之御步行並三被召出、式拾俵三人扶持被下之旨申渡

又

三月十九日

一今并勘右衛門弟猪之助初而入学、十四歳、右座

同日

一信州君御家来酒井長兵衛弟源太夫初而入学、十三歳、左座

同日

一中山右京附飯二而学房江来居

是口上道郡大多羅村牛頭天皇宮之神職中山鞞負子也

廿七日

一参校止

同日

一 居相孫八・富田助六兩人、学校付之御步行ニ被召出、式拾儀三人扶持被下之旨泉八右衛門被申渡、御仕置衆・御小仕置衆江八右衛門右兩人召連、御礼ニ參、依之兩人自今附食ニ成

四月朔日

一 小原善助歸北方ノ宅

二日

一 横山瀨兵衛読書之師ニ被雇、自今日出勤

三日

一 窪田道和自今日講堂之講釈勤ル

同日

一 布施玄珀弟子菱川玄室講釈聴聞ニ初而出ル

同日

一 校内中村又之丞居申候屋鋪、安田孫七郎江御借被成

依之門口ヲ校外ニ附ル

四日

一 富田助六只今迄相勤候上、御書物并諸御道具被預之、山田藤四郎相役也

同日

一 岡田権六通並ニ申付、喰捨ニ銀式枚被下之旨申渡、富田助六跡役也

十日

一 坂口勘左衛門学校槍之師匠ニ被召出

十四日

一 富田助六当春被遣候袴代六拾四匁五分返上之仕

四月十六日

一 樂人来校

是依御祭礼也

十七日

一 益田勘右衛門母町宅仕ニ付、村田小右衛門江從泉八右衛門遣候指紙之趣如左

学校之御步行益田勘右衛門令死去候ニ付、母町屋江罷出候、塩見町六右

衛門借屋ニ罷在度由ニ候、宗旨八禪、磨屋町東林寺旦那ニ而、宗門手形手前江取置申候、為御断如斯御座候、以上
四月十七日

十八日

一 樂人歸

十九日

一 平井小太郎病死

同日

一 坂口勘左衛門客舎へ来居、但勘左衛門并家来老人共学校之賄也

四月廿一日

一 勘左衛門弟子ニ成、坂口流槍望之方ハ參校候而稽古有之様ニ大生衆江廻状遣又

廿三日

一 槍稽古自今日始、稽古日并今日初而参会竹舎、如左

三日

八日

十三日

十八日

廿三日

廿八日

一 左之兩人為打太刀參校

岡 次郎兵衛

孫左衛門次男

日置孫八

一 左之校内諸生六人弟子ニ成、槍稽古仕

山田藤四郎 富田助六郎 山脇清助

横山瀨兵衛 岡田権六郎 則武弥七

同日

一 高畠与十郎講釈聴聞ニ初而參

四月廿四日

一 益田勘右衛門母今日町宅江移ル

五月朔日

一 横山半助坂口勘左衛門弟子ニ成、自今日槍稽古仕

- 八日
一 河合鉄之助元服仕ニ付、入大生之列、改名七左衛門
同日
一 加藤玄固断申辞校
十六日
一 休甫病氣耽無之ニ付、小作事之傍をしつらひ、從学房今日移ル
十八日
一 休甫今日病死仕、尸奥津高郡加茂村之親類請取歸、衣類才八山脇佐左衛門・富田助六・則武弥七相改候而、の場六兵衛へ相渡之
同日
一 長谷川甚左衛門次男来助講釈聴聞ニ初而出ル
五月十九日
一 淵本弥五八読書之助ニも成候間、参校日ニ出勤仕候様ニ申渡、自今日出
廿三日
一 野田屋町医者安倉流全講釈聴聞ニ初而出
是泉八右衛門預り小頭弥兵衛妻ノ弟也
廿八日
一 井上宜全坂口勘左衛門弟子ニ成、自今日槍稽古仕ル
六月朔日
一 山田藤四郎益田勘右衛門跡御長屋江移り候様ニ申渡、今日移ル
四日
一 詩経内講習朝飯前ニ成、如例
七日
一 土用ニ入参校止、如例
十六日
一 校内之諸生・読書之師ニ切麦振舞有之、如例
廿三日
一 土用明候得共、七月十六日迄参校止、如例
是残暑尔今依甚敷也
- 七月八日
一 本多中書君之御室御遠行ニ付、諸事鳴物停止、作事才八今明後三日之間御穩便ニ御触有之
十四日
一 内講習止、如例
十七日
一 参校初
十八日
一 長屋善左衛門弟彦五郎講釈聴聞ニ初而出ル
廿三日
一 今明両日参校講習止
是岡之助君依御遠行也
廿八日
一 居相孫八御長屋御借被成、作事才出来ニ付、今日移ル
廿九日
一 春木又五郎子平五郎初而入学、八歳、右座
八月七日
一 御賄之六左衛門今朝病死仕
八月九日
一 樂人来校
是明日御廟祭依有之也
十日
一 樂人婦
十七日
一 市浦清七郎閑谷积菜ニ付、当十三日ニ参、今日歸
廿三日
一 小原善助講堂之講釈勤、但窪田道和者詩経之内講習仕ニ付也
廿八日
一 村瀬弥平元服仕ニ付、入大生之列

- 同日
一町医田中宗益子宗迪講釈聴聞ニ初而出ル
九月三日
一井上新平右同断
十八日
一山田十右衛門子加四郎講釈聴聞ニ初而出ル
同日
一伊木清兵衛家来平野弥次兵衛右同断
廿日
一神立益病死仕ル、金子百足被遣之
九月廿三日
一勝千代君蒞学
廿四日
一校内役人宗門御改判形今日仕
同日
一青地惣三郎元服仕ニ付、入大生之列
廿九日
一六左衛門子六三郎自今日出勤、通ニ申付
是喰捨被下、毎日相勤候様ニ申渡
十月九日
一伴左膳改名半蔵
十八日
一井上友齋子治左衛門講釈聴聞ニ初而出
同日
一尾関理左衛門子政右衛門右同断
同日
一羽原伝助弟猪八郎右同断
十一月七日
一長谷川権之丞今日病死
- 十三日
一居相孫八郎遠慮之儀有之ニ付、校内之御用ハ相勤候へ共、校外江不罷出
是八木左衛門遠慮之儀依有之也
十五日
一校内下役人江御支配切手出ル
十一月十九日
一榎原弥五右衛門子猪八郎初而入学、十一歳、右座
廿九日
一寒ニ入自今宵夜食粥出之
十二月二日
一岡嶋定之助初而入学、十三歳、左座
十二日
一居相孫八郎遠慮今日令免許
十三日
一学校之御米蔵之り見届、居相孫八郎・則武弥七郎兩人相符ニ仕、扶持方
も自今御蔵並ニケ月分相渡之候様ニ申付
十五日
一参校止、如例
十六日
一校内之諸生・読書之師ニ蕎麦切振廻有之、如例
十七日
一煤掃有之、泉八右衛門預り足輕五人参
同日
一山脇佐左衛門病中ニ付、清助諸用見届メ判仕之候様ニ申付
十二月十七日
一坂口勘左衛門江銀拾枚従学校被遣之
同日
一通六三郎ニ為袴代金子百足被下之
同日

一左之讀書之師金子被遣之、如例

一金子貳百疋 山脇清助

一同断 箕浦善六

一同断 山本玄佐

一同断 横山瀬兵衛

一同断 幸元林庵

晦日

一中室御掃除如例、市浦清七郎出勤

一当年參校之諸生七拾人

元禄六癸酉年

正月朔日

一中室御鏡餅辰ノ刻横山半助開中室ノ扉、奉之

御鏡餅之飾如例

一蓬菜二ツ如例

一三ヶ日校厨料理右同断

五日

一讀初之儀如例

諸生於講堂如例年、堂中之諸生再拜、畢而山田藤四郎擊柝、孝經五等之孝ヲ同声ニ讀之、次ニ窪田道和講孝經之卷頭ヲ、畢而徹聖前之酢、闔戸復座、昨ハ左右之上段ニ置之、堂中之諸生詣中室、頂戴シテ退出也

服中ニ而不參

泉 八右衛門

同断

岩田重大夫

家内病人有之ニ付不參

小原善助

正月五日

一左之諸生当年廿歳ニ付、御法之通除列座之札

村瀬平藏 中村金助 尾沢梶之助

同日

一入江良元自今參校仕間鋪断有之、除列座之札

正月五日

一山本玄佐只今迄讀書之師ニ被雇候処、自今不出勤旨断有之

同日

一次之小子馬場平十郎元服仕ニ付、自今勝手江參習字不仕

同日

一梶川甚助右同断

同日

一通心ノ六三郎讀書精出候ニ付、小学耆部被遣之

十七日

一參校始ル、雜煮酒出之、如例

同日

一山脇佐左衛門病氣本復ニ付、今日より出勤

十八日

一講堂之講積初ル

廿九日

一御勘定衆川上忠右衛門子源太郎毎日常次江參、讀書仕度旨願ニ付、任其意

十一歳 是富田助六郎甥也

二月朔日

一御廟付之新庄作大夫子平吉右同断、十六歳

二月二日

一今日より十六日迄參校止、如例

三日

一御積業在之、毎年泉八右衛門御名代被仰付候得共、服就有之、池田左兵衛

御名代二被仰付候

二月上丁 积菜之儀

開戸

捲簾褰帳

啓櫛 御名代 池田佐兵衛

献果

参神再拜

焚香再拜

献酒俯伏

告辞俯伏

辞神再拜

徹酒果

閉櫛

降帳

垂簾

闔戸

礼畢

一 窪田道和講論語卷頭、畢而参校ノ諸生二人宛左右より詣中室、胙頂戴之、
直ニ食堂飯台ニ着

二月三日

一 今朝飯台出諸士

村瀬弥平

河合七左衛門

水野万之助

川村伝九郎

沢 順迪

片岡多兵衛

岩田十大夫
市浦清七郎

同前

十大夫
清七郎

佐兵衛
酒注 十大夫
捧盞 清七郎

十大夫
清七郎

佐兵衛

十大夫
清七郎

同前

十大夫

清七郎

塩川平七郎

水野助四郎

桜井李三郎

春田菊之丞

糟谷槌右衛門

駒田延融

生駒次郎吉

立野友之助

原田次郎助

早川忠八郎

柴山益之助

今井伝三郎

河原覚之助

喜多嶋二郎四郎

塩見生三

佐藤弥八郎

丹羽半八郎

柴山数之丞

泉 八右衛門

窪田道和

船戸助九郎

服部小一右衛門

船橋吉兵衛

吉田儀左衛門

梶川助八郎

淵本弥五八郎

渋谷千太郎

川上源太郎

居相孫八郎

今井猪之助

山田浅之助

青地惣三郎

青山丑右衛門

石黒藤五郎

松井与之助

岡 三之丞

田中立軒

長屋伝次郎

泉 申吉

酒井源大夫

小原宗助

市浦善藏

守田小吉

戸田雲節

窪田小貞

高木平十郎

榎原猪八郎

岩田重大夫

横山半助

船橋七郎右衛門

安宅権兵衛

中村金助

鈴木定右衛門

梶川甚助

幸元林庵

新庄平吉

山田藤四郎

富田助六郎

水野三五郎

堤 龜太郎

馬場大助

浦上兵助

榎村市之丞

高桑勘太郎

伴 半藏

菅沼数之助

吉田藤八郎

荒尾長五郎

岡嶋定之助

尾関弥三郎

喜多嶋松之助

岩田丑作

田中文十郎

加藤平九郎

船戸嶋之助

青木平五郎

市浦清七郎

坂口勘左衛門

佃 兵内

鳥居弥三右衛門

中川来助

早川権内

山脇清助

神 門平

斎藤弥九郎

淵本弥三右衛門

岡田権八郎

- 井上宜全 寺嶋与平次 則武弥七郎
- 李兵衛 善兵衛 又兵衛
- 六三郎 預り小頭 預り小頭
- 細工師 ぬしや
- 安右衛門 二郎右衛門 足輕八人
- 御廟人足壱人 学校ノ人足五人
- 一晚校内之諸生江一種料理酒出之、如例
- 四日 一岡三之丞元服仕三付、入大生之列ニ
- 同日
- 一塩川平七右同断
- 同日
- 一早川権内読書之師ニ被雇、今より出勤仕
- 同日
- 一神門平右同断
- 十五日
- 一学校役人江支配切手出ル
- 同日
- 一校厨ノ五兵衛ニ御加増三俵被遣之旨申渡、都合拾貳俵被下
- 十七日
- 一参校初ル
- 同日
- 一御廟附竹田庄兵衛子三郎兵衛次江参、読書習字仕度旨ニ付、任其意
- 同日
- 一同断竹内与三子七之助、十四歳、右同断
- 同日
- 一箕浦善六郎仕官仕度由ニ付、自今不罷出旨断之
- 二月十九日
- 一數井仁左衛門子仁八郎初而入学、十四歳、左座
- 同日
- 一樂人来校
- 是廿一日御廟祭依有之也
- 廿三日
- 一平賀善左衛門二男松岡市之右衛門講釈聴聞ニ初而出ル
- 三月七日
- 一和意谷御墓祭ニ付、泉八右衛門・市浦清七郎兩人共ニ今日参ル
- 九日
- 一泉八右衛門和意谷より今日帰ル
- 十日
- 一市浦清七郎和意谷より今日帰ル
- 十三日
- 一門田亦八郎講釈聴聞ニ初而出ル
- 十七日
- 一参校日於講堂小学講釈初ル、今日より窪田道和從句読序講之
- 是為諸生有之候而可然ニ付、奉行中何茂令相談、巳ノ刻大鼓ヲ打、左右
- 之小生從食堂繰出之参ル、後見兩人申付、左座居相孫八郎、右座岡田権
- 六郎
- 三月十七日
- 一参校之諸生多ニ付、読書橘舎一舎ニ而挾^巻ニ付、桃舎二分、旧読有之様ニ令
- 相談、依之桃舎畳表替出来、今日より初ル、左之兩人肝煎ニ申付ル
- 是橘舎読書肝煎横山半助
- 桃舎旧読肝煎淵本弥惣左衛門
- 廿九日
- 一青地惣助次男弥六郎再参校、左座
- 四月三日
- 一土肥飛驒家来藤原重大夫講釈聴聞ニ初而出ル
- 十四日

一 参校止ム

是日置草也死去ニ付、内証ニ而今日之参校止之

十七日

一 今井伝三郎元服仕ニ付、入大生之列

同日

一 竹内与三子七之助只今迄次江参、読書習字仕候処、御断申上、自今不出、

七之助弟乙之助出シ申度旨願ニ付、任其意、今日より出ル、十二歳

四月十九日

一 御膳立高田弥右衛門次男三郎助次江参、読書習字仕度旨願申ニ付、任其意、

十一歳

同日

一 御廟附香中清左衛門次男権十郎右同断

五月八日

一 竹岡次郎右衛門抱浪人千歳平弥講釈聴聞ニ初而出ル

同日

一 松屋ノ杏順子松屋ノ平左衛門右同断

十七日

一 坂口勘左衛門佐治浅右衛門宅江移ル

是只今迄客舎ニ罷有候処、如斯

同日

一 佐々長兵衛より泉八右衛門江申来手紙覚如左

今朝者御近所江罷出申候故、御門前迄伺公仕候得共、御留守ニ而申置候、

然者先日被仰下候坂口勘左衛門儀、佐治浅右衛門宅江御遣シ被成度よし、

此頃御報ニ申上候通、湯浅半右衛門江申聞候処、只今如何様ニ申来候間、

則半右衛門手紙掛御目候、宗旨御改才御校内より可被仰付候ハ、御勝

手次第ニ可被成候、御返書次第半右衛門江も可申談候、半右衛門手紙外

之御事御座候間、御返し可被下候、尚期貴面候、以上

五月十七日

五月十七日

一 湯浅半右衛門より佐々長兵衛江参候手紙覚

一 泉八右より貴様之手紙返進申候、坂口勘左衛門事、佐治浅右衛門宅ニ学

校よりさし掛りなど致せ、当分住居被仕様ニ有度旨、浅右衛門も此段同

心之由被仰聞、承知致、大学殿江も内証申達候、勘左衛門宗旨改才ハ八

右手前より可被仕由承届候、然上ハ勝手次第と大学殿も被仰候間、浅右

衛門弥於同心者、其通ハ右衛門殿江可被仰入候、猶期面上之時候、以上

五月十七日

五月十九日

一 内講習従今朝六半時ニ初ル、如例

同日

一 小原善助今日より客舎江来居

廿日

一 参校止

是侍従君御帰城被遊ニ付、御家中御目見不濟内止、如例

廿九日

一 参校初ル

同日

一 伴半蔵元服仕ニ付、入大生之列

六月三日

一 長瀬問誰講釈聴聞ニ初而出ル

是安栗之浪士、野田屋町ニ居住、小笠原流教礼容

十四日

一 富田助六郎・井上宜全右両人、山田藤四郎ニ相加り、詩経内講習仕様ニ

申付、即今晚助六講之

十六日

一 土用入参校止、如例

廿三日

一 今晚校内役人并諸生切麦振廻在之、如例

同日

- 一 渋谷千太郎元服仕二付、自今不出候旨御断申
七月八日
一 今明参校并講釈止
是残暑未依甚敷也
十一日
一 今日より十四日迄参校止
是松平相州君御逝去二付、三日之内諸事遠慮可仕旨御触依有之也
十七日
一 参校初ル
十九日
一 山田浅之助自今参校仕間鋪旨断有之二付、除列座之札
廿二日
一 長瀬問誰讀書之師二被雇、從今日出勤
八月三日
一 大平奥之丞講釈聴聞二初而出ル
十三日
一 居相孫八郎当分校内見届役二申付ル
是山脇佐左衛門煩候二付、如斯
八月十三日
一 一宮之社務大森藤内講釈聴聞二初而出ル
十五日
一 山脇佐左衛門今日病死
十八日
一 紙屋町片上屋定直子仁兵衛講釈聴聞二初而出ル
廿日
一 衆人来校
是明日御廟祭依有之也
廿一日
一 小原善助今朝閑谷積菜就有之、昨日参、今日帰ル
- 廿九日
一 内講習從今晚七ツ時二初ル、如例
是依暑氣散也
九月六日
一 居相孫八今朝より自分宅二而支度仕ル
是参校日之朝八於校厨喰捨被下旨申渡ス
十三日
一 本兵衛御用二付、当二日和氣郡学校領江参、今日帰ル
九月十六日
一 衆人来校
是明日御祭礼依有之也
十八日
一 淵本弥三左衛門子弥平次講釈聴聞二初而出ル
廿八日
一 長屋伝次郎致元服、入大生之列
廿九日
一 酒井源大夫自今参校仕間鋪旨断有之二付、除列座之札
同日
一 坂口勘左衛門今日被召出
十月三日
一 信州君御家来安藤吉右衛門講釈聴聞二初而出ル
四日
一 次之小子武田三郎兵衛改名庄五郎
十三日
一 通之六三郎儀今日泉八右衛門長屋江引越
是只今迄町宅二而罷有、且暮難儀仕二付、母子共長屋江越候様二申付、
如斯
十四日
一 食堂之炉今日開之

十月十四日

一 佐藤弥八郎儀須賀伝兵衛養子ニ参候ニ付、自今参校仕間鋪旨断有之ニ付、除列座之札

十五日

一 岩田重大夫今日御郡奉行ニ被仰付

十六日

一 松井七右衛門御廟并学校御用相兼之可勤旨被仰付
是岩田重大夫跡役也

十八日

一 町医佐々十三伯子利三講釈聴聞ニ初而出ル

廿八日

一 御医者宍甘宗仙子元古右同断

同日

一 伊木清兵衛医者中岡秀悦子三庵右同断

十一月十二日

一 淵本弥三左衛門今日学校附御小姓格ニ被仰付、即日御目見え申上ル

御切米拾俵并扨人扶持御加増都合三拾俵四人扶持被下旨被仰渡

是御切米御扶持御加増被下候品為御聞合、御勘定場江居相孫八郎指遣

シ候処、如左

一 御切米御加増ハ何日ニ被仰付候共当年分被下之

一 御加扶持ハ被仰付候日より被下之候旨御勘定衆在津八右衛門申候条、孫八郎承歸ル

十一月十三日

一 町医松尾養伯子三益講釈聴聞ニ初而出ル

十一月十五日

一 岩田重大夫只今迄校内奉行屋鋪ニ居申候処、屋鋪替被仰出
御郡奉行吉田五右衛門跡江重大夫

十大夫跡江市浦清七郎

清七郎跡江五右衛門

十六日

一 本兵衛御用ニ付、当十三日ニ和氣郡学校領江参、今日歸ル

十九日

一 市浦清七郎今日校内江引越

十一月廿三日

一 窪田小貞今日死去

廿六日

一 青木平五郎改名源之丞

同日

一 加藤平九郎御兒小性^應ニ被仰付ニ付、除列座之札

廿八日

一 土倉四郎兵衛殿家来岡嶋友庵講釈聴聞ニ初而出ル

同日

一 町医中尾玄雪子玄篤右同断

十二月二日

一 従上嶋彦次郎泉八右衛門江参候手紙如左

以手紙得御意候、然者学校御大工李兵衛上ノ町ニ住宅候、宗門之儀ハ其

元ニ而御改被成候間、町方月次判形五人組頭改共ニ指除候様ニと御手紙

私方江可被下候、為其如此御座候、以上

十二月朔日

十四日

一 今日迄ニ而参校止、如例

十六日

一 校内諸役人并諸生ニ蕎麦切振廻有之、如例

十二月十八日

一 煤掃有之

廿二日

一 神門平ニ喰捨被下、学房江来居仕候様ニ申付ル

廿八日

一左之読書師六人ニ金子貳百疋宛被下之、如例

一式百疋 長瀬問誰

一同断 山脇清助

一同断 早川権内

一同断 横山瀬兵衛

一同断 神門平

一同断 幸元林庵

廿九日

一通之六三郎元服仕、改名豊平

同日

一神門平今日より学房ニ来居

同日

一中室御掃除如例

一当年参校之諸生六拾貳人

次ノ子共廿七人

元禄七甲戌年

正月朔日

一中室御鏡餅辰ノ刻横山半助開中室之扉、奉之

御鏡餅之飾如例

一蓬菜二ツ如例

一三ヶ日校厨料理右同断

五日

一読初之儀如例

一開戸

一捲簾褰帳

松井七右衛門

市浦清七

同前

一焚香再拜 泉 八右衛門

一降帳垂簾

七右衛門 清七郎

一闔戸

同前

右畢而山田藤四郎擊柝、孝経五等之孝同声ニ読之、次ニ小原善助講孝経卷頭、畢而松井七右衛門・市浦清七侍中室之左右、以箸授胙諸生、堂中之諸生從左右老人宛詣中室、頂戴之、退出也

五日

一中室之御鏡餅雜煮ニ仕、校内役人・読書之師・次之子共・下役人勝手迄不

残頂戴之

同日

一参校之諸生孝経ヲ載書格読之候儀、自今年初ル

同日

一水野万之助・村瀬弥平兩人当年廿歳ニ付、御法之通列座之札ヲ除

同日

一左之諸生七人自今参校仕間敷旨断有之三付、除列座之札

片岡多兵衛 青地惣三郎 同 弥六

尾関弥三郎 伴 半蔵 青山牛右衛門

堤 龜太郎

同日

一宍甘元古只今迄三八之講釈ニ参校仕候処ニ、今日初而入列座、右座

同日

一片瀬町之町人西屋与兵衛講習聴聞ニ初而出ル

十七日

一参校初ル、如例、諸生其外雜煮酒出之

同日

一窪田道和子卯之助初而入学、左座

同日

一船戸嶋之助改名弾之進

十八日

一左之三人講釈聴聞ニ初而出

玉井平之助

松尾助九郎

柏尾段助

同日

一大森藤内自今講釈聴聞ニ出候日ハ、於学校朝飯給申様ニ泉八右衛門申渡又

但他日出申候節ハ、付飯ニ而給申候筈ニ相定

廿二日

一御勘定衆須々木安太夫子伝吉次へ参校仕、読書習字仕度旨ニ付、任其意、

自今日出、十五歳

廿三日

一岡田甚太夫弟助右衛門講習聴聞ニ初而出

同日

一土方利右衛門次男土方道味右同断

同日

一池田左兵衛家来岡嶋茂左衛門子市之助、自今参講釈聴聞并読書仕度旨ニ付、

任其意

正月廿三日

一神門平改名小助、且今日坂口勘左衛門弟子ニ成り、槍稽古仕ル

(付紙)「正月廿七日」

一市浦清七事、於御廟何角御用被仰付、御尋問被成候義共埒明、応

御意、重宝ニ被思召候、御手附被成候ニ人品も好候条、中奥詰被

仰付候旨、於御城日置猪右衛門殿被仰渡」

二月一日

一自今日十六日迄参校止、如例

七日

一九鬼左六付食ニて自今日学房へ来居

是九鬼平内子只今迄閑谷ニ罷在候処、為勤学如斯

九日

一积菜在之

二月上丁积菜之儀

開戸

市浦清七郎

捲簾褰帳

同前

啓櫛 御名代 泉 八右衛門

献果

清七郎

参神再拜

八右衛門

焚香再拜

八右衛門

献酒俯伏

八右衛門

告辞俯伏

酒注 清七郎
捧盞 七右衛門

備前国主從四位下侍從源綱政使臣泉八右衛門仲愛謹积菜敢告

辞神再拜

徹酒果

七右衛門

閉櫃

八右衛門

降帳垂簾

清七郎

闔戸

同前

礼畢

一小原善助講論語卷頭、畢而市浦清七郎・松井七右衛門侍中室之左右、以

箸授酢諸生、堂中之諸生從左右老人宛詣中室、頂戴之、直ニ食堂飯台ニ

着

一今朝飯台出諸士

沢 順迪

河村伝九郎

駒田延融

田中立軒

岡 助右衛門

原田二郎助

長屋伝二郎

菅沼数之助

河合七左衛門

塩川平七

今井伝三郎

吉田藤八

早川忠八	泉 申吉	荒尾長五郎
水野三五郎	柴山益之助	石黒藤五郎
岡嶋定之助	藪井仁八郎	小原宗助
生駒二郎吉	河原覚之助	馬場大助
春田菊之丞	高桑勘太郎	市浦善蔵
喜多嶋二郎四郎	守田小吉	岩田丑作
窪田卯之助	塩見生三	浦上兵助
戸田雲節	田中文十郎	糟谷槌右衛門
今井猪之助	松井千之助	立野友之助
喜多嶋松之丞	丹羽半八	高木平十郎
六廿元古	船戸嶋之助	榎村市之丞
榎原猪八郎	水野助四郎	桜井李三郎
春木源之丞		
右参校衆		
舟橋七郎右衛門	岩田十太夫	大野清左衛門
富田久兵衛	佃 兵内	安宅権兵衛
中村金助	鳥居弥三左衛門	郷司七右衛門
泉 藤兵衛	十河順庵	横山玄立
右居掛り		
泉 八右衛門	小原善助	市浦清七郎
松井七右衛門	窪田道和	横山半助
淵本弥三左衛門	山田藤四郎	居相孫八
富田助六	岡田権六	井上宜全
神 小助	鈴木定右衛門	九鬼左六
長瀬問誰	早川権内	横山瀬兵衛

淵本弥五八	幸元林庵	山根清助
中山右京	新庄平吉	斎藤弥九郎
香中権十郎	竹内幸之助	武田庄之助
川上源太郎	保木与平次	則武弥七
李兵衛	善兵衛	五兵衛
豊 平	足軽八人	預り小頭
	又三郎	
細工師	御廟	塗師屋
安右衛門	人足老人	二郎右衛門
二月九日		
一 晚校内之諸生下役人江料理酒出之、如例		
十五日		
一 学房江自今外人出入令停止旨申渡又、則武弥七部屋も学房同事ニ外人出入停止之旨申渡		
同日		
一 山田藤四郎閑谷御用被申付		
同日		
一 幸元林庵学校江御徒格ニ被召出、御切米式拾俵三人扶持被下之、諸生習字之師且御道具被預之、富田助六相役ニ申付ル		
是山田藤四郎跡役也		
同日		
一 学校御銀奉行横山半助ニ申付ル、自今勘定上聞令免許、同日淵本弥三左衛門ニ学校諸勘定上聞申付		
二月十七日		
一 参校始ル		
同日		
一 岡田権六郎飲室役令免許、通之豊平ニ飲室役申付ル、自今老人扶持ニ為袴代銀六拾目宛被下之旨申渡		
是岡田権六郎跡役也		

十八日

一 御勘定場之中村安右衛門子今村伴九郎講釈聴聞ニ初而出ル

同日

一 上之町美濃屋源次郎右同断

同日

一 李兵衛御用ニ付、当十五日ニ和氣郡学校領へ參、今日歸

廿三日

一 九鬼左六坂口勘左衛門弟子ニ成、自今日槍稽古仕ル

廿六日

一 侍從君・信州君蒞学、於聖前御焚香俯伏再拜、小原善助論語学而之篇、第
子入而孝之章并賢賢易色之章講之、又次之章可講之旨蒙仰、君子不重則不
威之章講之

一 御帰駕之後為御祝儀參校之諸生役人中校内之諸生不残赤飯煮しめ酒出之

一 横山伴助・淵本弥三左衛門講堂南之縁側東西ニ相詰

一 居相孫八・幸元林庵食堂東ノ方ニ相詰

一 校門ノ東客舎之脇押富田助六

一 校厨見廻立番則武弥七

一 学房之諸生并次之子共食堂ノ西ニ居

同日

一 校内之諸生不残料理酒出之

廿七日

一 衆人来校

一 是御廟祭依有之也

廿八日

一 伊庭平内講釈聴聞ニ初而出

三月三日

一 小原善助学校御用被仰付、市浦清七郎・松井七右衛門三人代りミ学校へ相
勤候様ニ於御城御老中被申渡

一 是清七郎中奥ニ被仰付、御城詰ニ付御在国ノ内ハ学校江依不相詰也

三月七日

一 信州君御医者大森貞節子貞安初而入学、十歳、右座

九日

一 泉八右衛門・市浦清七郎昨日和意谷へ參、今日歸

一 是御墓祭依有之也

九日

一 佐藤清内三男永之助初而入学、十歳、右座

十四日

一 中西田直子弥次郎初而入学、十二歳、左座

廿一日

一 山田藤四郎今日閑谷へ引越

廿三日

一 窪田道和講堂講釈勤

一 是小原善助依病中也

廿七日

一 高田三郎助次江參校、読書習字仕候処、御断申上、退校仕ル

三月廿八日

一 幸元林庵校内御長屋山田藤四郎跡へ今日引越

同日

一 淵本弥五八晩講習有之日ハ、夕飯給申筈ニ申渡

廿九日

一 丹州君御家来日筈畏申初而来校

一 是畏申儀学校へ御入置、文学仕候様ニ与從丹州君泉八右衛門ニ被仰付、
如斯

但入房之飯料老人扶持ハ從丹州君之御蔵米

同日

一 山田八郎兵衛弟嘉四郎今日初而參

一 是喰捨被下、通ひ並ニ申付、則武弥七相部屋ニ申付

四月四日

- 一 野尻平十郎子平九郎初而入学、十一歳、右座
九日
- 一 日笠畏申自今日学房へ来居、入参校之列、十四歳、左座
四月廿日
- 一 守田三太郎次江参、読書習字仕度旨二付、任意
同日
- 一 幸元林庵子三省通ひ並二申付
廿九日
- 一 井上直全二詩経集注壹部被遣之
同日
- 一 豊平二四書集注壹部被遣之
晦日
- 一 山田嘉四郎自今日則武弥七部屋へ来居
五月七日
- 一 菅沼教之助元服仕二付、入大生之列
同日
- 一 岡三之丞改名助右衛門
同日
- 一 次之子武田庄五郎改名庄之助
同日
- 一 石津六郎兵衛子八三郎初而入学、左座
同日
- 一 小原善助居申客舎北之方へ半間通指出シ、自分二仕度旨二付、任意、出
来
同日
- 一 浪土菅甚五右衛門子清次郎、読書師匠並二毎日参校仕度旨願申二付、任意
同日
- 一 野中市左衛門子忠三郎初而入学、十四歳、右座
五月十七日
- 閏五月七日
- 一 善兵衛子勘六読書精出シ申二付、小学壹部被遣之
十七日
- 一 三宅八助子甚助初而入学、十一歳、右座
十八日
- 一 講堂之講釈止
是窪田道和依病中也
十九日
- 一 山田嘉四郎二夏羽織被遣之
是禿頭二付如斯
廿一日
- 一 今明後三日穩便二可仕旨日置猪右衛門殿被申渡
是丹州君御病人依死去也
廿三日
- 一 昨今参校并講釈止
右同断
廿七日
- 一 土用二入参校止、如例
五月廿七日
- 一 土用中内講習自朝四ツ始メ申筈二相定ル
六月九日
- 一 御書物并御道具今日虫干仕ル
十二日
- 一 校内之諸生師匠中御振舞有之、如例
十七日
- 一 参校始ル
同日
- 一 内講習自今日晚七ツ時二始ル
十八日

- 一 熊谷十左衛門講釈聴聞二初而出ル
廿三日
- 一 浪士酒井久八右同断
七月二日
- 一 林安兵衛子安之助初而入学、十四歳、左座
三日
- 一 松浦寛之丞講釈聴聞二初而出
同日
- 一 荒尾長兵衛右同断
同日
- 一 伊藤李兵衛舍弟武右衛門右同断
十八日
- 一 井上長八郎右同断
廿三日
- 一 井上八郎右衛門右同断
同日
- 一 神部権之丞右同断
七月廿三日
- 一 町医者岡本道以子藤田東亘講習聴聞二初而出
八月二日
- 一 染人来校
是明日御廟祭依有之也
三日
- 一 染人婦
十日
- 一 日笠畏申丹州君御屋敷へ今日引越
十三日
- 一 市浦清七郎閑谷积菜二付一昨十一日二参、今日帰
十五日
- 一 居相孫八郎親類之儀二付遠慮仕、不出
同日
- 一 津沢万次郎初而入学、九歳、左座
十八日
- 一 小原善助病氣本復二付、自今日講堂之講釈勤
同日
- 一 日笠畏申自今日復学房江来居
是学校江入置、学問為致候様二与丹州君御意之由、羽原加兵衛・遠藤定平承二而泉八右衛門江被仰越、如斯
九月十五日
- 一 居相孫八遠慮之儀令免許、自今日出勤
十九日
- 一 上嶋彦次郎子長七郎初而入学、十五歳、右座
廿四日
- 一 村尾如入子三順講釈聴聞二初而出
同日
- 一 丹後屋源兵衛子平三郎右同断
十月二日
- 一 内講習詩経今日終
七日
- 一 書経講習自今日始ル
是富田助六・井上亘全兩人代ル可講旨申付之
同日
- 一 井上亘全二書経集註一部被遣之
八日
- 一 主膳君蒞学
同日
- 一 生駒二郎吉自今参校仕間敷旨二付、除列座之札
廿三日

一番兵左衛門子与右衛門講習聴聞二初而出

同日

一田中真吉子才之助右同断

十月廿三日

一安藤平左衛門子竟之丞講習聴聞二初而出

十一月十五日

一学校付之下役人江御切手相渡ル

十八日

一荒尾猪左衛門子李右衛門講釈聴聞二初而出

同日

一伊木将監家来神一郎左衛門子忠吉右同断

廿日

一寒二入自今宵夜粥出之

十二月十五日

一参校止、如例

十六日

一校内諸生読書之師二蕎麦切振舞有之処、御簡略二付此儀止

同日

一市浦清七忌中

是依兄死去仕也

同日

一今日煤掃有之、御足輕出ル

廿二日

一内講習今日迄二而止

同日

一市浦清七自今日出勤

廿五日

一九鬼左六・淵本弥五八兩人読書師相勤候二付、小倉袴仕立二て巷下り宛被下之

十二月廿五日

一左之読書之師四人金子被下之

一金子貳百疋

一同 貳百疋

一同 貳百疋

一同 貳百疋

廿七日

一御用二付左之御役人今晚学校江参会有之、料理出之

池田左兵衛

下濃宇兵衛

外二

津田八助

宮部九八郎

一右之衆中何茂所望有之、夕飯後二小原善助講諭語

勝手肝煎給仕

泉 藤兵衛

小原宗助

泉八右衛門

松井七右衛門

横山伴助

佐々木半平

富田助六

井上宜全

神 小助

神 小助

廿八日

一大森隠岐・松末織部兩人月番二而出勤之節ハ、学房へ来居仕、於学厨喰捨被下候へ共、御簡略二付、来年方相止候旨申渡、并大森帯刀・金谷石見当地江出申節、喰捨被下候儀同断、但御祭御廟祭之節ハ何茂上下共於校厨支

長瀬問誰

早川権内

横山瀬兵衛

神 小助

上坂外記

浅野瀬兵衛

同 源吉

同 小源太

同 申吉

市浦善蔵

窪田道和

市浦清七

淵本弥三左衛門

同 清之助

幸元林庵

山田嘉四郎

幸元三省

同 笠畏申

居相孫八

岡田権六

中谷乍庵

度申付

廿八日

一素湯并香煎自今於校厨之炉仕掛ケ之候様ニ申付ル

是飲室ノ風炉釜近年於食堂西南之隅日々仕掛ケ有之候得共、御簡略ニ付

如斯、但シ參校并講習之節ハ、前々ノ通食堂ニて仕掛ケ之候様ニ申渡ヌ

晦日

一中室御掃除如例有之

一当年參校之諸生五拾九人

次之子共廿八人

元禄八乙亥年

正月朔日

一中室御鏡餅辰ノ刻横山半助開中室之扉、奉之

御鏡餅之飾如例

一蓬菜二ツ如例

一三ヶ日校厨料理右同断

五日

一読初之儀如例

諸生於講堂如例年

一開戸捲簾褰帳

一焚香俯伏 泉 八右衛門

衆皆再拜

一徹鏡餅

小原善助 松井七右衛門

一降帳垂簾閉戸

取次 居相孫八 富田助六 小原善助 松井七右衛門

畢而富田助六郎擊柝、孝經五等之孝ヲ同声ニ読之、次ニ小原善助講孝經ノ巻頭、畢而小原善助・松井七右衛門侍中室之左右、授胙諸生、堂中之諸生左右より一人宛詣中室、頂戴之任、退出

服中ニ付不參

市浦清七郎

一御鏡餅雜烹仕、奉行中并読書ノ師・次之子共・下役人学房中頂戴仕

雜烹

あつき 吸物 鮒 酒三献 さとう わり山せう

酒三献

正月五日

一左之諸生四人当年廿歳ニ付、御法之通除列座之札

沢 順迪 河村伝九郎 田中立軒

駒田延融

同日

一左之諸生七人自今參校仕間敷由断有之ニ付

塩川平七郎 浦上兵助 高桑勘太郎

馬場大助 春田菊之丞 藪井仁八郎

榎村市之丞

正月五日

一須賀友之助復參校、十七歳、右座

是佐藤弥八郎事也

同日

一左之諸生元服并成長仕ニ付、入大生之列

早川忠八郎 塩見生三 戸田雲節

立野友之助 糟谷源左衛門

同日

一新庄平吉只今迄次へ參校仕候処、元服ニ付自今參校不仕

七日

一内講習始申答ニ候得共、当日節句ニ付相延

同日

一校厨之善兵衛子勘六儀、内講習日ニ茶取ニ出勤仕ニ付、内講習有之節ハ於校厨夕飯給させ候様ニ申付

十七日

一参校始ル、雜烹酒出之、如例

同日

一宮部清四郎子九八郎初而入学、十四歳、左座

正月十七日

一御簡略ニ付左之通相定

一参校日昼飯止候事

一槍稽古日同断

一积菜之晚校内之諸生江御料理被下候儀止候事

一御人之晚御料理被下候儀止事

但

一参校并槍稽古初内講習始ニハ雜烹酒出之候事

一早川忠八郎読書ノ師ニ雇候間、参校日ニハ於学校朝支度申付、依之飯台

席之次第左之通改之

早川忠八郎

淵本弥五八

長瀬問誰

早川権内

横山瀬兵衛

正月十七日

一小仕置從池田佐兵衛触状之趣如左

一当年奉公人少ク可有之候間、出替居掛リニ被仰付候、若願在之者候者、

在之者ハ其郡奉行、町之者ハ町奉行ヘ其者ヲ遣可申届由、猪右衛門被申

候、且又先年被仰出候步行若堂文箱懷中仕候事并鎗持以下無用捨可申付

候、ヶ条之品々弥先年之通可有之旨ニ御座候、委細ハ子ノ歳御触之通御

心得可被成候、以上

正月十六日

十八日

一講堂之講釈始ル

廿八日

一高田弥右衛門子弥三郎講釈聴聞ニ初而出

二月六日

一樂人来校

是明後八日御廟祭依有之也

二月九日

一大森弥平次附食ニ仕、学房江来居之願申ニ付、任其意、座列岡田権六次也

十日

一积菜有之

是八日上丁ニ而有之候得共、八日御廟祭有之ニ付、今日有之、且唱贊之

儀自今年初

二月仲丁积菜之儀

唱贊

開戸捲簾褰帳

啓積 御名代 泉

八右衛門

献果

参神再拜

焚香再拜

献酒俯伏

告辞俯伏

辞神再拜

徹酒果

閉櫃

降帳垂簾

八右衛門

善 助

善 助

善 助

關戸

同前

礼畢

小原善助講論語卷頭、畢而善助・松井七右衛門侍中室之左右、授胙諸生、堂中之諸生左右より老人宛詣中室、頂戴之、直ニ食堂飯台ニ着

服中ニ付不参 市浦清七郎

御足輕八人 御廟人足式人

二月十七日

一 参校始ル

同日

一 中岡三庵願候而自今日読書ノ師ニ出、朝支度於学校申付、飯台席之次第八
横山瀬兵衛次也

十八日

一 御勘定衆藤村重右衛門次男定之助講釈聴聞ニ初而出ル

廿二日

一 岸本六右衛門子万十郎初而入学、十四歳、右座

同日

一 早川忠八郎附食ニ而学房江来居之旨願ニ付、任其意

是参校之列ニ候得共、兼而読書之師ニ被雇

二月廿九日

一 早川権内自今読書之師ニ不出旨断之

三月二日

一 自今日六日迄参校并内講習共ニ止、如例

十二日

一 小原善助当八日和意谷江参、今日帰

是依御墓祭也

四月十九日

一 左之諸生三人元服仕ニ付、入大生之列

吉田藤八郎

立野友之助

喜多嶋松之丞

廿四日

一 六廿元古改名宗仙

廿八日

一 山田藤四郎津田佐源太方ノ御用有之ニ付、今日從閑谷出、学房江来居

五月七日

一 中村辰之助初而入学、八歳、右座

八日

一 裏玄関ノ腰掛ケ仕直并人足部屋も校厨口江仕替候様ニ申付、今日出来

五月十日

一 山田藤四郎今日閑谷江帰

十九日

一 鈴木定右衛門今日從片上学房江来居

廿一日

一 侍從君今日御帰国ニ付、御家中御礼不濟内ハ参校止、如例

廿二日

一 御忌日ニ付、参校并内講習共ニ止

廿三日

一 武田庄之助只今迄次江参校仕候処、御断申退校仕

六月二日

一 参校始ル

同日

一 喜多嶋松之丞改名松左衛門

九日

一 今日土用ニ入参校止、如例

十七日

一 通之豊平・勘六郎読書精出ニ付、左之通御書物被遣之

一 五経白文 志部

豊平

一 四書集註 志部

勘六郎

六月十九日

一 御書物并諸御道具今日虫乾仕

- 廿二日
一 鈴木定右衛門今日片上江參
- 廿七日
一 從今日当月中參校并内講習共二止
是中川佐州君依御遠行也
- 七月朔日
一 自今夜当月中校厨門出入戌之刻切二申渡又
二日
一 自今日十六日迄參校止、如例
是残暑尔今依甚敷也
- 同日
一 三宅甚助退校仕
是父八助病死仕二付、甚助義御歩行組二依被仰付也
- 十七日
一 春木源之丞除列座之札
是父又五郎御追放依被仰付也
- 十八日
一 木村玄碩子玄春講釈聴聞二初而出ル
- 七月廿二日
一 參校并内講習共二止
是昨夜之大風雨、且池田内膳病死二付、内証二而一日遠慮依有之也
- 廿三日
一 講釈始
- 同日
一 田中意徳子意真講釈聴聞二初而出ル
- 廿四日
一 信州君御家来佐田又左衛門子権太郎初而入学、十歳、左座
- 八月八日
一 樂人来校
- 是明後十日御廟祭依有之也
- 十一日
一 樂人歸
- 同日
一 山根吉之助講釈聴聞二初而出
- 十二日
一 糟谷槌右衛門改名源左衛門
- 同日
一 佐々木半平・山田藤四郎從閑谷来校
- 十六日
一 山田藤四郎今日閑谷江歸
- 八月廿一日
一 淵本弥三左衛門并李兵衛和氣郡学校領へ參
是竹伐せ候二付、弥三左衛門ハ為見届遣之
但人足老人駄賃銀雜用銀増扶持御定之通被下之旨申渡
- 廿二日
一 佐々木半平今日閑谷江歸
- 廿八日
一 淵本弥三左衛門・李兵衛今日從学校領歸
- 晦日
一 佐々木半平・同清之助自今日学房江来居
- 九月十五日
一 樂人来校
是依御祭礼也
- 但自今御勘定部屋二居申様二申付
- 十七日
一 參校内講習共二止、如例
- 廿四日
一 校内宗門御改書上判形仕

十月四日

一備前君於武江御煩之旨ニ付、御家中於酒折宮御祈祷有之、依之校内之下役人申合、今酉之刻於酒折宮御祈祷仕ル

横山半助 淵本弥三左衛門 居相孫八

富田助六郎 幸元林庵 御廟附五人

十月五日

一備前君先月廿九日ニ御卒去之旨今日申来候ニ付、御家中穩便、校内も一切穩便ニ可仕旨申渡、尤參校并内講習共ニ止

十月廿三日

一内講習始ル

十一月十五日

一学校下役人江御支配切手出

十七日

一則武弥七郎へ只今迄炭入次第ニ渡候へ共、自今冬ノ内三俵宛被遣之候旨申付

同日

一椀方六兵衛暇ヲ願候ニ付、暇遣ス

廿二日

一參校始ル

十一月廿二日

一笹岡平七郎子次郎七講釈聴聞ニ初而出

十二月朔日

一寒ニ入ニ付、自今宵夜食粥出之

同日

一野中忠三郎元服仕ニ付、入大生之列

九日

一御人足仁助半俵御加増ニ而椀方ニ申付

十六日

一今日煤掃有之

十七日

一參校止、如例

廿二日

一人足壱人被召拘之、口津高郡尾上村ノ六助

廿五日

一御振舞有之

津田佐源太 同 八助 同 源吉

同 小源太 安田孫七郎 薄田兵右衛門

水野作右衛門

晦日

一中室御掃除有之

横山半助 淵本弥三左衛門

一当年參校之諸生六拾四人

内五人初而入学 佐藤弥八郎

岸本伝吉

宮部九八郎

中村辰之助

佐田権太郎

元禄九丙子年

正月朔日

一中室御鏡餅辰ノ刻横山半助開中室ノ扉、奉之

御鏡餅之飾如例

一蓬菜ニツ如例

一三ヶ日校厨御料理右同断

五日

一 読初之儀如例

諸生於講堂如例年

一 開戸捲簾褰帳

小原善助

松井七右衛門

一 焚香俯伏

泉 八右衛門

衆皆再拜

一 徹鏡餅

小原善助

松井七右衛門

取次 居相孫八郎
富田助六郎

一 降帳垂簾閉戸

小原善助

松井七右衛門

畢而富田助六郎擊柝、孝經五等之孝ヲ同声ニ讀之、次小原善助講孝經卷

頭、畢而善助・松井七右衛門侍中室之左右ニ、授胙諸生、堂中之諸生從

左右耆人宛詣中室、頂戴之、退出ス

御鏡餅雜煮ニ仕、校内役人并読書之師・学房中・次之子共・勝手迄不殘

頂戴仕ル

ミソ

雑煮 あつき

吸物

ふな

さとう

わりさんせう

酒三献

正月五日

一 左之兩人当年廿歳ニ付、御法之通除列座之札

岡 助右衛門 河合七左衛門

同日

一 左之三人当年參校仕間敷断有之、除列座之札

荒尾長五郎 松井与之助

舟戸彈之進

同日

一 左之兩人元服仕ニ付、入大生之列

柴山益之助 丹羽半八

正月五日

一 中西弥二郎剃髮仕、改名柳直

同日

一 石津八兵衛子又八郎初而入学、八歳、右座

同日

一 学校領之名主年頭之礼ニ来ル、例年之通今晚於校厨雜煮并御料理被下之

七日

一 内講習初ル

十六日

一 服部図書・津田佐源太於学校御振廻有之、

十七日

一 參校初ル、諸生江ぼた餅并酒出之

是例年雜煮出筥ニ候処、間違無其儀急ニ有之ニ付、ぼた餅并酒三献出之

十八日

一 講積初ル

同日

一 槍遣初有之

是例年五日ニ有之候得共、師坂口勘左衛門氣色悪敷ニ付、如斯、雜煮・

酒三献出之

正月十八日

一 左之兩人勘左衛門弟子ニ成、從今日參会竹舎、槍稽古仕ル

柴 益之助 丹羽半八

廿二日

一 犬丸作内子伝之丞初而入学、十歳、右座

同日

一 三神三太郎右同断、右座

廿三日

一 野田屋町浪人岡部自休講積聴聞ニ初而出ル

廿四日

一 樂人金谷石見来校

是樂大鼓稽古仕ニ付、五日前より学校江出勤仕候様ニと寺社奉行庄野夫
左衛門右泉八右衛門江断有之、依之五日之間於学校喰捨申付、外之樂人
ハ御祭二日前より出勤仕管也

廿八日
一大森弥平次兒嶋より歸ル

同日
一讚州之浪士穴吹定平講釈聽聞ニ初而出ル
是富田甚之丞引請也

正月廿九日

一水野槌之丞十三歳、同金十郎十歳、初而入学、共ニ右座

晦日
一左之通今日被仰出ル

一二月上丁十日積菜之御名代泉八右衛門ニ被仰付、此以後毎度御名代可相
勤旨稻川佐内ヲ以被仰付

二月二日

一今日より十六日迄參校止、如例

三日

一講堂ノ畳損シ申ニ付、從泉八右衛門津田佐源大江令相談候処、郡会所ニ有
之畳表百枚指越之、依之講堂并左右之内塾畳表替、其古表を以食堂畳表替
出来

同日

一中室并飲室ハ小作事より表替仕、作事奉行手代江晚支度申付ル

同日

一早川忠八郎閑谷江參候由ニ付、除列座之札

二月四日

一高木平十郎元服仕ニ付、入大生之列

同日

一河原覚之助右同断

七日

一左之通申渡

一横山半助・淵本弥三左衛門諸事相代ミル相勤候事
一毎月中室之御掃除右同断

一大礼儀式之節ハ小原善助・市浦清七郎・松井七右衛門右三人之内壹人宛
御掃除ニ出勤仕候様ニ相定

二月十日

一今日積菜有之

二月上丁積菜之儀

唱賛

淵本弥三左衛門

開戸

市浦清七郎
松井七右衛門

捲簾裏帳

清七郎
七右衛門

啓櫃

御名代 泉 八右衛門

マンチウ

三方 アリヘイトウ

清七郎

献果

カヤ

三方 強飯

七右衛門

ノシ

參神再拜

焚香再拜

八右衛門

酒注 清七郎

献酒 醴酒 俯伏

八右衛門

捧蓋 七右衛門

告辞俯伏

八右衛門

辞神再拜

徹酒果

清七郎

七右衛門

閉櫃

八右衛門

降帳垂簾
清七郎
七右衛門
清七郎
七右衛門

闔戸
清七郎
七右衛門

礼畢
小原善助講論語卷頭、畢而市浦清七郎・松井七右衛門侍中室之左右、授胙
諸生、堂中諸生從左右老人宛詣中室、頂戴之、直ニ食堂飯台ニ着
献立覺
大こん きくらげ
汁 さくく
膾 たい くり
たうふ
ふりこ せうか
煮物 たうふ
かまほこ
引而かうの物 あさつけ
ほしこり
菓子 まんちう
せんしちや
朝飯給候人数覺
吉田藤八郎 柴山益之助 河原覚之助
泉 申吉 岡嶋定之助 小原宗助
日笠畏申 市浦善藏 喜多嶋次郎四郎
宮部九八郎 守田小吉 中西柳直
石津八三郎 水野梶之丞 岩田丑作
佐田権太郎 窪田卯之介 水野金十郎
塩見生三 戸田雲節 今井猪之介
立野友之介 喜多嶋松右衛門 丹羽半八郎
高木平十郎 上島長七郎 六甘宗仙
柴山数之丞 岸本万十郎 水野助四郎
野尻平九郎 大森貞安 佐藤永之介

犬丸伝之丞 中村辰之介 三神太郎
石津又八郎
居掛り衆
守田与五郎 佃 兵内 中川来助
中村金助 服部安之丞 中村又右衛門
木梨元貞 吉田儀左衛門 石原藤藏
泉 八右衛門 小原善助 市浦清七郎
松井七右衛門 泉 藤兵衛 坂口勘左衛門
窪田道和 横山半助 淵本弥三左衛門
駒田延融 淵本弥五八 長瀬問誰
中岡三庵 佐々木半平 九鬼左六
横山瀬兵衛 山脇清助 大森隠岐
横山玄隆 須々木伝吉 斎藤弥九郎
川上源太郎 香中権十郎 竹内権七郎
富田助六 幸元林庵 居相孫八
中山右衛門 岡田権六 大森弥平次
佐々木清之助 山田嘉四郎 井上宜全
神 小介 幸元三省 花房又三郎
則武弥七 李兵衛 善兵衛
五兵衛 豊平 勘六
細工人 小原善助家来 御廟
安右衛門 藤九郎 利兵衛
御足輕八人 御廟ノ御人足式人
学校ノ御人足六人 出入仕候者四人
右人数凡百十一人
二月十六日
一侍従君・信州君蒞学如例、於聖前御上香俯伏再拜、畢而窪田道和講論語学
而之篇慎終追遠一章、畢而西舎へ御廻覽、從西階御歸駕
一御入之時泉八右衛門泮橋之両端迄奉迎、御先江立、從東階中室迄奉御

案内

- 一 開戸捲簾裏帳 泉八右衛門
- 一 御三方 (のし) 奉上 御児小性(性)
- 一 御書格ニ論語ヲ載奉上 同断
- 一 参校之諸生講堂之東西ニ着座 但御通之節前へ下座仕
- 一 津田佐源太参校仕、諸事見繕之 杉山与大夫
- 一 外門校門之辺見廻り御歩行横目 富田助六
- 一 校門東之押 横山半助
- 一 講堂ノ縁 東南隅 横山半助
西南隅 淵本弥三左衛門
- 一 飲室 岡田権六
- 一 御前へ出候物諸事拵置 幸元林庵
- 一 食堂ノ東ノ押 居相孫八
- 一 食堂ノ西廊下口押 九鬼左六
- 一 同西ノ廊下押 井上宜全
- 一 食堂西ノ方学房之諸生・次之方共着座 則武弥七
- 一 校厨ノ口押 御足輕式人
- 一 表門 同 式人
- 一 校門 同 式人
- 一 裏門 同 式人
- 一 玄關 同 式人
- 一 御帰駕之後、参校之諸生并師匠・学房中・次之子共、勝手迄不残出之 小頭壹人
- 赤飯 煮しめ たうふ こんにやく
かまぼこ こぼう 香のもの

二月十六日
 一夕飯ニ一種料理酒出之、横山半助・淵本弥三左衛門・居相孫八・幸元林庵
 学房中不残

二月十六日

一人来校

是明後十八日御廟祭依有之、大森带刀・大森隠岐・松末織部・金谷石見

十七日

一参校始ル

十九日

一楽人帰

廿二日

一梶取東原半左衛門参校日二次之子共並ニ参、讀書習字仕度旨願申ニ付、任

其意、自今日出、十六歳

(付紙)

二月廿三日

一市浦清七事御廟御用貞信ニ能勤候、御手附被成諸事御尋被成候ニ能濃ニ

申上、御意ニ応シ候、少文才有之者ハ何角才をあらハし、人の非をも申

之ニ、清七事ハ生レ付ニ而候へ共、左様ニ無之、実貞ニ有之候、只今迄

無足ニ而候、新知百五拾石被下候旨猪右衛門殿被仰渡」

三月二日

一自今日四日迄参校並内講習共止、如例

七日

一長瀬問誰米式俵被遣之

是甚貧窮仕ニ付、如斯

同日

一高木与一郎三男卯之助初而入学、十歳、右座

同八日

一丹羽治大夫家来石川甚六子一郎講釈聴聞ニ初而出

三月九日

一泉八右衛門・市浦清七昨八日ニ和意谷へ参、今日帰

是墓祭依有之也

十三日

一宮本小兵衛子小三郎初而入学、十歳、左座

廿二日

一自今日当月中參校並内講習共止

是侍從君近日依御參勤也

廿三日

一日本後記(尾)從京都三宅誠庵借り寄、左之諸生十人於食堂写之

駒田延融

日笠畏申

佐々木半平

九鬼左六

富田助六

長瀬問誰

岡田権六

横山瀬兵衛

井上宜全

中岡三庵

一写物奉行

窪田道和

一校合

横山半助

淵本弥三左衛門

居相孫八

幸元林庵

一手伝肝煎

淵本弥五八

神 小介

一右写物之間朝晩夜煎茶、昼飯夜食朝夕一種宛料理并酒出之候様ニ申付

三月廿六日

一日本後記(尾)今日出来仕、都合十冊

同日

一淵本弥三左衛門次男江戸へ遣置候ニ付、願有之、小仕置上坂外記江從泉八

右衛門願書相達候処、返書如左

一淵本弥三左衛門次男八蔵事、牧野備後守殿ニ居申伯父奥山五郎兵衛方へ

見廻ニ遣之候儀、猪右衛門殿へ申達候、勝手次第ニ被仕候様ニ御伝可被

成候、以上

三月廿五日

上坂外記判

泉 八右衛門様

三月廿七日

一内講習止

是侍從君明日依御出船也

四月二日

一參校始ル

同日

一曰長ニ候故、自今日諸生并ニ其外不殘江昼飯出之

同日

一左之諸生五人自当年寅ノ暮迄於学房勤学之限三ヶ年候間、其内随分精出候

様ニ泉八右衛門申渡、且以後不寄誰学房来居之分限、三ヶ年令退去候法式

ニ奉行中何も相議之

駒田延融

岡田権六

大森弥平次

山田嘉四郎

神 小介

同日

一次之子共読書ハ一六ノ日朝飯後參校仕、為致読書候筈ニ相定

四月二日

一大森隱岐不勝手ニ付、忰弥平次学校へ御相応ニ被召使被下候様ニ願申ニ付、

奉行令相談自今喰捨被下候筈ニ申付ル

同日

一佐々木半平父子共自今喰捨被下之、并明シ油等も被遣候筈ニ申渡

是半平義諸事校用相勤候ニ付、如斯

十三日

一九鬼左六断申候而宍粟へ行

十五日

一樂人来校

十七日

一樂人帰宅

同日

一林安之助除列座之札

是御兒小性(姓)ニ依被召出也

- 廿三日
一町医者沼本玄益子寿三講釈聴聞ニ始而出ル
同日
一町医者武井養貞子養達右同断
同日
一山根三郎右衛門次男又八郎参校并休日ニ参読書仕度旨願申ニ付、任其意、自今日出ル
五月二日
一自今日四日迄参校止、如例
七日
一参校始ル
八日
一佐治一郎休日ニ参読書仕度旨願ニ付、任其意、自今日出ル
是坂口勘左衛門妻弟也
十二日
一新田ニ居申浪人沢源兵衛子山上治大夫参校日ニ参、読書習字仕度旨願申ニ付、任其意、自今日出ル、十四歳
是読書ノ師匠並也
十四日
一伊庭平内弟竹松十五歳、同平蔵十三歳、初而入学
同日
一阿部七左衛門子久太郎右同断、十歳、右三人共ニ右座
十八日
一岩田孫十郎講釈聴聞ニ初而出
廿四日
一瀧波半弥初而入学、十歳、右座
五月廿四日
一山根又八郎自今参校日出、次之子共並ニ読書習字仕度旨依願、自今日次へ参校、十四歳
- 同日
一田中文十郎退校
是他所へ養子ニ参候ニ付、如斯
六月十三日
一淵本弥五八父弥三左衛門学房へ出入仕度願ニ付、任其意
同日
一則武弥七郎町宅仕度旨願申ニ付、任其意
廿日
一土用ニ入参校止、如例
廿八日
一御書物并御道具虫干仕候
七月九日
一土用明候得共、益後迄参校止、如例
十一日
一御廟ノ御道具虫干有之、従校厨昼奈良茶にしめ酒遣之
十七日
一参校始
同日
一横山藤八子市之助次へ参校仕度旨ニ付、任其意、自今日出ル、十一歳
是居相孫八郎甥ニ付、休日ニも参候而読書仕度旨、是又任其意
八月二日
一市浦善蔵元服仕ニ付、入大生列
一御賄方善兵衛子出生ニ付、齋木四郎左衛門江從泉八右衛門左之通指紙遣之
学校江召置候邑久郡下笠加村ノ善兵衛、前廉指状進之候、当五月廿八日
男子出生申候ニ付、人数之内老人増申候間、為御断如此ニ御座候、以上
八月八日
泉 八右衛門判
齋木四郎左衛門様
八月九日
一参校止

是女五宮御薨去二付、自昨八日明日迄御穩便之御触依有之也

八月九日

一 鈴木定右衛門為読書稽古、読書ノ師ニ出申度旨二付、任其意、依之參校日

二 八於学校朝支度申付

十一日

一 九鬼左六今日閑谷へ引越歸ル

是閑谷諸生多二付、帰候様ニ從津田佐源太申來、如斯

廿一日

一 衆人來校

是廿三日御廟祭依有之也

大森隱岐

松末織部

金谷石見

廿二日

一 鈴木定右衛門学房へ出入仕度旨二付、任其意

同日

一 上之町美作屋与三右衛門講釈聴聞ニ初而出ル

一 佐々木半平読書ノ師ニ出申度旨二付、自今日出勤

廿三日

一 今朝御廟祭ニ付、從学校弁当遣之候様ニ申付

是御在国之御時祭ニハ於御城不殘御役人中へ御料理被下候得共、御留守

年ニハ無其儀、且御膳立衆其外御廟役人中諸仕舞不埒ニ付、此旨泉八右

衛門申付、自今年初ル

八月廿三日

一 窪田道和講堂ノ講釈相勤ル

是小原善介閑谷へ參ニ付、如斯

同日

一 小原善助・佐々木半平閑谷積菜ニ付一昨廿一日參、今日歸ル

廿九日

一 參校諸生へ出申昼飯自今日止

是漸日短也

九月朔日

一 小原宗助元服仕候ニ付、入大生之列

十日

一 泉進吉右同断

同日

一 岡嶋定之助右同断

廿二日

一 岸本万十郎右同断、改名伝六

十月廿四日

一 池田大学殿家來福井元寿子道可講釈聴聞ニ初而出ル

十一月十一日

一 佐々木半平南方村郡会所菜園場之内ニて居宅御借被成ニ付、今日移ル

但父子共毎日通ひ候て於学校喰捨被下候儀并学房來居如前

十二日

一 御小仕置衆其外御用人衆如左学校寄合有之、料理出之

池田左兵衛

上坂外記

津田左源太

浅野瀨兵衛

八木惣兵衛

藤岡勘右衛門

庄野夫左衛門

国府四兵衛

伴 半兵衛

勝手

津田源吉

津田小源太

宮部九八郎

八木吉十郎

以上十三人

学校奉行中并

泉 藤兵衛

泉 進吉

小原宗助

市浦善藏

窪田卯之助

其外下用人学房中不殘いづれも罷出肝煎之

十一月十五日

一 学校下役人江御切米切手出申候

同日

一 十九日迄參校止

是本院様当日ニ崩御ニ付、御家中五日之間穩便可仕旨御触依有之也

廿二日

一 参校初ル、柴山数之丞自今日参校仕間敷旨断有之、除列座之札

同日

一 宮本小三郎右同断

是父小兵衛在江戸依被仰付也

廿八日

一 浜崎猪大夫講釈聴聞ニ初而出ル

同日

一 横山半助所ニ居申役介人何も横山玄隆所へ帰ル

十二月七日

一 参校諸生小豆粥出之

是寒依甚敷也

十二月十二日

一 豊平儀能相勤候由ニ付、為御褒美米志儀被遣之、校厨御番善兵衛・五兵衛

ニ相加り勤候様ニ申渡

同日

一 本兵衛校厨御番令免許、参校講習之節校厨ニ相話、御繕御普請之節出勤仕、

但御普請之節ハ喰捨被下候旨申付

同日

一 勘六読書精出し候ニ付、五経白文卷部被遣之、

十三日

一 寒ニ入自今宵夜食ニ粥出之、如例

十五日

一 参校止、如例

十六日

一 煤掃有之、如例

十七日

一日笠畏申付扶持之儀前々ハ正月ハ極月迄無差引老人扶持出し候へ共、向後

学校ニ而食給不申候節ハ、扶持米学校江出し不申候筈ニ相定ル

十二月廿三日

一 読書師匠ニ左之通被遣之、如例

一金子式百足

長瀬問誰

一同断

神 小介

一 袴地

淵本弥五八

廿五日

一 中室煤掃有之

廿六日

一 正月御鏡餅今日春之

晦日

一 中室御掃除、横山半助・幸元林庵・岡田権六・井上宜全出勤

一 今晚之御料理一汁二菜酒出之

一 当年参校之諸生五十七人

内退校五人 早川忠八

柴山数之丞

宮本小三郎

林 安之介

田中文十郎

初入学十老人 石津又八郎

犬丸伝之丞

三神三太郎

水野樞之丞

水野金十郎

高木卯之介

伊庭竹松

伊庭平蔵

阿部久太郎

瀧波半弥

宮本小三郎

元禄十丁丑年

正月朔日

一 中室御鏡餅辰之刻横山半助開中室之扉、奉之 居相孫八

岡田権六

御鏡餅之飾如例

一 蓬菜ニツ如例

もち いも 大こん

一雑煮 こほう やきたうふ 吸物 ふな さんせう 酒
するめ こんふ

二日、三日雑煮同前 二日吸物 はまくり 三日吸物 塩鯛

元朝

田作膾 汁 つみいれ こほう 大こん
しいたけ な

さしみ 鯉 いらり酒 めし
せうか 九年母

煮物 やきたうふ 大かつを
からし

引而かうの物

同晩

田作膾 ミそ

汁 かき 干な からし

煮物 いも こほう かつを めし

焼物 鱒

引而かうの物

二日朝

田作膾 すまし

汁 鱈 こんふ こせうのこ

煮物 たうふ こほう 山のいも めし

焼物 せい おろしせうか

引而かうの物

同晩

田作膾 汁 はまくり 大こん

煮物 白魚 な めし

焼物 ふり
引而かうの物

三日朝

田作膾 汁 な 山のいも からし

煮物 かまほこ やきたうふ 牛房 めし

焼物 いな おろしせうか

引而かうの物

同晩

田作膾 汁 きし こほう 大こん
しいたけ な

煮物 たうふ くず おろし大こん からし めし

牛房はりく

引而かうの物

五日

一読初如例、諸生於講堂着座如例年

一開戸巻簾褰帳

市浦清七郎
松井七右衛門

一焚香俯伏 泉 八右衛門

衆皆再拜

一徹鏡餅

市浦清七郎 居相孫八
松井七右衛門 富田助六

一降帳垂簾闔戸

市浦清七郎
松井七右衛門

畢而富田助六孝経五等之孝同声二讀之

但読書之師何茂講堂之中通りへ出テ読候儀自今年初ル、是諸生依不

同也

次二小原善助講孝經卷頭、畢而市浦清七郎・松井七右衛門侍中室之左右、授胙諸生、堂中從左右老人宛詣中室、頂戴之、退出

一御鏡餅頂戴、奉行・下役人・読書之師・学房中・次之子共・勝手迄不殘頂戴之

正月五日

一校門番人 泉八右衛門預 足輕式人

同日

一槍遣初有之、坂口勘左衛門出勤

同日

一穴甘宗仙成長三付、自当年大生之列(八人服カ)

同日

一左之諸生六人当年廿歳二付、御法之通除列座之札

菅沼数之助 原田次郎助 長屋伝次郎

塩見省三 戸田雲節 今井伝三郎

同日

一左之諸生六人自今參校仕間敷旨断有之三付、除列座之札

喜多嶋松左衛門 立野友之助 野中忠三郎

柴山益之助 伊庭源六 石黒藤五郎

同日

一左之次之子共四人元服仕三付、自今不出

竹内権七郎 斎藤弥九郎 須々木伝吉

東原半左衛門

正月五日

一土鉄砲中村弥右衛門次男弥左之介初而次へ參校、十歳

同日

一御徒清水善次郎三男善五郎右同断、十一歳

七日

一内講習始ル、雜煮酒ヲ出之、如例

十二日

一節分二付、今晚校厨料理一汁二菜酒出之

十三日

一自今宵夜食止

是依寒明也

十七日

一參校始ル、雜煮酒出之、如例

雜煮 こんふ するめ くしこ な

香ノ物 酒三献 飯台ニテ出ヌ

十八日

一講堂之講釈始ル

十九日

一御徒若林半兵衛子久太郎初而次江參校、十六歳

廿三日

一進藤小三郎講釈聴聞二初而出

二月二日

一自今日十六日迄參校止、如例

六日

一積菜

二月上丁積菜之儀

唱賛

開戸

捲簾裏帳

啓櫃 御名代 泉 八右衛門

献果

参神再拝

焚香再拝

参神再拝

焚香再拝

焚香再拝

横山半助

市浦清七郎

松井七右衛門

七右衛門

清七郎

清七郎

清七郎

七右衛門

七右衛門

八右衛門

献酒	八右衛門	俯伏	酒注	清七郎	守田小吉	中西柳直	石津八三郎
			捧盞	七右衛門	水野梶之丞	岩田丑作	津沢万次郎
告辞	備前国主従四位下権少将源綱政使臣泉八右衛門仲愛謹积菜敢告				佐田権太郎	窪田卯之助	水野金十郎
辞神再拜					糟谷源左衛門	須加友之助	今井猪之助
徹酒果		七右衛門			丹羽半八郎	高木平十郎	宍甘宗仙
閉櫃		八右衛門			岸本伝六	上嶋長七郎	榑原猪八郎
降帳垂簾		清七郎			水野助四郎	桜井奎三郎	野尻平九郎
闔戸		七右衛門			伊庭平蔵	大森貞安	佐藤永之助
		清七郎			犬丸伝之丞	高木卯之助	阿部久太郎
礼畢		七右衛門			瀧波半弥	中村辰之助	石津又八郎
小原善助講論語卷頭、畢而市浦清七郎・松井七右衛門侍中室之左右、授		清七郎			三神三太郎	右者參校諸生也	
昨諸生、堂中之諸生従左右老入宛詣中室、頂戴仕、直ニ食堂飯台ニ着也		清七郎			津田左源太	奥山素伯	岩田十太夫
献立		大こん	さくく		加世藤三郎	大橋友之丞	佃 兵内
膾 たつくり		汁 たうふ			中川来助	伴 与右衛門	松尾三太夫
なまこ		からし			松尾助九郎	笹岡二郎七	塩見省三
牛房					田中意真	丹羽小平太	岡 猪兵衛
煮物 焼たうふ		めし			右者居掛り		
雁					泉 八右衛門	市浦清七郎	小原善助
香の物 浅漬					松井七右衛門	窪田道和	泉 藤兵衛
菓子 ミつかん くし柿					坂口勘左衛門	鈴木定右衛門	駒田延融
せんし茶					横山半助	淵本弥三左衛門	佐々木半平
今朝飯台出諸士					淵本弥五八	長瀬問誰	中岡三庵
吉田藤八	泉 進吉	岡嶋定之助			居相孫八郎	富田助六	幸元林庵
小原宗助	河原覚之助	市浦善蔵			岡田権六	佐々木清之介	山田加四郎
日笠畏申	喜多嶋次郎四郎	宮部九八郎			井上宜全	神 小介	川上源太郎
					香中権十郎	山根又八郎	幸元三省
					守田三太郎	横山市之介	清水善五郎
					中村弥三之介	則武弥七	李兵衛

善兵衛 五兵衛 豊平

勘六 細工人 小原善助家来 藤九郎

御廟 御廟 預り小頭

治兵衛 長太郎 林 次太夫

泉八右衛門預り

御足輕八人 学校御人足六人 八百屋七人

二月十一日

一少将君来年御年賀二付、御家中一等二於一宮御祈禱仕ル二付、校内下役人

左之三人も御祈禱仕、惣名代居相孫八參詣仕

横山半介

居相孫八郎

幸元林庵

左之兩人ハ御年賀二差合除之

淵本弥三左衛門

富田助六

十二日

一御祓二箱頂戴仕

是御評定所江納申二付、今朝居相孫八郎御祓箱二ツ持參仕

一壹箱 横山半介

一壹箱 居相孫八郎

幸元林庵

二月十五日

一樂人大森帶刀・金谷石見兩人来校

是明十六日御廟祭依有之也

十六日

一今朝御廟江從校厨弁当一汁一菜并酒遣之、如例

同日

一樂人歸

同日

一參校始ル

同日

一豊平義只今迄年中銀六拾目宛被下候処、自当年米六俵宛被遣之旨申渡、当

春三俵、暮二三俵也

十八日

一小原善助講堂之講釈、自今日勤之

是窪田道和妻病死仕依忌中也

同日

一佐々木半平講堂之小学講釈、自今日勤之

右同断

廿二日

一佐分利久次郎初而入学、十三歳、左座

二月廿三日

一庄野夫左衛門子平三郎講釈聴聞二初而出

廿八日

一佐々木半平自今日両講釈共二相勤之

是小原善助依煩也

同日

一寺沢藤左衛門弟四郎八講釈聴聞二初而出

同日

一上嶋長七郎元服仕二付、入大生之列、改名浅右衛門

同日

一備中倉敷ノ町人露堂觀学、是河合清太夫方へ參、右之旨以市浦清七郎相達

奉行所、如斯

廿九日

一伊庭平藏改名久六

閏二月九日

一窪田道和忌明、自今日小学講釈勤之

廿七日

一孝経并小学ノ文字札出来、諸生中令取候儀自今日初ル

是四ツ半後出之、其諸生取候札数之依多少極着座之次第、九ツ打候而退也

三月七日

一石黒藤兵衛次男槌之助初而入学、十一歳

三月十日

一泉八右衛門・小原善助一昨八日ニ和意谷江参、今日帰

是依御墓祭也

十三日

一早川甚六子孫平講釈聴聞ニ初而出

同日

一竹岡次郎右衛門子権右衛門右同断

十九日

一参校衆へ自今日昼食出

廿六日

一中室屋根損シ候ニ付、從小作事繕被仰付、昨今両日ニ出来、左之作事奉行

ニ昼飯并晚飯(台酒)出之

井上平七郎

松田定兵衛

晦日

一中室御繕成就ニ付、御神位今日奉安置中室

五月十四日

一難波忠右衛門子才兵衛次之子共並ニ初而参校、十四歳

十七日

一自今日当月中参校止、如例

是昨日少将君御帰城被遊ニ付、御家中御礼不濟内ハ如斯

六月朔日

一土用入参校止、如例

十六日

一御書物并諸御道具虫干有之、如例

廿二日

一参校始ル

廿四日

一松末織部甥松末平助次之子共並ニ初而参校

是丹州君森十左衛門親類ニ付、從十左衛門方参校也

一今日御廟之御道具虫干有之ニ付、從校厨昼奈良茶酒遣之、如例

七月朔日

一自今日当月中校厨之門出入限戌之刻、如例

二日

一今明之参校止、諸生中へ廻状出

是森美作君御遠去ニ付、穩便ニ可申付旨昨晚御触依有之也

同日

一本多亀次郎君御遠去ニ付、自今日六日迄穩便ニ可仕旨御触有之

七月七日

一参校止、如例

同日

一窪田卯之助剃髮仕、改名順知

十七日

一参校始ル

十八日

一講堂之講釈佐々木半平勤之

是小原善助産穢依有之也

同日

一羽原加兵衛次男五平太講釈聴聞ニ初而出ル

廿二日

一邑久郡福里村喜太郎子長七郎講釈聴聞ニ初而出ル

是長瀬問誰方江来居、從問誰参校也

- 廿三日
一 講堂之講積孟子今日終ル、佐々木半平講之
- 廿八日
一 講堂之講積自今日中庸始、小原善助講之
- 八月二日
一 横山瀬兵衛ニ自今喰捨被下候旨申渡
- 同日
一 次之子共読書日少ニ付、向後一ヶ月ニ六日宛五十ノ日ニ參、読書仕、其日之当番指図次第左之四人為致読書候様ニ申付
佐々木清之介 山田加四郎 豊平
- 勘六 但勘六儀其節朝飯被下旨申渡
- 八月四日
一 樂人松末織部・金谷石見來校、但大森隱岐ハ自分御宮之祭礼ニ付、參不申
是明後六日御廟祭依有之也
- 同日
一 勘六郎ニ自今毎日喰捨被下候旨申渡
- 七日
一 樂人歸
- 十二日
一 參校日之講堂小学善行之講積今日終ル
- 十四日
一 講堂之講積今日從小学句読序初ル
- 廿六日
一 富田助六儀和氣郡学校領之竹為伐之候故、參候様ニ申付、今日參ル
但御扶持方式人増雜用銀一日三分宛駄賃差足分被下之旨申渡
- 八月廿六日
一 李兵衛右同斷
但前々ノ通申渡
- 廿九日
- 一 佐々木半平近日閑谷積菜有之ニ付、今日參
同日
一 參校日ノ昼飯今日迄ニ而止、如例
- 九月三日
一 紙屋町之醫師岡嶋可祐并子幸右衛門次男友賢以上三人講積聴聞ニ初而出ル
同日
一 富田助六今日從学校領歸
是宗門御改判形仕ニ付、李兵衛ニ先達而歸
- 五日
一 李兵衛今日從学校領歸
- 十日
一 学校領働村之多兵衛米志俵被下之
是働村之大藪兼而多兵衛ニ預置候処、御赦念入候故、竹能出来ニ付、為御褒美被遣之也
- 十二日
一 小嶋龜右衛門子甚之助初而入学、十一歳、左座
- 十四日
一 食堂之炉今日開之
是例年十月二日開候得共、当年寒氣甚敷候ニ付、如斯
- 九月廿二日
一 御留帳書御徒山口孫平・仁科武太夫兩人、市浦清七郎宅江參、御用相勤候
日者於学校支度仕候筈ニ申渡
- 廿五日
一 横山瀬兵衛学校御勘定有之節ハ手伝ニ出座候様ニ仕度旨、淵本弥三左衛門相達奉行所候処、其通申渡、自今日出勤仕ル
是瀬兵衛儀算勘依有之也
- 廿七日
一 自今日廿九日迄參校止
是備前君御一周忌於国清寺御法事依有之也

十月七日

一 富田助六忌中二付不出

是兄惣次郎依病死也

十月十七日

一 内講習止

是人数少故也

十八日

一 今日之講釈佐々木半平勤之

是小原善助御能拜見被仰付依登城仕候也

廿七日

一 横山半助・淵本弥三左衛門御能拜見被仰付二付、泉八右衛門同道二而登城

仕

是今度御家中之士於御城御料理被下、御能拜見被仰付也

同日

一 内講習止右同断

廿八日

一 高崎長庵弟子高島了伯講釈聴聞二初而出

同日

一 大原休節右同断

十一月四日

一 富田助六出勤

是兄惣次郎名跡ニ願上候二付、忌明候ハ、罷出候様ニと從泉八右衛門申

遺、如斯

十一月五日

一 学校附之御徒左之三人御能拜見并御料理被下二付、今日泉八右衛門召連、

登城仕

居相孫八郎

富田助六郎

幸元林庵

六日

一 淵本弥惣左衛門・稲川佐内、沢一学支配之御中小性^(姓)ニ被仰付、学校御用御

赦免、御祠堂之役被仰付

八日

一 池田玄蕃殿家来岩室九左衛門講釈聴聞二初而出ル

同日

一 布施寿庵子三益右同断

十日

一 淵本弥三左衛門今日御礼申上ル

十六日

一 校内之下役人へ御支配切手出

十七日

一 槽原猪八郎自今參校仕間敷由断有之ニ付、除列座之札

十九日

一 信州君御家来多賀十兵衛子平十郎初而入学、九歳、右座

十一月廿二日

一 荒尾猪左衛門三男宇市郎初而入学、十一歳、右座

廿四日

一 寒二入、自今宵夜食粥出

廿七日

一 武田内記江御預被成御笛返上納、文庫

十二月朔日

一 富田助六ニ兄惣次郎跡目被仰付、御徒組ニ御入候旨泉八右衛門申渡

同日

一 学校留帳居相孫八郎当分記録之仕候様ニ泉八右衛門申渡、自今日記之

是只今迄富田助六記之候ニ付、如斯

五日

一 御船頭河本佐次右衛門講釈聴聞二初而出

同日

一 池田鞆負殿家来粥川七左衛門右同断

九日

一 則武弥七郎学校御徒ニ被仰付、五俵ニ一人扶持御加増、都合式拾俵ニ三人扶持被下之旨申渡

同日

一 淵本弥三左衛門自今日学校御用相勤

是弥三左衛門儀參校并講釈日ニ出勤候而学校御用相勤度旨泉八右衛門迄

申二付、其趣御老中江八右衛門相達、其通ニ被申渡、如斯

十二月十二日

一 中岡三庵御断申、自今読書ノ師ニ不出

十四日

一 參校今日迄ニ而止、如例、昼飯出之

十六日

一 煤掃有之、如例、泉八右衛門預り之御足輕七人參、校内下役人朝夕飯台并

昼粥酒出之

十七日

一 井上宜全儀只今迄銀札九拾七匁被下候処、自今銀五枚被下旨泉八右衛門申

渡

是文学上達シ学用精ニ入依相勤也

同日

一 御人足六助半俵之御加増被遣之旨申渡

一 左之写物自今日何茂於食堂写之、煎茶昼奈良茶出之

秀頼記

細川両記

大坂日記

細川物語

結城戰場別記

関東兵乱

細川両家後之卷

右之筆者

駒田延融

日笠畏申

佐々木半平

居相孫八郎

岡田権六郎

横山瀬兵衛

井上宜全

神 小介

横山半介

校合

神 小介

横山半介

窪田道和

幸元林庵

則武弥七

十二月十七日

一 慈雲院殿今月十一日ニ御逝去ニ付、自今日三日諸事穩便可仕旨御触有之

廿二日

一 内講習止

是依御穩便也

廿三日

一 左之写物自今日初、諸事右同断

是最前之写物出来ニ付如斯

陸奥話記

謙信記

真田記

毛利元就記

備中兵乱記

宇喜多記

十二月廿三日

一 節分ニ付今晚校厨料理一汁二菜酒出之

同日

一 寒明自今宵夜食粥止

廿四日

一 幸元林庵子三省付食ニ而学房へ来居之旨願申ニ付、任其意、自今日參

同日

一 山田加四郎江仕立上下老具被下

是依元服仕也

同日

一 人足仁介半俵御加増被遣、部屋頭ニ申付ル

廿五日

一 左之読書之師三人へ金子被遣之、如例

一金子貳百疋

長瀬問誰

一同断

横山瀬兵衛

一同断

神 小助

廿六日

一 中室御鏡餅今日搗之、如例

十二月廿七日

一山田嘉四郎自今日学房二居
是依元服仕也

晦日

一今晚校厨料理一汁二菜二酒出之

一当年参校之諸生四拾五人

次之小子九人

元禄十一戊寅年

正月朔日

一中室御鏡餅辰之刻横山半助開中室之扉、奉之 手伝 居相孫八

御鏡餅之飾如例

一蓬菜二ツ如例

もち いも

一雑烹 大こん こほう

やきたうふ するめ

こんふ

吸物 ふな
山せう 酒

二日、三日 雑烹同前 二日吸物 はまくり 三日吸物 塩鯛

元朝

田作鱈 汁 つみいれ こほう 大こん
しいたけ な

さしみ 鯉 いろ酒 めし

せうか 九年ほ

焼たうふ 大かつを

烹物 からし

引而かうの物

同晩

田作鱈 汁 かき ほしな
からし

烹物 いも こほう めし
かつを

焼物 鰯

引而香物

二日朝

田作鱈 汁 たら こんふ
こせうのこ

烹物 たうふ 牛房 めし
山のいも

焼物 せい おろしせうか

同晩

田作鱈 汁 はまくり
大こん

烹物 白うを めし
な

焼物 鰯

引而香物

三日朝

田作鱈 汁 菜 山のいも
からし

烹物 かまほこ やきたうふ めし
こほう

焼物 いな

おろしせうか
引而かうの物

三日晩

田作鱈

汁

雉子 牛房

大こん しいたけ な

烹物

たうふ くす
おろし大こん

めし

牛房はりく

引而香物

正月五日

一読初之儀如例

諸生講堂着座如例

一開戸捲簾褰帳

松井七右衛門

淵本弥三左衛門

一焚香俯伏

小原善助 泉八右衛門腫物氣二付不出故善助勤之

衆皆再拜

一徹鏡餅

松井七右衛門
淵本弥三左衛門

取次

居相孫八
則武弥七

一降帳垂簾閉戸

松井七右衛門
淵本弥三左衛門

畢而読書之師講堂之中通りへ出、横山半助撃柝、孝経五等之孝ヲ同声ニ
読之、次ニ小原善助講孝経巻頭、畢而松井七右衛門・淵本弥三左衛門侍
中室之左右、授胙諸生、堂中之諸生從左右耆人宛詣中室、頂戴之、退出
也

正月五日

一御鏡餅奉行・下役人・読書之師・次ノ子共・勝手迄不殘頂戴之

雑烹 あつき さとう

吸物 鮒

酒三献

一校門番人 泉八右衛門預 足輕式人

同日
一槍遣初有之、如例、坂口勘左衛門出勤

同日

一日笠畏申成生任二付、入大生之列

但參校日読書之師二雇候旨申渡

一左之諸生四人当年廿歳二付、御法之通除列座之札

吉田藤八郎 須賀友之助 今井猪之助

糟谷源左衛門

一左之諸生四人自今參校仕間敷断有之、除列座之札

榎原猪八郎 河原覚之助 水野梶之丞

桜井杢三郎

正月五日

一今日參校之諸生

左大生 泉 申吉 岡嶋定之助 小原宗助

小生

市浦善蔵 喜多嶋次郎四郎

守田小吉 中西柳直

岩田丑作 佐分利久次郎

佐田権太郎 窪田順知

石黒槌之助 児嶋甚之助

右大生

上嶋浅右衛門 丹羽半八郎 高木平十郎

小生

宍甘宗仙 岸本伝六郎 水野助四郎

野尻平九郎 伊庭久六郎 大森提安

佐藤永之助 犬丸伝之丞 高木卯之助

阿部久太郎 瀧波半弥 荒尾宇一郎

中村辰之助 三神三太郎 石津又八郎
多賀平十郎

正月五日

一 左之次之子共四人元服仕三付、自今不出

川上源太郎 香中権十郎 若林久太郎

山根又八郎

同日

一 学校領名主年頭之礼ニ参、今晚於校厨雜烹并一汁三菜ニ酒被下之、如例

七日

一 七種雜水、次引替一汁二菜ニ酒出之、如例

九日

一 参河記写物有之、参会食堂写之、其人數如左

駒田延融 日笠畏申 佐々木半平

岡田権六郎 横山瀬兵衛 井上宜全

肝煎

神 小助 居相孫八郎 横山半助

校合

窪田道和 幸元林庵 則武弥七郎

正月十日

一 学校勘定始、昼雜烹酒出、晚二汁二菜酒出之、如例

同日

一 泉八右衛門長子藤兵衛病死仕

十二日

一 内講習止

泉藤兵衛依葬送之礼也

十五日

一 小豆粥引替一汁二菜酒出之、如例

同日

一 横山半助今日登城仕、御礼申上ル

同日

一 則武弥七郎去年男子致出生候ニ付、郡奉行江如左指紙遣之

一 津高郡花尻村則武弥七郎男子老人

去丑ノ十二月ニ致出生候間、為御届如斯御座候、以上

寅ノ正月十五日 泉 八右衛門書判

伊藤全兵衛様

正月十六日

一 写物今日迄ニ而止

是明日より依参校始也

十七日

一 参校始、雜烹酒出之、如例

雜烹 もち こんふ するめ くしこ な 香物 酒三献

同日

一 野崎用仲子用齋初而入学、十二歳、左座

同日

一 安宅権兵衛子門次郎、七歳ニ付見習ニ参校為仕度旨ニ付、任其意、初而出

十八日

一 講堂之講釈始

十九日

一 山田加四郎自今日読書之師相勤

廿日

一 写書物并筆者之覚

一 参河記卷一 井上宜全

一同卷二 日笠畏申

一同卷三 横山瀬兵衛

一同卷四 駒田延融

一同卷五 日笠畏申

一同卷六 神 小助

一同卷六 駒田延融

一同卷七 岡田権六郎

一同卷八 神 小助

一同卷九 井上宜全

一同卷十 日笠畏申

一同卷十一 佐々木半平

一同卷十二 居相孫八郎

一同卷十三 岡田権六郎

一同卷十四 補助 笹岡次郎七

一同卷十五 駒田延融

一同卷十六 横山瀬兵衛

一 参陽武編全集自一至三 一冊

佐々木半平

岡田権六郎

井上宜全

神 小助

右拾七冊紙数都合五百三拾六枚、正月廿日より廿七日迄昼夜書写、校合、

下緘共二出来仕候、但参校日講習日ハ自昼以後書之

校合

窪田道和

富田助六郎

幸元林庵

則武弥七郎

正月廿八日

横山半助

正月廿四日

一少将君御年賀二付、於一宮御家中一等二御祈祷有之、学校付之下役人も御

祈祷仕

横山半助

居相孫八郎

幸元林庵

則武弥七郎

今日卯ノ刻於一宮御祈祷始、惣名代二横山半助参詣

献上

鳥目

式拾疋

以上

二月二日

一 积菜有之、池田佐兵衛御名代被仰付

是泉八右衛門依服中也

唱賛

淵本弥三左衛門

開戸

市浦清七郎

捲簾裏帳

松井七右衛門

啓積

御名代 池田左兵衛

七右衛門

献果

清七郎

参神再拜

清七郎

焚香再拜

七右衛門

献酒俯伏

左兵衛

酒注 清七郎

告辞俯伏

左兵衛

捧盞 七右衛門

備前国主從四位下行左近衛権少将源綱政朝臣使臣池田左兵衛信起謹

积菜敢告

辞神再拜

七右衛門

徹酒果

清七郎

閉積

左兵衛

清七郎

降帳垂簾

清七郎

闔戸

七右衛門

礼畢

七右衛門

小原善助議論語卷頭、畢而市浦清七郎・松井七右衛門侍中室之左右、授

清七郎

清七郎

清七郎

昨諸生、堂中之諸生從左右老人宛詣中室、頂戴之、直食堂飯台ニ着

献立

鱈 田作 汁 ざくく
なまこ 大こん たうふ からし

烹物 牛房 たうふ めし
かまぼこ

香物 菓子 くし柿 銘々盆

せんし茶 今朝飯台出諸士

泉 進吉 岡嶋定之助 小原宗助

日笠畏申 市浦善蔵 喜多嶋二郎四郎

宮部九八郎 守田小吉 中西柳直

石津八三郎 岩田丑作 佐分利久次郎

津沢万次郎 佐田権太郎 窪田順知

水野金十郎 石黒槌之助 小嶋甚之助

野崎用斎 上嶋浅右衛門 丹羽半八

高木平十郎 穴甘宗仙 岸本伝六郎

水野助四郎 野尻平九郎 伊庭久六郎

大森提安 佐藤永之助 犬丸伝之丞

高木卯之助 阿部久太郎 瀧波半弥

荒尾宇一郎 中村辰之助 石津又八郎

三神三太郎 多賀平十郎

右者參校諸生

津田佐源太 同 八助 同 源吉

三宅誠庵 佃 兵内 大橋友之丞

寺沢四郎八 塩見生三 丹羽小平太

笹岡次郎七 結城与一右衛門 安宅権兵衛

玉井平之助 石原久甫 岡嶋幸右衛門

右者居掛

泉 八右衛門 市浦清七郎 小原善助

松井七右衛門 窪田道和 坂口勘左衛門

淵本弥三左衛門 横山半助 駒田延融

佐々木半平 淵本弥五八 長瀬問誰

居相孫八郎 幸元林庵 則武弥七郎

岡田権六郎 佐々木清之助 横山瀬兵衛

山田嘉四郎 幸元三省 井上宜全

神 小助 山上治太夫 難波才兵衛

守田三太郎 清水善五郎 中村七之助

李兵衛 善兵衛 五兵衛

豊平 勘六郎 花房又三郎

泉八右衛門預小頭 同人預り 学校

林 弥兵衛 足軽八人 人足六人

御廟ノ 同所 細工人

治兵衛 長太夫 弥兵衛

八百屋 清三郎

二月二日

一從今日十四日迄參校止、如例

五日

一写物初ル、学房中并岡嶋幸右衛門何茂食堂ニ寄合、写之

十六日

一写物止

是日

是日

是自明十七日依參校始也

十九日

一小原善助次男文次郎初而入学 八歳 左座

同日

一学房諸生講習初ル

是圖取ニ而巡講可仕旨申渡、会日并人数如左、於橋舎晚自七ツ時初、煎茶出之

四九 大学、小学二座宛

一大学 岡田権六郎

神 小助

一小学 市浦善藏

小原宗助

駒田延融

日笠畏申

佐々木清之助

横山瀬兵衛

泉 八右衛門

小原善助

窪田道和

横山半助

佐々木半平

二月廿三日

一伊木清兵衛殿家来松原四郎左衛門子久太郎講釈聴聞ニ初而出

廿四日

一後藤作之助初而入学、十四歳、右座

廿七日

一波多野八郎左衛門子弥八郎右同断、十五歳、左座

同日

一加々野伝助子弥太之助次江初而参校、十三歳

廿八日

一古田番右衛門講釈聴聞ニ初而出

廿九日

一加々野又助子弥太郎初而入学、十六歳、右座

三月二日

一自今日四日迄参校内講習共止

七日

一佐々木半平和意谷江今日参

是依御墓祭御用也

八日

一泉八右衛門・市浦清七郎和意谷江今日参

右同断

九日

一長田八弥初而入学、十歳、左座

同日

一泉八右衛門・市浦清七郎・佐々木半平從和意谷婦

三月十三日

一泉進吉改名文之丞

十四日

一洪谷千斎從学校麻上下壺具被遣之

是御廟付ニ被仰付致束髪、依改名千右衛門也

十七日

一梶川佐次兵衛子孫三郎初而入学、十一歳、右座

廿日

一喜多嶋二郎四郎元服仕ニ付、入大生之列

廿二日

一自今日当月中参校止

是少将君御参勤前ニ付、如斯

廿三日

一泉文之丞今日初而御目見申上ル

廿六日

一宍甘宗仙為医学上京仕ニ付、除列座之札

廿九日

一 食堂之炬今日塞

四月二日

一 参校始ル并自今日昼飯出、如例

四月二日

一 山川市内子小平次初而入学、十三歳、左座

同日

一 山川金左衛門子槌之助右同断

三日

一 山田嘉四郎坂口勘左衛門弟子ニ成、自今日坂口流槍稽古仕

四日

一 岡嶋幸右衛門読書之師ニ被履、自今日出勤

七日

一 近藤段四郎子門三郎次江初而参校、十一歳

九日

一 野間三之丞子伝八郎初而入学、十一歳、右座

十日

一 楽人之大森帯刀江御預被成候御笛返上之、文庫江納ル

十三日

一 講堂之講积今日中庸終ル

十五日

一 楽人大森隠岐・松末織部・金谷石見、以上三人来校

是依御祭礼也

四月十六日

一 大坂之町医松林陽軒観学

是横山半助同道也

十七日

一 楽人婦

十八日

一 講堂之講积自今日大学始

同日

一 丹羽治太夫子三平講积聴聞ニ初而出

同日

一 八田長太夫弟市次郎右同断

同日

一 磯部喜兵衛子三十郎右同断

廿三日

一 講堂之講积佐々木半平勤之

廿七日

一 書経之講習今日終

五月二日

一 自今日四日迄参校内講習共止、如例

四日

一 左之御用人参会学校、料理出

津田佐源太

津田八助

次ニ而料理出

岩田十太夫

勝手

泉 八右衛門

松井七右衛門

小原宗助

淵本弥五八

学房中

献立

鯛 あわひ

酒ひて 岩茸 からすミ

けん九年母

神 小左衛門

塩見生三

坂口勘左衛門

市浦清七郎

泉 文之丞

窪田順知

校内下役人

市浦清七郎

泉 文之丞

窪田順知

校内下役人

市浦清七郎

泉 文之丞

窪田順知

校内下役人

市浦清七郎

泉 文之丞

窪田順知

校内下役人

市浦清七郎

泉 文之丞

窪田順知

校内下役人

市浦清七郎

泉 文之丞

窪田順知

校内下役人

汁 ねいも やきたうふ

しいたけ 青山升

烹物 麩 梅干

めし

引而香物

鱈 あゆ 切たて
きんかん

焼物 小鯛 かけ汁酒
しやうか

さかな 小坂かまほこ

吸物 いろこ くりせん

茶請 水くり かわ茸

菓子 あんもち

惣通り

鱈 たい 大こん
切たて

汁 竹の子 しいたけ
大こん

烹物 麩 梅干

めし

やき物 たい かけ汁
しやうか

引而香物

五月七日

一内講習自今日初、春秋胡氏伝

是佐々木半平・井上眞全代ル講之

八日

一加藤平之丞子牛之助講積聴聞二初而出

十二日

一片瀬町にしや与兵衛内講習聴聞ニ出

同日

一森下町川崎屋清九郎右同断

十四日

一津田佐源太三男小源太初而入学、九歳、左座、兄源吉小生參校日ニ參、読

書仕度旨ニ付、任其意、佐々木半平教之

十四日

一守田小吉元服仕ニ付、入大生之列

十七日

一津田佐源太家来大原藤九郎并本立以上両人共、小源太供仕參ニ付、於校厨

読書仕度旨ニ付、任其意

同日

一神納養庵内講習聴聞二初而出

十八日

一御徒横目神戸又三郎子文右衛門講積聴聞二初而出

五月十九日

一学校繕之儀兼而不及大破内ニ修理可仕旨兼而御老中被申渡、依之津田佐源

太手より見分仕、繕可申旨、并校内奉行屋敷之儀ハ惣廻り之堀從学校繕之、

其外ハ只今迄之通相定

廿二日

一今日參校并内講習共止

是依御忌日也

六月朔日

一難波才兵衛元服仕ニ付、自今參校日ニ不出

三日

一御徒横目岡本六郎左衛門子平左衛門講積聴聞二初而出

十二日

一土用ニ入參校止、如例

同日

一横山市之助次江參校仕候処、断有之、辞校

同日

一横山兵四郎横山瀬兵衛ニ算学稽古仕ニ付、食堂迄出入仕度旨断有之、任其

意

六月廿四日

一学房之諸生巡講止

是今昼依有疾風迅雷甚雨雹降也

廿八日

一御書物并諸道具虫干有之、何茂手伝衆へ昼なら茶、朝夕飯台出之

七月朔日

一幸元林庵・井上宜全預ケ候御書物并諸御道具、淵本弥三左衛門・横山半助

兩人相改之候様ニ申付

同日

一校厨之門自今日当月中出入之限戌之刻ニ申付、如例

二日

一土用明候得共、十四日迄參校止、如例

是残暑尔今依甚敷也

四日

一諸生巡講止

是幸元林庵・井上宜全御書物之改依有之也

七月七日

一内講習止、如例

九日

一丹羽左京太夫君去月廿六日御卒去ニ付、自今日十一日迄三日穩便ニ仕、作

事才相止候様ニ御触有之

十七日

一參校内講習共止

是当月七日喜知姫様御卒去ニ付、自今日十九日迄三日穩便ニ仕、諸事堅

可申付旨依御触有之也

十八日

一講釈止

廿二日

一參校并講習共始

廿四日

一諸生巡講止

是病人依多有之也

八月一日

一青山源十郎二男小三郎初而入学、十五歳、左座

八月二日

一内講習止

是佐々木半平隙入、且井上宜全依病中也

四日

一諸生巡講止

是病人依多有之也

七日

一内講習止

是半平隙入、且宜全依病中也

九日

一參校并巡講共止

是備後福山江上使依御通也

十日

一校内不寝番有之

是上使青山播磨守殿於当町御一宿ニ付、堅火之用心就被仰付、御家中

不寝番校内下役人横山半助・幸元林庵代ル人足ニ析ヲ撃セ、并箱灯

燈壹ツ為持、自暮六ツ明ル六ツ迄半時代リニ夜廻り申付

一岡田権六郎・五兵衛・豊平不寝番并夜廻勤

一居相孫八郎間々ニ廻ル

一表門ニ有明并門番弥五助不寝番仕候様ニ申付

一泉八右衛門兩度出ル

一せんし茶并夜食なら茶

八月十三日

一小原善助忌中

是母病死依仕也

同日

一講堂之講釈佐々木半平勤之

右同断

十四日

一諸生巡講止

是病人依多有之也

八月十四日

一樂人大森隱岐參、大鞍稽古仕

是明後十六日御廟祭依有之也

十五日

一樂人松末織部・金谷石見來校

右同断

十六日

一御廟江弁当遣、如例

居相孫八郎 則武弥七郎

善兵衛

通

山田嘉四郎

豊平

勘六郎

同日

一樂人婦

十七日

一參校并内講習共止

是上使当町依御昼休也

十九日

一諸生巡講止

是役人中隙入依有之也

廿二日

一參校止

是安藤対州君去ル九日ニ御遠行ニ付、自廿日今日迄三日之内穩便ニ仕、

且打囃子鳴物咄寄合才停止之旨、但普請作事之儀者不苦由御触依有之也

八月廿六日

一市浦清七郎・佐々木半平閑谷学校積菜ニ付、当廿四日廿五日ニ參、今日歸

廿八日

一講堂之講釈大学今日終

廿九日

一參校日之昼飯今日迄ニ而止、如例

同日

一校内下役人宗門御改判形今日仕

九月三日

一講堂之講釈今日論語之序より講始

同日

一伊木清兵衛殿家來斎藤兵左衛門子伝太夫講釈聴聞ニ初而出

四日

一諸生巡講止

是役人中隙入依有之也

九月四日

一十三經註疏各部從京都到着、納文庫

是只今迄文庫ニ有之十三經磨滅落丁多、御用ニ立不申故、從泉八右衛門

京都三宅誠庵江申遣シ、代金九両貳歩、匣ニ入下着也

七日

一岡嶋幸右衛門自今日伊勢軍記写之

九日

一講習止、如例

十一日

一今并伝三郎・鈴木弥次兵衛自今晚於学校飯台出

是御留帳役仁科武大夫替也、但山口孫平共ニ三人也

十四日

一巡講止

是役人中隙入依有之也

廿一日

- 一松平伯州君之御室去ル九日御遠行ニ付、今明後三日穩便ニ可仕旨御触有之
九月廿二日
一參校并内講習共止
是右同断
- 十月二日
一食堂之炬今日開之
三日
一小原善助忌明出勤、自今日講釈仕ル
八日
一塩川源之丞子重助講釈聴聞ニ初而出
十三日
一山口屋弥右衛門次男新五郎講釈聴聞ニ初而出ル
同日
一李兵衛自今日忌中
是妻病死依仕也
- 十一月朔日
一竹奉行馬場惣左衛門・愛知彦六郎・御徒横目神戸又三郎手代御足輕式人飯
台酒出之
是校西薮竹伐せニ參候ニ付、如斯
七日
一善兵衛忌中
是娘病死依仕也
- 十一月十日
一李兵衛忌明自今日出勤
十五日
一校内下役人江御支配切手出
十八日
一善兵衛忌明自今日出勤
廿八日
- 一佐々木半平・同清之助今日上京仕
十二月二日
一馬場惣左衛門・愛知彦六郎竹伐せ候事今日迄ニ而仕廻
五日
一寒ニ入自今日夜食之粥出、如例
六日
一勘六郎ニ袴代銀札拾五匁被遣之
同日
一御人足五助・七助ニ御加増半俵宛被遣之
七日
一神小助於学房忌中
是姉依病死也
- 十三日
一今日檜檜古場江昼なら茶出之
是年内之依仕廻也
- 十二月十四日
一參校今日迄ニ而止、如例、昼諸生中へほた餅出ル
是依納之參校也
十五日
一左之諸生三人来年廿歳ニ付、除状如左
岡嶋定之助 上嶋浅右衛門 丹羽半八郎
一来年廿歳ニ御成候由ニ御座候、御法之通參校之札除キ申候間、左様ニ御
心得可被成候、以上
十二月十五日 泉 八右衛門 在判
一參校之諸生江触状如左
一各様来年も御參校可被成と思召御方ハ、御名之下ニ御書付可被下候、若
来年ハ御休可被成と思召候ハ、是又同前ニ御書付可被成候、御心次第
之儀ニ御座候故、様子承度如斯御座候
一来年も御參校可被成と思召候御方ハ、正月五日読初二而御座候、四ツニ

始申候間、其前ニ御揃候様ニ御參校可被成候、乍次而申進候、敢早重而御左右申間敷候

一服忌御座候御方ハ読初ニハ御遠慮可被成候、以上

十二月十五日 泉 八右衛門

十二月十六日

一神小助忌明出勤

同日

一岡嶋幸右衛門写候伊勢軍記校合共ニ出来

十七日

一幸右衛門自今日并伊記写之

十八日

一煤掃有之、朝夕飯台并昼あつき粥ニ酒出之、但晩なまこ鱈、汁かき、酒ハ

不出

十二月十九日

一諸生巡講止

是窪田道和依隙入也

同日

一岡田権六郎預り之飲室御道具自今横山瀬兵衛預之候様ニ申付

廿二日

一内講習今晚迄ニ而止

同日

一左之諸生四人入房限り三ヶ年ニ足り候故、各今日退校也、依之晩料理出之

駒田延融 岡田権六郎 山田嘉四郎

神 小助

献立

すまし 雁 大こん

向鱈 汁 牛房 しいたけ

せり ゆ

たうふ

めし

引而烹物 牛房

いも

香物

十二月廿四日

一沢源兵衛子山上治太夫付食ニ而学房へ来居仕度旨願ニ付、任其意

同日

一郡奉行伊藤李兵衛江從泉八右衛門申遣状如左

一津高郡花尻村則武弥七郎并妻共式人、拙者支配之者ニ而、宗門学校ニ而

相改候間、村々名歳帳ニ御付置、月次判形頭改共ニ御除被下候様ニと丑

ノ五月廿六日ニ指紙進置候、去暮十二月ニ男子老人致出生、御届申置候、

弥七郎事去暮学校付之御步行ニ被仰付候ニ付、宗門之儀学校ニ而相改候

間、自今以後右三人共ニ花尻村名歳帳御外させ可被下候、尤去年進之置

候指紙御返シ可被下候、以上

元禄十一年十二月廿四日

伊藤李兵衛様

泉 八右衛門在判

十二月廿四日

一左之読書之師四人金子被遣之、如例

一金子式百疋 長瀬問誰

一同断 横山瀬兵衛

一同断 神 小助

一金小判壹両 岡嶋幸右衛門

是読書之師并写物精ニ入勤候ニ付、如斯

廿六日

一餅搗如例、校内下役人学房之諸生江餅并酒出之

同日

一中室煤掃有之

同日

一学校領之名主勘定ニ參、夕飯酒出之

十二月廿七日

一左之兩人金子被遣之

一上下代金子百疋 淵本弥五八
一同断 山田嘉四郎

晦日
一今晚校厨料理一汁二菜三酒出之、如例
一当年参校之諸生四拾九人

次之子共七人

元禄十二己卯年

正月朔日

一中室御鏡餅辰之刻横山半助開中室之扉、奉之

手伝 横山瀬兵衛

井上宜全

御鏡餅之飾如例

一蓬菜二ツ如例

もち いも 大こん

一雑烹 こほう やきたうふ

するめ こんふ

二日 三日 雑烹同前 二日吸物 はまくり

三日吸物 塩鯛

元朝

田作鱈

つみいれ こほう
汁 大こん しいたけ
な

鯉 いろり酒

さしみ しゃうか

九年ほ

やきたうふ

めし

烹物 大かつを
からし
引而かうの物

同晩

田作鱈

いも

烹物 こほう

かつを

焼物 鰯

引而香物

二日朝

田作鱈

とうふ

烹物 牛房

山のいも

焼物 せい

おろししゃうか

引而香物

同晩

田作鱈

白うを

烹物

かき

汁 ほしな

からし

めし

たら

汁 こんふ

こせうのこ

めし

汁 はまくり
大こん

めし

焼物 鰯 な
引而香物

三日朝

田作鱈

かまぼこ

烹物 やきたうふ

こほう

焼物

いな

おろししやうか

引而かうの物

三日晩

田作鱈

とうふ くす

烹物 おろし大こん

からし

牛房はりく

引而香物

右何しも酒三献

正月四日

一節分ニ付今晚之飯台一汁二菜ニ出之

同日

一寒明自今宵夜食止

五日

一読初之儀如例
諸生於講堂如例

一開戸捲簾褰帳

市浦清七郎
松井七右衛門

一焚香俯伏 泉 八右衛門

衆皆再拜

一徹鏡餅

居相孫八郎
則武弥七郎

一降帳垂簾閉戸

市浦清七郎
松井七右衛門

畢而読書之師何茂講堂之中通りへ出、横山半助撃柝、孝経五等之孝ヲ同
声ニ読之、次ニ窪田道和講孝経卷頭、畢而市浦清七郎・松井七右衛門侍
中室之左右、授胙諸生、堂中之諸生從左右老人宛詣中室、頂戴之、退出
也

一御鏡餅学校奉行并下役人・学房中・読書之師・次ノ子・勝手迄不殘頂戴之

雑烹 あつき
さとう

吸物 ふな 酒三献

泉八右衛門預り

一校門番人

足輕式人

服中ニ付不参

小原善助

同日

一槍遣初有之、如例、坂口勘左衛門病氣ニ付不出、依之丹羽半八郎・市浦善
藏打太刀仕

同日

一左之諸生四人当年廿歳ニ付、御法之通除列之札

泉 文之丞 岡嶋定之助 上嶋浅右衛門

丹羽半八郎

五日

一左之諸生四人自今參校仕間敷断有之、除列之札

石津長兵衛 佐藤永之助 瀧波半弥

野尻平九郎

同日

一加之野八左衛門・青山小三郎元服仕二付、入大生之列

同日

一御徒神屋清左衛門弟権三郎初而次へ參校

同日

一学校領之名主年頭之礼二參、今晚於校厨雜烹并一汁三菜二酒出之

七日

一七種粥引替一汁二菜二酒出之

十日

一学校勘定初、昼雜烹二酒出、晚一汁二菜二酒出之

十二日

一内講習初、雜烹酒出之、如例

正月十四日

一学房諸生講習初ル、但シ自去寅年二月十九日始ル巡講也

是圖取二而巡講可仕旨申渡ス、会日并人数如左

四九 大学 小学二座宛

一大学 岡田権六

神 小助

一小学 市浦善藏

小原宗助

駒田延融

日笠畏申

佐々木清之助

横山瀬兵衛

一出席 泉 八右衛門

小原善助

窪田道和

横山半助

佐々木半平

正月十五日

一小豆粥引替一汁二菜二酒出之

十七日

一參校初、雜烹酒出之、如例

同日

一安宅門次郎自今日列二入、八歳、右座

是権兵衛子自去年為見習參校仕候処、如斯

同日

一塩浦屋助六郎内講習聴聞二初而出

十八日

一槍稽古始、坂口勘左衛門出勤、雜烹酒出之、如例

同日

一学校御繕作事從津田左源太手申付二付、自今日初、左之奉行兩人自今朝出

勤、支度於校厨仕之

村上助七郎

青木甚太夫

正月十八日

一山田五郎左衛門子治兵衛講釈聴聞二初而出

十九日

一參校内講習共二止

是依御繕有之也、但講堂之講釈ハ有之

同日

一岡嶋可祐子幸右衛門書経之筆記写之

廿日

一神小助自今日再学房江来居

是学校三ヶ年之限ニ而雖令退校候、其身學問精ニ入、尔今參校勤學仕ニ付、其趣役人中見及、依之令歸校、自当春又限三ヶ年、其内随分可致勤學旨申渡ス

同日

一 沢源兵衛子山上治太夫付食ニ而自今日学房へ来居

二月六日

一 自今日御繕作事止

是萩原近江守殿自江戸西国江渡海ニ付、牛窓御茶屋繕有之由ニ而、村上

助太夫・青木甚太夫牛窓江依參也

二月七日

一 积菜有之、如例

二月上丁积菜之儀

唱贊

開戸

捲簾褰帳

啓櫛

献果

焚香再拜

献酒俯伏

告辞俯伏

辞神再拜

閉櫛

降帳垂簾

備前国主從四位下權少将源綱政使臣泉八右衛門仲愛謹积菜敢告

八右衛門

八右衛門

八右衛門

八右衛門

八右衛門

八右衛門

八右衛門

八右衛門

闔戸

礼畢

窪田道和講論語卷頭、畢而市浦清七郎・松井七右衛門侍中室之左右、授

昨諸生、堂中之諸生從左右一人宛詣中室、頂戴之、直ニ食堂飯台ニ着

献立

大こん

なまこ

けん九年ほ

かまほこ

烹物

やかたうふ

かうの物

菓子

せんし茶

今朝飯台出諸士

小原宗助

喜多嶋次郎四郎

宮部九八郎

岩田丑作

佐田権太郎

窪田順知

小嶋甚之助

津田小源太

岸本伝六郎

伊庭久六郎

野崎用齋

小原文二郎

加々野弥太郎

大森提安

同前

さくく

汁

とうふさいのめ

からし

めし

市浦善藏

青山小三郎

波多野弥八郎

津沢万二郎

山川槌之助

石黒槌之助

長田八弥

高木平十郎

水野助四郎

後藤作之助

後藤作之助

後藤作之助

後藤作之助

後藤作之助

後藤作之助

後藤作之助

後藤作之助

後藤作之助

後藤作之助

後藤作之助

後藤作之助

後藤作之助

後藤作之助

犬丸伝之丞	高木卯之助	阿部久太郎	御廟ノ	同	細工人
荒尾宇一郎	中村辰之助	石津又八郎	利兵衛	長太夫	弥兵衛
三神三太郎	梶川孫三郎	野間伝八郎	八百屋	同	
多賀平十郎	安宅門二郎		清三郎	久太夫	
右者參校諸生			二月七日		
松原藤助	寺沢四郎八	熊沢宇平太	一柴屋新左衛門并子惣八郎、上之町兒嶋屋重三郎、右三人釈菜拜見ニ參		
大橋友之丞	佃 兵内	岩田十太夫	十四日		
加世藤三郎	小堀宇源太	塩見生三	一校内下役人江御支配切手出		
泉 文之丞	丹羽小平太	同 半八郎	同日		
中川来助	磯部三十郎	岩田孫十郎	一通之勘六郎ニ袴代拾五匁被遣之		
安宅権兵衛	松尾助九郎	石原休甫	同日		
右八居掛り			一諸生巡講始		
			十七日		
泉 八右衛門	市浦清七郎	小原善助	一參校始		
松井七右衛門	窪田道和	駒田延融	同日		
持病氣ニ付不出			一信州君御家来坂井伝吉子伝之助初而入学、十一歳、右座		
坂口勘左衛門	淵本弥三左衛門	横山半助	十八日		
佐々木半平	淵本弥五八	長瀬問誰	一講堂之講釈始		
岡嶋幸右衛門	中村嘉四郎	山根又八郎	二月十八日		
居相孫八郎	幸元林庵	則武弥七郎	一山下文左衛門講釈聴聞初而出		
佐々木清之助	横山瀬兵衛	井上直全	十九日		
神 小助	山上治太夫	松末平助	一衆人大森隠岐・松末織部・金谷石見来校		
守田三太郎	加々野弥太之助	清水善五郎	是明後廿一日御廟祭依有之也		
八右衛門小頭	同人預り		廿一日		
近藤門三郎	花尻又三郎	御足輕八人	一御廟江弁当遣之、并居相孫八郎・則武弥七郎・善兵衛・豊平・勘六郎參		
李兵衛	善兵衛	五兵衛	献立		
豊 平	勘六郎	御人足六人	學校		
			鱈		
			ほら 大こん	さくく	
			木くらげ しゃうか	汁	
				なたうふさいのめ	
				からし	

引テかうの物
酒

めし

廿四日

一諸生巡講止

是明朝御用人中寄合依有之也

廿五日

一左之御用人中今朝参会学校、料理出之

池田左兵衛

上坂藏人

津田左源太

浅野瀬兵衛

宮部清四郎

八木惣兵衛

勝手口

薄田兵右衛門

津田源吉

同 小源太

宮部九八郎

小林平二郎

泉 八右衛門

小原善助

市浦清七郎

松井七右衛門

窪田道和

泉 文之丞

小原宗助

市浦善蔵

窪田順知

淵本弥三左衛門

横山半助

日笠畏申

佐々木半平

淵本弥五八

長瀬問誰

居相孫八郎

幸元林庵

則武弥七郎

佐々木清之助

横山瀬兵衛

井上直全

神 小助

山上治太夫

松末平助

神屋権三郎

加々野弥太之助

清水善五郎

守田三太郎

李兵衛

善兵衛

五兵衛

豊平

勘六郎

人足六人

八百屋

同

魚屋

清三郎

久太夫

二郎兵衛

泉八右衛門預り

一玄関番人

足軽式人

二月廿五日之朝献立

貝焼

あわひ

くわい

汁

かけな

山ノいも たまこやき

なめすゝき
めし

引テ盆二向 こうのもの

よせたうふ くすあん からし

鱈 たいくり

しやうか めうと

焼物 ます わさび

肴

ひたし物 つくくたし よめな

にんしん けし

吸物 いらこ くり

しやうか

たいらき 青くし

茶漬 水くり川竹

菓子 つなし まんちう

二月廿八日

一浦上重右衛門子千助講釈聴聞二初而出

三月二日

一内講習止、如例

七日

一参校初

同日

一佐々木半平和意谷へ参

是御墓祭御用依有之也

八日

一泉八右衛門・小原善助和意谷へ参

右同断

九日

一小原善助従和意谷今日帰

十日

一泉八右衛門從和意谷今日歸

廿日

一佐々木半平從和意谷今日歸

廿四日

一宮部九八郎自今參校日ニハ不參仕、一六ノ旧讀日ニ參校仕度断有之、任其

意

三月廿七日

一水野三郎兵衛次男二郎助初而入学、十一歳、右座

晦日

一食堂之炬今日塞

四月二日

一自今日參校之諸生昼食出之、如例

四日

一作事奉行村上助七郎・青木甚太夫自今日出勤、繕作事初ル

折々出勤 村上小四郎

十一日

一李兵衛忌中ニ付、出勤不仕

是娘依病死仕也

十三日

一講堂之講釈止

是自今日依講堂之繕初ルニ也、但兩楹并外之丸柱根統仕ニ付、板敷尽ク

取、兩楹之根ヲ伐り、犬嶋之切石ニ任ル

十四日

一參校止

是中室之屋根葺替依有之也

十五日

一御神位今日文庫江奉移

四月十六日

一今井伝三郎・鈴木弥二兵衛兩人之内一人宛御繕見届ニ出勤

是相司見届青木甚太夫依煩、津田左源太如斯申付

十九日

一諸生巡講止

是窪田道和隙入依有之也

廿三日

一李兵衛忌中明、自今日出勤

同日

一青木甚太夫氣色本復仕、自今日出勤

廿四日

一諸生巡講止

是諸生依少也

廿七日

一内講習止

是依御繕也

五月二日

一窪田道和忌中

是弟宗兵衛依病死也

五月四日

一市浦清七郎・佐々木半平今日閑谷へ參

五日

一御繕作事止

是依節句也

六日

一佐々木半平今日從閑谷歸

七日

一市浦清七郎今日從閑谷歸

廿二日

一窪田道和忌中明出

六月四日

一 参校始

七日

一 豊平読書精出、五経之素読仕舞申候^二付、左氏伝一部被遣之

十五日

一 尾張中納言君去ル五日御卒去^二付、普請并鳴物此節無用、打はやしも仕間

敷旨御触有之

同日

一 御繕作事止

是依御穩便也

十七日

一 御繕作事始

六月廿三日

一 土用^二入、参校止、如例

廿七日

一 内講習止

是橘舎梧舎屋根葺替依有之也

廿九日

一 諸生巡講止

右同断

晦日

一 御繕止

是佐竹修理君依御卒去也

七月朔日

一 御繕初

同日

一 校厨之門自今日当月中出入之限戌ノ刻^二申付、如例

二日

一 内講習始

是自今一六ノ日^二有之筈^二相定

七日

一 今明^二日御繕止

是増姫依御卒去也

七月八日

一 御繕始

十一日

一 内講習始

同日

一 今晚作事奉行并下役人中へ飯台酒出之

十二日

一 佐々木半平福山へ参

是依津田左源太遣之

十三日

一 左之通從泉八右衛門居相孫八郎江申渡、依之学房之諸生暮六ツ時より他行

不仕候様^二申渡ヌ

一 此節方々御横目御出シ被成候由^二候、就其下々奉公人おとり候事ハ不及

申^二、おとり之場へも遣シ申間敷由、何も御申合候由^二候間、其御心得

二而何茂へ可被仰達候、殊ニ学房衆一円不被出候様^二可被達候、以上

七月十三日

泉 八右衛門

居相孫八郎殿

右之御触故、学房中六ツ切不出

七月十三日

一 井上宜全伯父望月安叔方^二病人有之^二付、参度旨願申^二付、任其意、参

十四日

一 御繕止

是依益也

十六日

一 佐々木半平自福山今日歸

十七日

一 参校始

同日

一 御繕始

十九日

一 諸生巡講始

廿三日

一 神小助暮候而寺沢藤左衛門所へ参度旨願申ニ付、任其意

廿八日

一 講堂之講釈始

同日

一 学校時之太鞍新敷仕筈ニ付、小笠原流并武用弁略ニ而泉八右衛門考之、左之通太鞍壹柄大坂江申遣

長 一尺五寸

徑 一尺三寸面ニ右巴黒ク書テ

胴 丸ミ四尺七寸木地

鋸 数一方ニ卅六ツ、

鐙 一ツ

桴 二ツ長八寸太サ二寸二分

小笠原流長瀬問誰書出如左

一 旗本太鼓胴ヲ黒クヌリテ、メツキノビヤウヲ打、ビヤウ数三十六、面ニ

青ク左巴ヲ書ク、クハン付緒打紅ニテ、肩ニ掛サセ打

一 諸手ノ太鼓ハ、木地ノ胴ニテ鉄ノビヤウ数ハ右同、右巴ヲ紋ニ付、寸法

ハ右同

太鼓大サ

一面指渡 一尺三寸

一 胴長サ 一尺五寸

一 同太サ 三尺九寸五分

両方ノ木口各一寸五分ヲトリニホソクスル也

一 囲ノ中広ハ遠音サシテ遠ク聞ニ依テ用也

一同撥ハ^{センタン}櫓ヲ用、長サ七寸

一同太サ 四寸八分廻リ

太鞍持スル凶

(空白)

八月三日

一 槍稽古始

同日

一 守田小吉自今日坂口勘左衛門弟子ニ成、坂口流槍稽古仕

九日

一 佐々木半平閑谷へ参

是依积菜有之也

十日

一 市浦清七郎閑谷へ参

右同断

十一日

一 内講習止

是佐々木半平逗留并井上宜全依病中也

同日

一 市浦清七郎自閑谷今日帰

十二日

一 佐々木半平自閑谷今日帰

十三日

一 伊木清兵衛殿家来吉田惣太夫子惣二郎講釈聴聞ニ初而出

十六日

一 井上宜全気色得快気、今日帰房

八月十八日

一 樂人金谷石見来校

是明後廿一日御廟祭依有之也

廿日

一 楽人大森隠岐・松末織部来校
右同断

廿一日
一 楽人帰

同日
一 佐々木半平煩二付、出勤不仕

廿九日
一 参校止

是本庄因州君御遠去二付、自今日三日御穩便之御触依有之也

同日
一 参校衆へ昼食今日迄二而止、如例

同日

一 楽人少キ由ニテ新楽人取立、来十七日之御祭礼ニ楽相勤候様ニ稽古可仕旨、
当廿一日御廟祭之節被仰出、則左之六人新楽人被仰付、於郡会所稽古仕、
但松末織部小神阿波ニ教笛候処、織部神用二付帰在仕候ニ付、其内居相孫
八郎ニ教之候様ニ泉八右衛門申渡入、依之阿波自今日学校江出勤候而笛稽
古仕

笙 近江子 見垣権少輔

同 带刀子 大守对馬

箏 八木山 八木左衛門

同 隠岐子 大森弥平次

笛 金川 小神阿波

同 織部子 松末左助

九月二日

一 校内下役人宗門御改判形仕

同日

一 神小助退校

是水野三郎兵衛江奉公仕二付、如斯

同日

一 学校御笛從武田内記返上仕候ヲ小神阿波拝借仕

九月二日

一 山根又八郎岡嶋可祐子友賢読書師ニ今日より御雇出勤仕
九日

一 中室之屋根葺替并壁上塗成就二付、今朝卯ノ半刻ニ御神位奉安置、左之面
ニ出勤

焚香俯伏

小原善助
横山半助

居相孫八郎

幸元林庵

則武弥七郎

御積奉昇 五兵衛

同 豊平

十一日

一 内講習止

是佐々木半平・井上宜全依相煩也

十二日

一 参校始

九月十二日

一 和田猪左衛門子善二郎初而入学、十三歳、右座

十三日

一 池田柰預り小頭山口弥三左衛門子清助講釈聴聞ニ初而出

同日

一 備後福山領御檢地清帳於学校相調候様ニ与被仰出、依之今日左之御役人学
校ニ参会、学校奉行も出合

鉄砲頭

御帳方元

鉄砲引廻シ

御帳奉行

同

田中真吉

同

村田弥兵衛

市川多兵衛

湯浅源左衛門

同

紙筆墨請込元 御小性組 同
松井勘八 犬丸作内

御賄 丹比七太夫
御徒横目 粟井十左衛門

九月十五日

一時之太鞍昨日從大坂到来二付、自今朝打之

同日

一左之楽人自今日来校、於桃舍下稽古仕

是依御祭礼也

大守隱岐

松末織部

金谷石見

八木左衛門

大守弥平次

松末左助

小神阿波

大守但馬

十六日

一内講習止

是依御祭礼前也

同日

一從大守帶刀返上仕候御筈、同名对馬拝借仕ル

十七日

一參校止、如例

同日

一衆人帰

廿二日

一戸田山城君御卒去二付、自今日三日鳴物延慮之旨御触有之、但シ參校ハ有之

九月廿三日

一講堂講釈窪田道和勤之

是小原善助依煩也

廿九日

一居相孫八郎儀引込

是舅上野吉右衛門依病死也

卅日

一佐々木半平病中快氣出勤

閏九月二日

一居相孫八郎自今日出勤

三日

一小原善助病中快氣二付出勤

同日

一赤座十郎兵衛講釈聴聞二初而出

同日

一市川多兵衛・田中真吉・松井勘八・犬丸作内・丹比七太夫・粟井十左衛門

參会有之

十一日

一御作事奉行村上助七郎・青木甚太夫今日仕廻候而帰

十三日

一宮城六兵衛第五郎兵衛講釈聴聞二初而出

十四日

一食堂之炉今日開

閏九月廿六日

一内講習止

是御帳御用意二付左之小作事奉行依来也

御徒横目

用瀬与七郎

伏屋善六郎

小林市郎兵衛

廿八日

一牧野又之進弟吉太夫講釈聴聞二初而出

四日

一諸生巡講習止

是明日煤掃依有之也

五日

一 煤掃有之、如例、昼あつき粥酒出之

十三日

一 李兵衛和気郡学校領へ竹伐ニ当月七日ニ参、今日帰

廿四日

一 内講習止

是從備後福山檢地帳到来、入文庫、但シ御書物ハ同所ニ階江上之

同日

一 自今夕御帳奉行村田弥兵衛并不寝番御足輕式人相詰ルニ付、夜食從校厨出之

十月廿五日

一 左之通諸生中江廻状遣之

学校江御檢地之御用人中参会有之ニ付、其内御参校御無用可被成候、始り候時分自是御案内可申進候、已上

十月廿五日

泉 八右衛門

諸生中

廿六日

一 左之学校下役人御帳御用方市川多兵衛・田中真吉兩人指図次第ニ為相勤候様ニ從御小仕置池田左兵衛方泉八右衛門江被申渡ニ付、役付如左

下賄

居相孫八郎

則武弥七郎

御賄方へ出シ入料理共

善兵衛

五兵衛

酒方油蠟燭たはこ共

李兵衛

御賄方帳付

豊 平

通イ

勘六郎

学校人足六人

十月廿七日

一 左之兩人飲室茶方ニ市川多兵衛・田中真吉申付ル

横山瀬兵衛

山上治太夫

廿八日

一 御檢地帳自今日始、左之三人每晚役人中退出之跡、火ノ本見廻り候様ニ右兩人申付

横山半助

佐々木半助

井上宜全

同日

一 食堂寝番御徒横目神戸又三郎・岡本六郎左衛門、老入ツ、昼夜相詰候ニ付、校内下役人之勤番止之

十月廿八日

一 自今朝御足輕番所如左

一 表御門 御足輕 式人

一 校門 同 式人

一 裏御門 同 式人

一 玄関 同 式人

一 校厨 同 式人

一 同所不寝番 御小人 式人

十一月朔日

一 窪田順知政千代君江被召出

六日

一 左之三人今日御役人之朝夕飯台肝煎ニ申付

土中

横山半助

士鉄炮并御徒

幸元林庵

在名主并百姓

井上宜全

十日

一左之兩人役替申付

紙筆墨方手伝

横山瀬兵衛

椀方

豊平

十五日

一校内下役人江御支配切手出

十二月五日

一佐々木半平今日江戸へ発足

是津田左源太用申付、如斯

十七日

一表門弥五助町宅仕候二付、従市川多兵衛・田中真吉町奉行江手紙遣之、其返事如左

御手紙致拜見候、然者学校表御門定番人弥五助妻子四人、山崎町大和屋作兵衛借屋、当分学校御用之内借宅仕らせ、此者共宗旨真言宗赤坂郡大松山蓮生院旦那二而、宗門之儀則武弥七郎手前二而改被申候間、借宅之儀可申付旨得其意奉存候、此手紙山崎町名主方へ可被遣之、此方へ申来候ハ、御紙面之通可申付候

卯ノ十二月十七日

上嶋彦二郎

市川太兵衛様

田中真吉様

十二月廿六日

一丹州君御家来上野吉右衛門妻子以上三人、今日居相孫八郎方へ引請

是吉右衛門死後跡目依不被仰付、如斯

廿八日

一今日来正月元旦二中室江供申御鏡餅搗之

元禄十三庚辰年

正月朔日

一中室御鏡餅辰之刻横山半助開中室之扉、奉之

手伝

居相孫八郎

横山瀬兵衛

御鏡餅之飾如例

一三ヶ日之校厨料理如例年、但シ從御帳方賄也

正月五日

一中室御鏡餅今晚徹之

居相孫八郎

則武弥七郎

同日

一左之学校役人今夜食堂二参会、御鏡餅頂戴仕之

泉 八右衛門 市浦清七郎 小原善助

松井七右衛門

淵本弥三左衛門 泉 文之丞

市浦善藏

小原宗助 同 文次郎

下役人人足迄不残

御帳奉行

御徒横目

雀部次郎兵衛 岡本六郎左衛門 御足輕御小人迄不残出之

廿一日

一御家中三分通被下候二付、左之校内下役人五人從学校三分通被下候之旨、

泉八右衛門申渡又

横山半助

居相孫八郎

幸元林庵

則武弥七郎

善兵衛

二月二日

一 居相孫八郎今朝御廟祭二付、出勤

但シ御帳御用有之三付、楽人中校内へ不来、從郡会所出勤也

十五日

一 泉八右衛門御廟學校奉行御赦免、且為隱居領拾人扶持被下之旨被仰出、跡

目無相違三百石文之丞ニ被仰付

同日

一 市浦清七郎五拾石御加増、都合式百石被下之、御近習ニ被仰付、御廟學校

惣奉行泉八右衛門跡役并評定所且御留帳御用只今迄之通相兼之可勤旨被仰

出

同日

一 淵本弥惣左衛門儀市浦清七郎跡役ニ御廟學校相兼可勤之旨被仰付

但シ松井七右衛門相役也

十六日

一 学校下役人江御支配切手出

是自今日市浦清七郎指紙也

三月十日

一 市浦清七郎・松井七右衛門和意谷へ御墓祭有之三付、一昨八日ニ参、今日

帰

十三日

一 小原善助・淵本弥惣左衛門御城御留守番判改被仰付

四月九日

一 御前様去ル二日ニ於江戸御逝去ニ付、穩便ニ可仕旨御触有之

十一日

一 勘六郎ニ銀壹枚被遣之

是刀ヲ指候様ニ与申付候故、為刀代如斯

五月廿一日

一 佐々木半平・同清之助父子共今日上京仕ル

是清之助儀、從津田左源太手京都之学者中村惕齋方江遣シ、為致学問候

二付、半平召連参也

六月九日

一 御檢地帳出来ニ付、今日備後福山へ被遣之、先此間御帳書并算者之出勤止

六月十日

一 山上治太夫婦在

是御帳方御用依無之也

十五日

一 井上宜全遠慮之儀有之三付、引込

是伯叔望月安叔遠慮ニ付、宜全も安叔宅へ帰、一所ニ遠慮也

六月廿三日

一 御帳御用初、大人数又如前出勤

是福山御檢地帳外ニ御国扣帳出来之筈ニ付、如斯

七月三日

一 幸元林庵自今日遠慮ニ而罷在

是世悴三省昨夕依立退也

十日

一 林庵今日遠慮令免許、出勤

八月三日

一 居相孫八郎御廟祭御用ニ出勤

同日

一 御廟江從校厨弁当遣之、如例、依之居相孫八郎・豊平・勘六郎参

但シ從御帳方御賄之内遣之也

八月六日

一 幔幕壹張今日從京都到着、但シ地加賀布十間引也

是积菜之節中室ニ張之可然旨、学校役人中相議、依之京都玉林茂一郎江

申遣、如斯、代銀三百目也

一 明七日积菜ニ付、中室并講堂為御掃除、御帳御用人中今昼九ツ時ニ退出也

一 积菜御名代池田左兵衛被仰付

八月上丁积菜之儀

唱贊	横山半助	佐分利久二郎	佐田権太郎	水野金十郎
開戸	松井七右衛門	石黒槌之助	小嶋甚之助	野崎用齋
捲簾裏帳	淵本弥三左衛門	伊丹久八郎	同 佐太郎	津田小源太
啓櫛	御名代 池田佐兵衛	病中不出	服中不出	指合不出
献果	市浦清七郎	水野助四郎	伊庭久六郎	後藤作之助
参神再拜	小原善助	高木卯之助	荒尾宇一郎	和田善次郎
焚香再拜	佐兵衛	梶川孫三郎	多賀平十郎	安宅門二郎
献酒俯伏	佐兵衛	守田与助	指合有之不出	不出
告辞俯伏	佐兵衛	岩田丑作	忌中不出	同断
辞神再拜	捧蓋 弥三左衛門	加々野弥太郎	山川小平次	同 槌之助
徹酒果	清七郎	阿部久太郎	大森提安	犬丸伝之丞
閉櫛	佐兵衛	坂井伝之助	中村辰之助	石津又八郎
降帳垂簾	七右衛門	右参校諸生衆	長田八弥	水野二郎助
闔戸	弥三左衛門	津田源吉	田中惣兵衛	湯浅源左衛門
窪田道和講論語卷頭、畢而松井七右衛門・淵本弥三左衛門侍中室之左右、授胙諸生、堂中之諸生從左右一人宛詣中室、頂戴之、直ニ食堂飯台ニ着於桃舎御料理出	七右衛門	村田弥兵衛	尾関平九郎	松浦角之丞
池田佐兵衛	七右衛門	泉 文之丞	小原宗助	丹羽小平太
田中真吉	泉 八右衛門	中川来助	守田与五郎	塩見生三
今朝飯台出人数如左	八右衛門	岡 猪兵衛	笹岡二郎七	丹羽半八郎
市浦善蔵	喜多嶋二郎四郎	結城権右衛門	佃 兵内	安宅権兵衛
	波多野弥八郎	江見仁八郎	菅田善之丞	石原休甫
		岡田権六郎	小林三太夫	渋谷千右衛門
		丸山二郎助	山田藤四郎	山田嘉四郎
		服部見順	同 見寿	中村随軒
		藤井半助		
		右八居掛り衆		
		市浦清七郎	小原善助	松井七右衛門

淵本弥三左衛門	坂口勘左衛門	淵本弥五八
横山半助	長瀬問誰	居相孫八郎
幸元林庵	則武弥七郎	横山瀬兵衛
井上宜全	山上治太夫	清水善五郎
守田三太郎	中村弥太之助	李兵衛
善兵衛	五兵衛	豊平
勘六郎	町通イ	同
同	与左衛門	助三郎
久二郎	同	同
同	善太郎	平四郎
同	同	同
善吉	李三郎	孫市郎
同	同	同
長右衛門	同	同
御足輕	甚右衛門	七太夫
御小人小頭	大役人小頭	
拾六人	高橋弥右衛門	式人
町料理人	同	学校御人足
助九郎	弥兵衛	六人
魚屋	八百屋	
老人	老人	

御名代江献立

鱈	あゆ	めうかの子	あわび	しみたけ
切たて	しそ	汁	くらま牛房	葉付大こん
		ゆす		

脇付かうの物 なら漬瓜 めし

なすひ漬

引テ 麩 酒煮 梅干

やき物 小鯛ひらき あさじかけて
 吸物 いろこ くりしやうかせん
 肴 かまほこてんかく
 茶うけ 水くり 川たけ
 菓子 やきまんちう あんもち
 惣通り之献立
 鯛 大こん 菜さくく
 鱈 木くらげ めうかの子 汁 たうふさいのめ
 けんニきんかん しみたけ からし
 かまほこ
 煮物 やきたうふ めし
 里いも
 引テかうの物
 菓子 まんちう
 せんし茶

八月十四日
 一井上宜全遠慮御赦免ニ付、自今日出勤
 十五日
 一同人御帳書ニ出候様ニ申付
 十九日
 一左之通従市浦清七郎町奉行江申遣差紙之覚
 上之町郡屋十左衛門家内ニ居申候父李兵衛儀、学校扶持人ニ而御座候、
 李兵衛宗旨禅宗磨屋町東林寺旦那ニ而、宗門之儀学校ニ而改申候間、其
 ま、上之町名歳帳ニ付置可被下候、先年泉八右衛門より御断被申候処、
 此度改為御断如此ニ御座候、已上
 辰ノ八月十九日 市浦清七郎在判
 上嶋彦二郎様
 同日
 一町奉行上嶋彦二郎返事如左

御手紙致拜見候、然者上之町郡屋十左衛門家内父李兵衛儀、学校御扶持人之由、宗旨禪宗磨屋町東林寺旦那而、宗門之儀学校ニ而御改候間、其假上之町名歳帳付置、月次判形五人組頭改共差除候様ニ可申付旨、先年泉八右衛門殿方御断候へ共、此度御改御断之由得其意存候、此手紙上之町名主方へ可被遣候、此方へ申来候ハ、紙面之通可申付候、以上

辰ノ八月十九日 上嶋彦二郎
市浦清七郎様

八月廿七日

一校内下役人宗門御改判形仕

同日

一小原善助閑谷积菜ニ付、昨日参、今日帰

九月廿四日

一松平土州君今月十四日御卒去ニ付、昨今明三日之内可為穩便旨、但作事仕来り不苦之由御触有之

十月十一日

一御檢地帳相濟申ニ付、御帳奉行之外不残退校、依之御帳方御賄止、并学校

下役人自今夕勤番仕、御帳御用人中江茂自今朝学校賄ニ申付

波多野八郎左衛門 湯浅源左衛門 尾関平九郎

松井勘八郎 谷田弥三郎 渡辺多左衛門

西野夫右衛門 小林三太夫 岸 九八郎

勘八郎手代

西村久八郎 足輕式人

十月廿日

一御檢地之御帳自去卯之十月於学校相調、当十月十一日ニ御帳悉ク成就、依之御帳方諸役人も今日退校也、就夫市浦清七郎・小原善助・松井七右衛門・

淵本弥三左衛門今晚学校江令会集、下役人江申渡趣如左

一横山半助御銀奉行令免許、自今勘定上聞并学校之留帳其外参校衆へ廻状

以下之儀、豊平・勘六ニ執筆申付可勤之旨申渡又

一幸元林庵只今迄御預候御書物之上当分御銀預之候旨申付、但シ自今居相

孫八相对ニ仕、入用次第ニ請取渡候様ニ申渡又

一則武弥七郎儀只今迄請込候役儀之内、御人足并菜园預之候儀令免許、其外ハ勤来候通申付

一井上宜全儀文庫御書物才之儀只今迄之通幸元林庵可為相司、其外文庫之外ニ出置候御書物、專請込候様ニ申付

一安井李兵衛儀自今掃除肝煎役令免許、其外ハ只今迄之通破損繕作事之儀申付、依之刀令免許之条申渡

一善兵衛并五兵衛儀只今迄之賄役之上ニ人足引廻并菜园之事相兼之可勤之旨申付、依之掃除仕候儀令免許、但シ五兵衛廉潔ニ相勤ニ付、為御褒美

米式依被下、其上居所之儀も学校ノ裏門御番所御借シ被成候間、妻子才是ニ召置候様ニとの儀ニ而、繕其外置以下迄学校より被成可被下旨申渡

又

一豊平・勘六儀兩人共只今之通諸事可相勤、其中掃除之儀兩人請込精出可仕旨申付、但勘六儀只今迄年中ニ銀札三拾目宛被下候へ共、自今六拾目宛被下之旨申渡又

十月晦日

一山上治太夫儀当六月九日より在所へ引取居申候所、泉八右衛門被相定置候

居房三年之數未滿ニ付、学校へ歸候而学房ニ居申候様ニ与市浦清七郎被申ニ

付、今日歸校仕

十一月三日

一講堂講釈初へ説来論語雍也之篇、小原善助講之、於食堂餅菓子煮看并煎茶

出之

是御帳已後初而依有之也

同日

一和田元利講習聴聞ニ初而出

是池田丹州君御家来和田勘太夫甥也、且小生参校日ニも罷出、読書之助

仕度旨願ニ付、任其意

十一月四日

一参校初ル、餅菓子煮看出之、并舍々如左相改

梧舍 習字 左座

橘舍 同断 右座

梅舍 読書

蘭舍 同断

菊舍 習礼

師 長瀬問誰

同日

一 津田左源太四男源六郎初而入学、八歳、左座

同日

一 市浦清七郎次男作之助初而入学、八歳、右座

同日

一 横山半助子甚之丞、七歳二而入学

是為見習半助願申二付如斯、但シ列ニハ未入

十一月四日

一 山田藤四郎子久之助次へ参校、十三歳

同日

一 四九之晩内講習初へ論語八份之篇、但説懸

市浦善蔵

小原宗助

山根又八郎

右三人巡講

窪田道和

横山半助

出座

五日

一 尾張大納言君御逝去ニ付、今日一日諸事可為穩便旨、市浦清七郎申触、但

作事才ハ不苦旨申渡

六日

一 井上宜全文庫之御書物預り候儀断申二付、令免許

同日

一 春秋之講釈初へ説懸舊之篇、井上宜全講之

此日奉行中其外泉八右衛門・窪田道和自午之刻会集、為八右衛門馳走雁之料理、餅菓子出之、泉文之丞・笹岡二郎七・小原宗助・市浦善蔵・窪

田順智

十一月八日

一 正木清太郎講習聴聞二初而出

十二日

一 中野仁太夫子初而入学、兄伝十郎十七歳、左座、弟弥次之助十二歳、右座

十三日

一 裏門夜之出入只今迄八校内奉行之外夜出入停止之処、自今八校内之分八奉行同事ニ可致出入旨、市浦清七郎申渡

十四日

一 学校近所出火之節、中室之御神主可避旨申渡又

御積奉守護

横山半助

人足

五助

六助

七助

御紋付

此内一人ハ手伝

大挑灯持

六兵衛

右之外草野善兵衛・福井五兵衛兩人之内非番之者一人可相加

十一月十六日

一 学校之畳御檢地御帳之節損候ニ付、御帳方従市川多兵衛・田中真吉手表替

有之ニ付、参校并内講習共止

一 講堂百四畳ハ新畳、食堂ハ講堂ノ古表ヲ以テ替之

覺奉行

則武弥七郎

町買

岸 九八郎

見届

小林三太夫

廿二日
一 參校初ル

廿三日
一 講堂之講釈初ル

同日
一 広沢喜之助講釈聴聞ニ初而出

廿四日
一 伊庭久六自今參校仕間敷断有之、除列座ノ札

十一月廿四日
一 山川小平次元服仕候ニ付、入大生之列

廿八日
一 村井六右衛門子伝吉郎講釈聴聞ニ初而出

同日
一 今日寒ニ入、自今宵夜食出之、如例

廿九日
一 和田元利儀内講習有之節、附食ニ而讀書仕度旨願ニ付、其通ニ申渡

同日
一 西之土手数学校之分今日ヨリ伐之
数方奉行土鉄砲馬場惣左衛門・愛智彦六手代共ニ朝夕学校ニ而仕度酒出
之、但シ手代ニハ酒不出

十二月三日
一 伊木清兵衛殿家来清水新兵衛講釈聴聞ニ初而出

同日
一 横山瀬兵衛只今迄預リ置候飲室之諸道具其外、中室之掃除道具才不残辻本
文平・草野勘六兩人ニ預之候旨申渡、依之居相孫八立合、右品々相改、從
瀬兵衛以書付今日右兩人請取之

十二月十三日
一 講堂之講釈今日迄ニて止

同日
一 講堂之講釈今日迄ニて止

同日
一 講堂之講釈今日迄ニて止

一 參校右同断

廿一日
一 春秋之内講習右同断

廿五日
一 中室之掃除有之

一 備後国福山御領御檢地帳於学校相調候ニ付、自元禄十二己卯年十月廿八日
同十三庚辰年十月十一日迄、校内へ出勤人数如左

御帳元々奉行
市川多兵衛
田中真吉

御勘定頭
安田孫七郎
荒尾猪兵衛

御檢地奉行
湯浅六右衛門
今井勘右衛門

伴 安左衛門
武田佐平太

見廻り
森川助左衛門
田中源兵衛

和田猪左衛門
石黒藤兵衛
梶田半兵衛

波多野八郎左衛門
御帳請込請取渡方
雀部二郎兵衛

湯浅源左衛門
村田弥兵衛
尾関平九郎

西村安左衛門
同手伝
武並孫惣

西村久八郎
藤村十兵衛

同手代 御足輕式人
急火之節御帳長持昇大役人 八拾三人

同挑灯持御小人 六人

御帳書肝煎
村山又左衛門

西村六之助

木戸彦二郎

林 武太夫

松浦覺之丞

大橋友之丞

中川来助

梶川市左衛門

宇治孫平

羽山三次郎

久代仁太夫

大平助三郎

岡田権六郎

土方新平

石川三之丞

武田庄助

西川大助

松村長左衛門

有賀権八郎

入沢宇左衛門

田川久兵衛

楠原清五郎

井上治左衛門

柏尾六之丞

荒尾長兵衛

橋本牛右衛門

山藪井水帳外書改

同手伝

松原藤助

渡部安右衛門

長谷川甚助

俣野利助

本郷七左衛門

杉山善左衛門

野崎六太夫

石津八兵衛

村上小四郎

小森浅右衛門

佐治八太夫

伊藤与一郎

小林平次郎

岩井喜兵衛

渡部九太夫

村主源六

若林弥四郎

飯河藤兵衛

青木善六郎

三木孫右衛門

大平助八郎

羽原甚右衛門

笹村兵左衛門

松井勘八郎

犬丸作内

谷田弥三郎

横山瀬兵衛

御足輕式人

楠原惣九郎

御帳紙筆墨諸色元請込渡方

江戸

作内替り

手伝

手代

諸手御帳肝煎

石盛下改

御横目

石盛上改

諸手御帳配并御帳紙筆墨共	須崎孫六郎	西野夫右衛門
	田坂六兵衛	松村甚助
手伝	齋藤喜左衛門	松田加七郎
同下役	名主式人	津川喜三郎
清算	井上喜太夫	白木源八郎
	手伝網浜村	惣左衛門
計引	井関利助	源八郎替り
	町絵師三人	善九郎替り
	大工	助太夫替り
	助八郎	居相孫八郎
	作十郎	則武弥七
	助三郎	山田嘉四郎
	甚助	御小人老人
下御帳緘	御足輕式人	安井李兵衛
	手伝	御小人式人
	同 四人	中野平六
御医者	木村玄春	御小人老人
	塩見生三	草野善兵衛
御郡医者	服部周庵	福井五兵衛
	木梨玄貞	御小人六人
針医	佐治碩庵	学校人足式人
	佐藤寿閑	辻本豊平
御賄	煩	御小人八人
	丹比七太夫	学校人足三人
	替	
同見届御徒横目	渡部多左衛門	
	栗井十左衛門	
	替	
見廻り御徒横目	小林三太夫	沼村名主
	神戶又三郎	替り田井村名主
	岡本六郎左衛門	吉兵衛
左之御徒横目折々出ル	大田彦二郎	猪兵衛
	塩田喜八郎	惣太夫
	加々野伝助	十右衛門
		横山半助
		幸元林庵
		御徒格以下
		膳肝煎
		炭薪方
		帳付
		椀方
		料理出入共
		御酒方
		油蠟燭方
		御茶方
		下御賄
		御町買

御小仕置衆通	長瀬問誰	表腰掛立番	同	式人
掃除方	草野勘六	玄関腰掛立番	同	式人
	山上治太夫	元ノ衆使番	同	式人
	御小人式人	小使	御小人六人	
	同小頭	從福山勤来御帳書如左	青地惣三郎	
	高橋弥右衛門		浅野定之助	
町通之子共	五拾五人		西村安右衛門(合点抹消)	
菊舎寝番	御帳奉行老入宛	前二出	平岡助之進	
	御足輕四人		岡田権六郎	
食堂寝番	御徒横目老入		宮崎辰右衛門	
不寝番	御小人式人		荒木善七郎	
同舎ノ夜廻り	御足輕式人		松村長左衛門	
同校内夜廻り	同 式人		入沢宇左衛門	
忍衆昼夜火廻り如左	一番 萩野仲右衛門		浅野加平次	
	瀨野弥一兵衛		福岡市郎左衛門	
	吉川儀左衛門		野上市郎兵衛	
	守田久七郎		明石源八郎	
	藤村甚七郎		井上忠助	
	二番 早川嘉右衛門		高井夫助	
	萩野市右衛門	今度御雇御帳書如左		
	今中喜六	中村覚右衛門	泉 文之丞	村瀬平蔵
	早川甚六郎	竹村喜四郎	庄野平三郎	行田治兵衛
	岸田小右衛門	福嶋与次助	俣野文七郎	荒尾団七
	瀨野嘉平次	寺沢四郎八	馬場定右衛門	今西利兵衛
火廻り	御足輕式人	有松勘平	竹村小右衛門	笹岡次郎七
表御門	同 四人	豊嶋与左衛門	安宅権兵衛	河村小四郎
校門	同 四人	雀部権十郎	永田所左衛門	正木清吉
裏御門	同 四人	松尾助九郎	菅田善之丞	大内九八郎
玄関	同 四人	下濃沖之助	香川弥五郎	岸本奥之助
台所口	同 四人			

中嶋源三郎	船戸定六郎	結城与右衛門	前二出(合点抹消)
俣野善八	芹川与助	柏尾团助	林源三郎
中山長三郎	丸毛平六郎	山中又一郎	下方定右衛門
市浦善蔵	金光市左衛門	多賀藤太夫	田上佐五右衛門
中村喜八郎	田中源八郎	白井彦八郎	加藤平兵衛
石津長兵衛	野崎定右衛門	吉田弥太六	春田十兵衛
原孫左衛門	今井猪之助	牧野吉太夫	西村孫三郎
渡辺八右衛門	古橋重助	豊嶋庄六郎	小崎久左衛門
安田孫之進	田口彦兵衛	高木彦右衛門	手伝
長井忠三郎	水野半左衛門	久代又三郎	馬場平十郎
井上弥一左衛門	松岡源八郎	村瀬猪之助	手伝
村瀬半之助	梶田喜三郎	生駒半左衛門	羽山九兵衛
丸毛雲平	加々野弥太郎	楠原藤左衛門	長井善次郎
須崎段二郎	守田孫市	白石伝之丞	手伝
粟井次郎太夫	本郷平吉	早川六郎左衛門	御帳書人数如左
香川宇平太	中野文左衛門	山田伝次郎	村上定右衛門
白田喜六郎	榎原太郎兵衛	水谷夫兵衛	河合権次郎
箕浦庄四郎	同徳之丞	山田源次郎	岡崎平右衛門
須々木伝吉	永田権八郎	岡又三郎	中村弥二右衛門
岡清太夫	岡野助太夫	矢野与茂八	早川忠八郎
岡田権四郎	倉知正右衛門	今村右伝	三月十五日より読合二出人数如左
井上亘全	高島平助	岡茂吉	野間三之丞
坂井久八郎	林原猪兵衛	幸元自斎	瀧源次郎
和田文六	砂子良佳	岡部自休	病氣故不出
遠藤新五右衛門	藤井半助	沼又左衛門	寒川源左衛門
中村忠助	神小助	万町十右衛門	長谷川甚左衛門
尾上町惣三郎	上之町又次郎		吉田源五郎
御帳読合人数如左			石田孫市
萩田久兵衛	丸山文左衛門	那須半兵衛	薄田半六
			村井六右衛門
			山瀬平次郎
			五月三日より読合二出人数如左
			後雀部二兵衛跡役勤
			尾関平九郎
			岩井小平次
			中村権助
			土方茂吉
			青木久五郎
			平野十蔵
			玉野半三郎
			真野権八郎
			仙石久右衛門

牧野弥次右衛門 野々村八兵衛 岡 藤三郎

波多野助七 森 藤八郎 高木甚右衛門

齋藤仁左衛門 富田甚之丞 丹羽小平太

長谷川務右衛門 塩川吉太夫 津川甚左衛門

太田善之丞 渡部伝八郎 安井助左衛門

川口源八郎 進藤小三郎 岩田孫十郎

瀬崎六兵衛 福尾忠兵衛 伊藤夫右衛門

小林平蔵 齋木忠右衛門 加藤牛之助

山脇九之丞

五月三日御郡方より出ル御帳書如左

村上助七郎 安倉十左衛門 羽原庄右衛門

山田藤四郎 日笠喜三郎

同日御船手より出ル御帳書人数如左

大船頭 同 小林又市郎

藤井伝助 矢杉茂左衛門 酒折神主

榎取 同 久山民部

塩川利左衛門 赤木太郎左衛門

同日町方より出ル御帳書

片瀬町小倉や 岩田町丸屋 大雲寺町古手屋

善四郎 半左衛門 与一兵衛

高砂町福田屋

庄市郎

五月九日より読合ニ出ル人数

古田番右衛門 深谷甚右衛門 舟戸段之進

赤座十郎兵衛 吉見半助 岡崎定之介

高島助七郎 広沢喜之介 鈴木三十郎

桑原半助 大野源兵衛 岡田源八郎

一原九郎兵衛 杉山権兵衛 神屋平兵衛

服部源六 小川弥七郎 生駒勘助

南部七之助 藤井与五郎 西浦惣左衛門

加納小左衛門 江見仁八郎 河口喜兵衛

正田孫左衛門 松井加兵衛 波多野孫二郎

淵本弥太之丞 佐分利半之助 小原宗助

糟谷源左衛門 窪田道和 小塚段兵衛

中村彦右衛門 林 源右衛門

御郡方より出ル役人

惣肝煎吉原村 同波知村 同下秦村

太郎右衛門 九左衛門 平右衛門

同金川村 上肝煎下肝煎 名主頭百姓

孫右衛門 八人 八拾八人

平百姓百貳拾人

辰八月十三日より廿七日迄極清算者上肝煎下肝煎名主貳百六拾人

辰五月十一日より同廿日迄町方算者百人

引廻シ染町惠美須屋 又右衛門

此節算者在町惣合三百三拾三人

尾関弥五左衛門 香西五郎右衛門 小堀右源太

大原半之助 加世藤三郎 齋木四郎左衛門

石丸平七郎 水野小左衛門 伊藤李兵衛

渡辺助左衛門

辰六月四日より備後御百姓判形ニ参人数如左

四日 一百九拾八人 芦田郡

一貳百拾貳人 安那郡

一貳拾人 鞆町

五日

一百六拾七人 小田郡

一七人 後月郡

一拾七人 韮後池村之内平原両村

六日

一百五拾人 品沼郡

一三百三拾四人 沼隈郡

七日

一百六拾六人 甲怒郡

一三四拾式人 神石郡

ノ千六百拾三人

御廟付

此節御掃除奉行 若林猪兵衛

丸山次郎助

洪谷千右衛門

香河門左衛門

宮崎彦五郎

行列

一表御門番所 折廻り五間白紺木綿幕

三ツ道具 御徒横目

鍵五本 上番 宇治久内

棒五本 御徒

本庄久三郎

御徒

山形小助

下番 御足輕六人

但定番食替共

一表御門之外より橋迄之間左右立番御足輕式拾人

御徒横目

見廻り 蜂屋奥右衛門

御徒

新谷孫七郎

御徒

吉田兵太夫

一校門見付 拾間御紋付白布幕

下番 御足輕拾人

但片ノ二五人

熊毛てんもく槍 通り筋

片ノ二拾本 小頭片ノ二七人

左右之内塾金屏風猩々皮御鉄炮

片ノ二拾挺宛

能勢庄右衛門

小堀右源太

大原半之助

梶田半兵衛

一泮橋之上こけら屋根廊下同橋上葎三枚ならび薄縁三枚ならび

一校門より敷瓦之分左右共薄縁二枚ならび

一講堂東西南三方共御紋付紫紺幕、同縁側不残もうせん

一菊舎釣屋之方より橘舎之方迄見通シ仕切り、竹舎・柳舎より勝手見通シ

仕切、御紋付白布幕

一百姓參次第 松舎・竹舎・柳舎、此三舎江入置、追々呼出シ、判取仕廻

次第二東階ノ辰

一校門迄出置、右三舎江案内仕役人并判取座へ呼出ス役人、惣肝煎・上肝煎・

下肝煎・名主共ニ合六拾人

一東階西階より講堂隅々迄見廻り裁判共

武田甚兵衛 阿部久助 丹比仁兵衛

外二

林 源左衛門 安立弥五左衛門 水野彦四郎

林 十太夫 長崎覺左衛門 沖 藤太夫

有賀加兵衛 伊東文蔵

右所々御番所相勤

御作事方御用

山田八郎兵衛

上坂藏人小頭

岡崎万兵衛

右同断

内田茂兵衛

津田佐源太小頭

岡本佐次右衛門

津田佐源太手代組小頭

岸本与右衛門

御後園より掃除ニ出ル御小人六人

御帳数覚

合八千五百三拾六冊 式百四拾三ヶ村ノ分

内

式千八拾五冊

貸帳

四百三拾三冊

水帳ノ下帳

三百六拾三冊

耕地切帳

四百六拾式冊

一二付帳

五千百九拾三冊

野帳

御扣帳 四百三拾三冊

小前帳 八拾九冊

地詰帳 千三百拾六冊

一紙数六万四千四百九拾七枚 水帳小前帳之紙一通分

内

六万千八百八拾六枚

水帳

式千六百拾壹枚

小前帳

外二

式百四拾枚 栗根村外二一通出来申紙数

内

式拾式枚

小前帳

御帳緘奉行

三宅惣右衛門

生駒新兵衛

村瀬久太夫

中村多兵衛

初又

山田猪之助

大坂経師屋

弟子 半右衛門梓

半右衛門

吉兵衛

七右衛門

源右衛門

弟子

庄兵衛

小兵衛

平右衛門

与兵衛

右手伝表具師

上之町

伝八郎

伝九郎

甚助

市郎兵衛

仁王町

市次郎

長三郎

孫四郎

伝右衛門

紺屋町

七右衛門

庄八

九右衛門

左七郎

中出石町

市郎太夫

左五兵衛

源右衛門

太兵衛

桜町紙屋

弥兵衛

藤右衛門

六兵衛

善次郎

同

七左衛門

治兵衛

長兵衛

徳兵衛

尾上町

大雲寺町

磨屋町

柴町

庄八 久大夫 善七郎 源兵衛
 山崎町 森下町茄子間屋 御小人 同
 平右衛門 九右衛門 文四郎 助藏 長藏
 所々御用場舎付通之子共
 西中嶋町 丸亀町
 梧舎 長右衛門 伊平次
 山崎町 川崎町
 橘舎 定七郎 伊次郎
 西大寺町
 梅舎 甚右衛門
 柴町 同町
 蘭舎 五郎吉 浅吉
 船着町
 菊舎 善吉
 油町 紺屋町 船着町 上内田町
 講堂 梶之助 吉兵衛 長五郎 三次郎
 紙屋町
 西新舎 小伝
 野田屋町
 松舎口 仁兵衛
 西中嶋町
 松舎奥 五郎市
 野田屋町
 竹舎 彦三郎
 片瀬町 上之町
 柳舎 平四郎 源太郎 九郎次郎
 橋本町 同町
 槐舎 久次郎
 紙屋町
 同舎御検地衆部屋 与一郎
 上之町
 杉舎 吉三郎
 紙屋町 西大寺町 紙屋町
 蓮舎 平八郎 久太郎 久右衛門
 此舎南北三間東西九間松舎ノ前蓮池之上ニ有
 西大寺町
 校門 平藏
 西敷瓦之所より左塾右塾共
 船着町
 馬場新舎北 弥十郎
 小橋町
 同所南 吉三郎
 此舎三間ニ五間竹舎松舎之西ニ有
 紙屋町
 西掛出 太郎松
 竹舎柳舎槐舎三舎之前長式間ニ壹間之掛出
 富田町
 東掛出 三之助
 右同断梅舎橘舎二ヶ所之前
 山崎町
 東新舎 七大夫
 丸亀町
 飲室 李三郎
 下ノ町 柴町 下ノ町 富田町
 食堂 与左衛門 助三郎 善太郎 善次郎
 橋本町 上之町
 玄関 又十郎 彦右衛門
 久山町

使取次 善五郎

市浦清七郎 紙屋町

座敷 与兵衛

泉文之丞 上内田町

座敷 仁左衛門

石関町

勘定場 与五郎

紙屋町

幸元林庵宅 孫市

山崎町

居相孫八郎宅 又次郎

横山半助宅 右同人

窪田道和 上内田町

座敷 市郎兵衛

安田孫七郎 船着町

座敷 忠右衛門

土之町

御勝手 久太夫

町通引廻シ名主

西大寺町近藤屋 富田町山田屋

与右衛門 庄兵衛

山崎町榎屋 上之町房屋

彦左衛門 弥右衛門

上之町福岡屋 下市町紙屋

弥十郎 吉郎右衛門

古京町花屋 小橋町富田屋

源右衛門 与右衛門

富田町嶋屋 下市町網屋

藤兵衛 市郎兵衛

下町本屋

八左衛門

元禄十四辛巳年

正月朔日

一中室御鏡餅辰之刻横山半助開中室之扉、奉之

手伝 横山瀬兵衛

井上亘全

御鏡餅之飾如例

一蓬菜二ツ如例

もち 大こん いも 吸物 ふな さんせう

一雑煮 やきたうふ こほう

こんふ するめ 酒

二日・三日雑煮同前、二日吸物 はまくり、三日吸物 塩鯛

元朝 つみいれ こほう

田作膾 汁 大こん

鯉 いろ酒 しいたけ な

さしみ しゃうか めし

九年母

烹物 焼たうふ 大かつを からし

引而かうの物

同晩

田作鱈 汁 かき ほしな

からし

烹物 いも こほう

めし

焼物 鰯

引而香物

田作鱈

烹物 とうふ 牛房

山のいも

やき物 せい

おろししやうか

引而香物

同晩

田作鱈

烹物 白うを な

焼物 鰯

引而かうの物

三日朝

田作鱈

烹物 かまほこ 焼たうふ

こほう

焼物 いな おろししやうか

引而かうの物

三日晩

田作鱈

汁 雉子 こほう
大こん しいたけ な

烹物 たうふ くす

おろし大こん からし

牛房はりく

引而香物

右何も酒三献

正月四日

一中室御鏡餅今日徹之

是例年明五日ニ徹之候得共、自今年如斯相定

五日

一読初之儀如例

諸生於講堂如例

一開戸捲簾褰帳

松井七右衛門
淵本弥三左衛門

一焚香俯伏 市浦清七郎

衆皆再拜

一降帳垂簾閉戸 松井七右衛門
淵本弥三左衛門

畢而読書之師何茂講堂之中通りへ出、横山半助撃柝、孝経五等之孝ヲ同
声ニ読之、次ニ小原善助講孝経巻頭、畢而松井七右衛門・淵本弥惣左衛
門侍中室之左右、授胙諸生、堂中之諸生從左右老人宛詣中室、頂戴之、
退出也

正月五日

一御鏡餅学校奉行并下役人・学房中・読書之師・次ノ子共勝手迄不殘頂戴之
雑烹 あつき さとう 吸物 ふな 酒三献

同日

一校門番人

足輕式人

同日

一 槍遣初有之、如例、坂口勘左衛門出勤

十日

一 学校勘定初有之、如例

十六日

一 春秋之講習初、雜煮酒出之、如例

十七日

一 参校初、雜煮酒出之、如例

一 幸元林庵弟自齋習字之師被雇、自今日出勤、於校厨支度仕候様ニ申渡

一 辻本文平・草野勘六兩人共ニ参校日ニハ讀書之舍江相詰、小生衆讀書之師

ニ申付、依之家名令免許之旨申渡

正月十七日

一 善兵衛・五兵衛兩人代ルニ参校日ニ飲室へ相詰候様ニ申渡

是右兩人讀書之師ニ依申付也、但諸講習日晚之煎茶ハ文平・勘六役也

同日

一 安井李兵衛参校日ニハ食堂之西ニ相詰、諸生小用之往来為行儀相詰候様ニ

申付

十八日

一 講堂之講釈初、小原善助講論語雍也

同日

一 槍稽古初、雜煮酒出之、如例

同日

一 浅野孫助子与七郎坂口勘左衛門弟子ニ成、自今日於竹舍坂口流槍稽古仕

同日

一 岩室得左衛門右同断

廿三日

一 善兵衛二男善七郎今日初而出、七歳

是諸事為見習校厨迄為相詰、習字仕候様ニ申付

正月廿三日

一 水野助四郎小生参校日并休日参校仕度旨、任其意

是自分進文学、且津田佐源太も文学ニ取立度旨、兼而市浦清七郎ニ申ニ

付、井上宜全ニ讀書仕候様ニ申渡

同日

一 自今日三八之槍稽古之諸生附食ニ而夕飯出候儀初ル

是自講釈過暮時迄稽古有之ニ付、弟子中付食ニ而飯台支度仕度旨以坂口

勘左衛門相達奉行中、依之任其意如斯申渡

廿六日

一 山上治太夫御断申退校

二月二日

一 自今日十四日迄参校止、如例

三日

一 槍稽古有之

是只今迄休日ニハ稽古無之候得共、自今有之筈ニ依相定也

二月三日

一 横山半助儀槍稽古日ニハ竹舍江可相詰旨今日市浦清七郎申渡

六日

一 新衆人自今日桃舍江来居

是只今迄於郡会所所衆稽古仕候処、昼夜於校内稽古仕度旨願申ニ付、任其

意、但朝夕郡会所へ参支度仕

松末織部 金谷石見 見垣権少輔

八木左衛門 大森弥平次 大守对馬

小神阿波之丞 松末佐助

九日

一 積菜有之、如例、御名代池田佐兵衛被仰付

二月上丁積菜之儀

唱賛 横山半助

開戸 松井七右衛門

淵本弥惣左衛門

捲簾褰帳

同前

二月十三日

啓積 御名代 池田佐兵衛

一 明十四日御廟祭二付、左之樂人於學校支度仕、如例

献果

市浦清七郎

松末織部 大守隱岐 金谷石見

参神再拜

八木左衛門

焚香再拜

池田佐兵衛

十五日

献酒俯伏

佐兵衛

酒注 七右衛門
捧蓋 弥惣左衛門

一 草野勘六元服仕
是父善兵衛為致元服度旨願申二付、其通申付

告辞俯伏

佐兵衛

十七日

備前国主從四位下行左近衛権少将源綱政朝臣使臣佐兵衛信起謹积菜敢告

一出石平助子権七郎初而入学、十二歳、右座

辞神再拜

十九日

徹酒果

七右衛門
弥惣左衛門

一同人次男佐助初而入学、十歳、右座

閉積

佐兵衛

一 長瀬問誰自今学校驥方之師匠二相定、依之年中銀式枚宛被下之旨申渡

降帳垂簾

七右衛門
弥惣左衛門

二月廿六日
一 今井伝三郎僕共自今日学房江来居

闔戸

同前

礼畢

是父夫右衛門江戸御留主番被仰付参二付、夫右衛門留主中從学房市浦清七郎方江相詰申度旨願二付、任其意、但伝三郎ハ喰捨、僕壹人ハ附食也

小原善助講論語卷頭、畢而松井七右衛門・淵本弥惣左衛門侍中室之左右、授胙諸生、堂中諸生從左右老人宛詣中室、頂戴之、直食堂飯台ニ着

参校諸生

三月二日

水野助四郎 守田与助

山川小平次

一 自今日四日迄参校止、如例

加々野弥太郎 中西柳直

中野伝十郎

七日
一 参校初、自今日昼食出、如例

中野弥次之助 佐分利久二郎

水野金十郎

八日

石黒槌之助 小嶋甚之助

伊丹久八郎

一 槍稽古之諸生江右同断

伊丹佐太郎 長田八弥

津田小源太

同日

津田源六郎 高木卯之助

和田善次郎

同日

梶川孫三郎 野間伝八郎

岩田丑作

一次之子共読書如以前参校日九ツ半より八ツ迄読書仕可然二付、自今其通ニ

多賀平十郎 安宅門次郎

荒尾宇一郎

相定

山川槌之介 大森提安

中村辰之助

十三日

一松舎屋根替、且柱之根続才仕、此一舎ヲハ常ニ掃除申付、学校之座敷ニ仕置可然旨、兼而繕致懸り候処、今度急ニ畳表替・壁上塗并腰張障子張直、小作事之文四郎参仕之

是中川因幡君来ル十八日御当地御通ニ付、学校へ御立寄御廻覽可有之旨、市浦清七郎へ御内通依被仰聞也

三月廿日

一槍稽古日月六日之三・八ニ而ハ少由ニ而、十日廿日晦日此三日自今増申度旨
坂口勘左衛門願ニ付、任其意、依之自今日初ル

廿五日

一赤穂之城主浅野内匠頭殿与吉良上野介殿於殿中喧嘩、依之内匠頭切腹被仰付、家中離散ニ付、赤穂浪人男女共ニ御当地ニ留置申間敷旨從御老中御触有之故、校内へも此旨市浦清七郎申渡

四月十七日

一梶川加兵衛末子小三郎初而入学、十一歳、右座

十九日

一安田孫七郎子七之進初而入学、九歳、左座

廿四日

一今日参校止

是丹羽玉峯院殿就御卒去、自今日三日之内穩便之御触依有之也

廿七日

一参校初

五月四日

一戸川内蔵之助殿家来納所弥右衛門觀学

是津田佐源太同道也

九日

一自今日参校止

是少将君近日御帰城ニ付、御家中御礼不濟内ハ参校止、如例

十日

一今度御家中江二分通被下候ニ付、左之校内下役人五人江従市浦清七郎申渡

横山半助 居相孫八郎 幸元林庵

則武弥七郎 草野善兵衛

五月十一日

一春秋講習止

是今日依御帰城也

十七日

一大坂之浪士力丸佐次右衛門觀学
是大橋友之丞不通由ニ而市浦清七郎へ相断、則友之丞同前也

十九日

一参校初

廿日

一水野三五郎同弟助四郎坂口勘左衛門弟子ニ成、自今日於竹舎坂口流槍稽古

仕

同日

一内匠君御家来榎村十右衛門右同断

廿二日

一参校止

是依御忌日也

廿九日

一津沢万二郎再入学、左座

六月朔日

一善八郎読書精出申ニ付、小学句読部被遣之

六月四日

一佐分利久二郎元服仕ニ付、入大生之列

十四日

一今日土用ニ入、参校止、如例

是一六之旧読日ニハ土用中さらへニ参校望次第ニ申渡、其通ニ成、如例

十八日

一井上宜全儀退校仕度旨ニ付、横山半助・居相孫八郎迄口上願書如左

一私儀数年学校御役介ニ罷成、勤学仕難有仕合奉存候、弥以相応之御用可承儀ニ御座候処、近年少存寄御座候ニ付、退校仕度奉存候、忘御厚懇御暇申上候段恐入奉存候得共、右申旨ニ御座候、尤御校内御用御座候節ハ被仰付次第何時ニ而も罷出可相勤申候、此旨御奉行中様へ御達被成、願之通被仰付被下候様ニ宜御取成奉頼候、已上

六月十八日

井上宜全

横山半介様

居相孫八郎様

六月廿二日

一和田元利折々附食ニ而參校仕候、学文精出候ニ付、自今学房へ来居、喰捨被下、令勤学之旨、市浦清七郎申渡、自今日出勤
但夜ハ帰宅仕也

廿六日

一井上宜全退校願之通今日暇被遣

但市浦清七郎申渡趣、若年之頃より学校へ參、学校之御影ニ而学問仕、漸成立候所ニ、此度達而退校仕度旨願候段不屈千万ニ候得共、暇ハ願之通遣候、然れとも校内出入之儀ハ遠慮可然旨、横山半助・居相孫八郎兩人心得ニ申聞候様ニ申付、則今夜学房退校仕

七月朔日

一自今日当月中校厨門出入之限戌之刻

四日

一土用明參校初

十日

一御廟御道具虫干有之、從校厨昼奈良茶酒遣之、如例

十二日

一自今日十六日迄參校止、如例

十三日

一左之五人福山御檢地帳於学校有之節、御勝手方精ニ入肝煎候ニ付、從表方為御褒美被下之、如左

一金子三百疋

横山半助

一同断

幸元林庵

一同式百疋

横山瀬兵衛

一同百疋

山上治太夫

一金子百疋

草野勘六郎

七月十六日

一日本之絵図壹枚淵本弥惣左衛門為写之指上ル

是寛文中從公儀堀田加州君江被仰付候而能図之由、弥惣左衛門所持仕
処、自泉八右衛門時分依所望如斯、為写指上ル也

十七日

一參校初、如例

廿八日

一講堂之講釈千原新内講之

是窪田道和依煩也、但自今道和指合有之節ハ、每度新内可勤旨市浦清七郎申渡

八月二日

一辰之刻正千代君被為入、午之刻御帰駕

御供中昼飯出之

七日

一右同断

八日

一從御城御絵書狩野三徳・同自徳・同幽知、見届御近習徒千賀方右衛門来、自去月於柳舎御屏風画之候処、成就ニ付、今日退校

是御絵入用之諸色ハ表方、右四人外ニ町絵師四人以上八人朝夕昼共学校
賄也

八月八日

一山口平右衛門弟藤助講釈聴聞ニ初而出

十日

一於柳舎御屏風御用初、諸事如前

同日

一 巳之刻正千代君被為入、午之刻御歸駕

十二日

一 則武弥七郎御徒組被召出、三拾俵三人扶持被下旨、市浦清七郎申渡

十三日

一 辰之刻正千代君被為入、午之刻御歸駕

十四日

一 大工半右衛門へ金子百疋被遣之

是文庫并桃舎之額為彫候二付、如斯

十五日

一 則武弥七郎今朝御通掛之御目見仕

同日

一 自今年中秋之詩会始ル、学校出入之学士相会食堂、各賦詩、但吸物洒出之

市浦清七郎

同 善藏

小原善助

小原宗助

窪田道和

同 順智

笹岡二郎七

佐々木半平

山田藤四郎

山根又八郎

横山半助

辻本文平

和田元利

右詩集辻本文平記録之仕候様二申付

八月廿一日

一 則武弥七郎只今迄請込候役儀当分左之四人江申付

一 紙筆墨并菊

幸元林庵

一 御米蔵

安井李兵衛

但自今掃除之儀令免許

一 炭薪油

草野善兵衛

福井五兵衛

但掃除才之儀可相兼之旨申渡

八月廿八日

一 平井万之助講釈聴聞二初而出

廿九日

一 参校日之昼飯今日迄二而止、如例

九月六日

一 御屏風成就二付、左之三人今日退校

見届

狩野三得

同 自得

千賀万右衛門

七日

一 自今日九日迄参校止、如例

同日

一 地球之御屏風又被仰付由二而左之三人從今日梧舎江出勤

見届御近習徒

狩野三得

同 自得

松嶋又左衛門

八日

一 安井李兵衛和氣郡学校領江当朔日二参、今日歸

十二日

一 巳之刻正千代君被為成、午之刻御歸駕

十四日

一 内匠君御家来三宅林直子左六初而入学、十三歳

同日

一 山口藤助自今日出勤、写姬鑑、朝夕於校厨支度仕

九月十六日

一 講習止、如例

十七日

一 参校初、如例

廿日

一 舟橋吉兵衛坂口勘左衛門弟子成、自今日竹舎へ参、坂口流槍稽古仕

同日

一 岩田忠作右同断

廿三日

一町医黒崎理三子玄固講釈聴聞二初而出

廿四日

一丹州君御家来堀宇兵衛子又吉初而入学、九歳、右座

廿九日

一清水新兵衛御断申、自今読書之師二不出

十月二日

一御絵被仰付狩野幽智町之絵師兩人從今日參、於柳舎画之、諸事同前

五日

一草野善七郎読書精出申二付、小学句読書部被遣之

十月五日

一山田藤四郎自今日出勤、地球之御屏風二書付仕

十月八日

一泉文之丞於天瀬屋敷拜領仕、依之今晚八右衛門・文之丞父子共於菊舎饗之、

濃茶出之、相伴左之人数

三宅誠庵

小原善助

淵本弥三左衛門

窪田道和

市浦清七郎

同日

一草野善七郎儀自今講釈日并參校旧読日、朝夕喰捨被下旨申渡

十一日

一泉文之丞拜領屋敷江今日移

十二日

一同人跡屋敷今日屋敷奉行江相渡、請取候、御屋敷奉行山脇孫助・見届小森

浅右衛門学校江相渡候二付、居相孫八・安井李兵衛出合請取之

十三日

一校内下役人御褒美并御加増左之通被下之旨申渡

一居相孫八郎二銀式枚自学校被下之

是孫八郎儀福山御帳之節骨折相勤二付、此旨市浦清七郎相達、御小仕

置中如斯為御褒美被下也

一幸元自齋儀自今学校之御奉公人分二相定、依之銀三枚二朝夕喰捨被下旨

之旨申渡

是毎日相詰習字之師依相勤也

一安井李兵衛儀自今御切米拾五俵式人扶持被下之旨申渡

一草野善兵衛儀以前藥園二相詰罷在節八、人足附食之塩増代半扶持被下之

処、只今無其儀、依之半扶持之御加増被下、都合御切米拾拾俵式人扶持

二申渡

一福井五兵衛儀忝二半扶持之御加増被下、都合拾拾俵式人扶持二申渡

一人足仁助儀善兵衛・五兵衛並二申付、改名仁兵衛、忝半御加増、都合

御切米九俵老人半扶持被下

一同六助儀忝御加増被下、仁助代り梶方并部屋頭二申付

一同食たき六兵衛儀忝御加増被下、六助代二申付

十月十七日

一武田左平太子茂助初而入学、十歳、左座

廿四日

一宮部清四郎次男兵吉初而入学、十三歳、右座

同日

一巳之刻正千代君被為入、午之刻御帰駕

廿七日

一内匠君御家来神野二郎兵衛次男十之丞初而入学、十歳、左座

廿九日

一幸元自齋孫權助次江參、読書習字仕度旨願申二付、任其意

十一月三日

一巳之刻正千代君被為入

四日

一梶川小三郎病死、除列座之札

八日

一辰之刻正千代君被為入、巳之刻御帰駕

同日

一左之御役人中今晚參会、於松舎御料理出之

池田七郎兵衛 上坂藏人

津田佐源太 丹羽次太夫 浅野瀬兵衛

宮部清四郎 藤岡勘右衛門 薄田兵右衛門

市浦清七郎

右何茂着上下参会有之、六ツ過ニ退出也

楠原惣九郎 山本七兵衛 両人も御用有之参、料理出之

勝手

三宅誠庵 窪田道和 小原宗助

料理人郡会所之虫明作兵衛被雇之

十一月十二日

一石津又八郎自今参校仕間敷旨断有之ニ付、除列座之札

十二月七日

一尾沢幸之助自今日読書之助ニ参校

是自分為稽古出度旨ニ付、任其意

九日

一寒ニ入自今宵夜食粥出之、如例

十三日

一講堂之講釈今日迄ニ而止、如例

十四日

一参校止、如例

十五日 一左之諸師ニ今日御銀被遣之

一銀壹枚 長瀬問誰

是習礼之師ニ被雇ニ付、被遣之

一金壹両 横山瀬兵衛

是習礼之助并勘定其外諸御用相勤候ニ付、被遣之

一金子貳百足 山根又八郎

一金子貳百足 和田元利

一同 百足 岡源五郎

右三人読書之師ニ被雇ニ付、被遣之

一銀壹枚 山口藤助

是写物仕ニ付、被遣之

一金子百足 草野善七郎

是為袴代被遣之

十二月十三日

一春秋之講習今日迄ニ而止

是例年廿一日迄ニ而有之所ニ、市浦善藏煩ニ付、小原宗助老人ニ而相勤候故、宗助為休息如斯

一御絵方御卷物并地球御屏風之書付成就ニ付、御絵書三人・山田藤四郎・見

届松嶋又左衛門今日退校

但山田藤四郎儀地球御屏風之書付仕ニ付、罷出

十七日

一煤掃有之、如例

十二月十八日

一左之四人令参会、地球御屏風之書付読合有之

窪田道和 山田藤四郎 幸元林庵

廿三日

一左之通今日被下之旨申渡

一辻本文平ニ米貳俵被下之

是為御褒美如斯

一草野善七郎ニ金子百足被下之

是右同断

一仁兵衛ニ銀壹枚被下之

是刀令免許ニ付、為刀代如斯

廿六日

一長瀬問誰米貳俵被下之

是依困窮仕也

当年参校之諸生四拾壹人

内

初而入学拾四人

尾関幸之助 田坂猪三郎

小原文次郎

野崎吉之助 横山甚之丞

梶川小三郎

安田七之進 丸山樞之介

出石権七郎

三宅左六 堀 又吉

武田茂助

宮部兵吉 神野十之丞

次之子共六人

内

三人初而入学

佐治才次郎 居相吉十郎

幸元権助

元禄十五壬午年

正月朔日

一中室御鏡餅辰之刻横山半助開中室之扉、奉之

御鏡餅之飾如例

一蓬菜二ツ如例

もち いも 大こん

一雑烹 こほう やきたうふ

するめ こんふ

二日・三日 雑烹同前

元朝

二日吸物 蛤 三日吸物 塩鯛

つみいれ こほう

田作鱧

汁 大こん しいたけ

な

さしみ 鯉 いろ酒

めし

しやうか 九年ほ

烹物 焼たうふ 大かつを

からし

引而香の物

同晩

田作鱧

汁 かき ほしな

からし

烹物 いも こほう

かつを

焼物 鰯

引而香の物

めし

二日朝

田作鱧

汁 たら こんふ

こせうのこ

烹物 たうふ 牛房

山のいも

焼物 せい

おろししやうか

めし

同晩

田作鱧 汁 はまくり 大こん

烹物 白うを な

焼物 鰯 引而香の物

三日朝

田作鱧

汁 菜 山のいも

からし

烹物 かまほこ やきたうふ

めし

焼物 いな おろしせうか
引而香の物

三日晚

雉子 牛房

田作鱈

汁 大こん しいたけ

な

烹物 たうふ くす
おろし大こん

めし

牛房はりく

引而かうの物

正月四日

一中室御鏡餅今日徹之

是例年明五日ニ徹之候得共、從昨年如斯相定

正月五日

一読初之儀如例

諸生於講堂如例

一開戸捲簾褰帳

松井七右衛門

一焚香俯伏

淵本弥三左衛門

衆皆再拜 市浦清七郎

一降帳垂簾閉戸

松井七右衛門

淵本弥三左衛門

畢而讀書之師何茂講堂之中通り江出、横山半助擊柝、孝経五等之孝ヲ同声読之、次ニ小原善助講孝経巻頭、畢而松井七右衛門・淵本弥三左衛門侍中室之左右、授胙諸生、堂中之諸生從左右壺人宛詣中室、頂戴之、退

出也

正月五日

一御鏡餅、学校奉行并檜檜古之諸生・学房中・下役人・讀書之師・次ノ子共・勝手迄不残頂戴之

雜烹 あつき さとう 吸物 鮎 酒三献

同日

一校門番人 足輕式人

同日

一槍遣初有之、如例、坂口勘左衛門出勤

上嶋浅右衛門 守田与助 泉 文之丞

平井万之助 尾関弥三郎 浅野与七郎

山羽佐平次 細木原平六

同日

一居相孫八郎子吉十郎・幸元自斎孫権助兩人、自今參校日并内講習日一六之晚、喰捨被下之旨申渡

是茶通仕度二付、如斯

正月十日

一学校之勘定初、如例

十五日

一横山半助今朝登城仕、御礼申上、如例

十六日

一巳之刻正千代君被為入、午ノ刻御帰駕、御三方へのし奉之、并御供中江餅菓子烹肴酒出之

是当年初而依被為入也

同日

十六日

一春秋之内講習初、雜烹酒出之、如例

同日

一幸元林庵儀自今參校日小生行儀并札割之儀申付、依之習字之師令免許

同日

一幸元自齋自今諸生習字之師申付

十七日

一參校初、雜烹酒出之、如例

正月十七日

一伊丹重助三男十三郎初而入学、十一歳、左座

同日

一田坂与七郎次男六十郎七歳、為見習參校仕度旨二付、任其意、今日初而出

同日

一岡源五郎断二而自今読書之師二不出

是酒折宮祠官二依被仰付也

同日

一今度御家中江壹分五厘被下候二付、校内下役人江も從学校其通被下之旨市

浦清七郎申渡又

同日

一校内馬場長五拾間餘復自今馬場二仕置候様二申付

是近年菜園二仕置候二付、如斯

十八日

一講堂之講积初、小原善助講之

論語先進之篇

正月十八日

一槍稽古初ル、雜烹酒出之、如例、坂口勘左衛門出勤

上嶋浅右衛門 市浦善藏 守田与助

平井万之助 浅野与七郎

横山半助 多賀藤十郎

同日

一校内通之子共居相吉十郎・幸元権助・草野善七郎自今自朝飯後晚八ツ時迄

致參校、於食堂読書習字諸礼稽古仕候様二申付

一読書之師

和田元利 辻本文平

一習字之師

一諸礼之師

右者当番之者肝煎候様二申渡

正月十八日

一来二月五日二积菜被仰出、御名代池田七郎兵衛被仰付、且积菜二音楽有之

候様二仕度旨市浦清七郎御年寄中迄相達候処、其通被申渡、自今年有之筈

二相定

廿二日

一衆人不残今日来校

是来ル廿四日於御後園音楽御聞可被遊旨被仰出、依之於学校朝夕共飯台

被下、稽古仕候様二市浦清七郎申渡

同日

一龜嶋安之丞十三歳、同弟市之丞十一歳、共二初而入学、右座

廿三日

一明廿四日於御後園音楽被仰付二付、今夜於食堂下稽古有之、衆人中江夜食

酒出之

正月廿四日

一今日於御後園音楽有之二付、居相孫八郎も出勤

同日

一幕式張出来

但地白かう布青紺白之五田町八間引也(尋九)

是积菜之節中室左右之廊下二張候而可然旨役人中相議、如斯

同日

一山根又八郎自今読書師不被雇之旨申渡

但学校出入候而御書物才拝借仕見之候儀者不苦之旨市浦清七郎申渡

廿五日

一衆人帰

二月二日

一自今日十六日迄參校止、如例

同日

一 衆人今日来校

是来ル五日积菜有之ニ付、於学校支度仕ル

二月五日

一 积菜有之、御名代池田七郎兵衛

一 自当年有音楽、樂所中室之西廊下ニ而奏之、衆人何茂装束

大鞆 見垣近江守

笙 金谷石見

同 見垣権少輔

同 大森但馬

同 八木左衛門

同 大森弥平次

同 松末織部

同 左助

二月上丁积菜之儀

開戸

捲簾褰帳

啓櫃 御名代 池田七郎兵衛

献果

参神再拜

焚香再拜

献酒俯伏

告辞俯伏

辞神再拜

徹酒果

閉櫃

七郎兵衛

降帳垂簾

七右衛門

闔戸

同前

礼畢

窪田道和講論語卷頭、畢而松井七右衛門・淵本弥三左衛門侍中室之左右、授胙諸生、從左右老人宛詣中室、頂戴之、直食堂飯台ニ着

今朝飯台出諸士

池田七郎兵衛 津田佐源太

右者於桃舎料理出

参校之諸生

津田源吉 泉 文之丞

岩田十太夫 中川来助

湯浅源左衛門 佃 兵内

村井伝吉 広沢喜之助

佐分利五郎四郎 吉田源五郎

丹羽小平太 丹羽半八郎

守田与助 竹村弥次兵衛

淵本弥五八 今井伝三郎

富田助六郎 則武弥七郎

山田藤四郎 長瀬問誰

御廟付

高田弥右衛門 渋谷千右衛門

丸山次郎助 理兵衛

御雇之給仕

横山源八郎 清水善五郎

沢田恕好

次之小子

中村弥次之助 佐治才次郎

神屋権三郎 守田三太郎

御雇料理人

片岡佐五兵衛

助九郎

弥兵衛

久太夫

齋藤三郎助預

一表門

御足輕式人

一校門

同 式人

一裏門

同 式人

一裏玄關

同 式人

二月五日

一丹羽小平太次男春蔵初而入学、十歳、右座

二月六日

一山田久之助自今居相吉十郎同事ニ參校日之朝・一六之晚喰捨被下之旨申渡

又

同日

一広沢喜之助自今学校江出入、御書物致拝借、和田元利学房ニ而見申度旨ニ付、任其意

七日

一雀部権十郎右同断

八日

一少将君来ル十日御蒞学之旨被仰出ニ付、參校之諸生江廻り状出之、且校内之掃除才自今日取掛ル

同日

一中室之畳表替仕

是上品之表当町ニ払底、就夫市浦清七郎淺野瀨兵衛ニ令相談、上表式拾九枚従小作事所来、但中室之古表ヲ以墊之畳左右共ニ替之

二月八日

一中室并校門障子張直出来

是從小作事文四郎并手伝之小人老人參、張直之

同日

一校門内東之方ニ取置之御雪隠出来

是只今迄有之処、自今取置ニ仕可然旨ニ付、如斯申付

同日

一御手水所中室之東從南五間目ノ欄干ヲ取置之間、庇并竹縁ヲ設、且杉ニ而新ニ御手水桶たほそを付申付、但御手水ニハ湯御用不被遊由ニ付、冷水可入之旨申付

同日

一内匠君御手水所ハ飲室之竹縁ニ御手拭共ニ設置之可然旨ニ付、其通相定之

同日

一從講堂中室江取置之板橋自当年止之

是此橋終ニ御渡依無之、自今取除之可然旨ニ付、如斯

二月十日

一少将君蒞学如例

御入之記

一御供并御前役儀有之者ハ、熨斗目着之、自餘ハ棉布着之、麻上下惣一統一出奉迎之位

市浦清七郎校門之外洋橋之南端之東

津田佐源太校門之外西

三宅誠庵飲室之前

松井七右衛門・淵本弥三左衛門西塾之西

小原善助・窪田道和東塾之東

坂口勘左衛門講堂之縁西南之隅

市浦善蔵・小原宗助講堂之縁東南之隅

參校之諸生講堂内之西ニ行着座

一師匠并衆人次之諸生食堂北之縁如左着座

長瀬問誰

幸元自齋

和田元利

楽人

見垣権少輔

金谷石見

大森対馬

八木左衛門

大森弥平次

松末織部

同 左助

次之子共

守田三太郎

佐治才次郎

近藤門三郎

山田久之助

浅原日向

幸元権助

校厨廊下戸立切之

一校内処々請取話処之次第

諸生後見

飲室

横山半助

幸元林庵

居相吉十郎

辻本文平

山田藤四郎

長瀬問誰

幸元自斎

東 鈴木弥次兵衛

西 今井伝三郎

火廻り 横山瀬兵衛

山口藤助

人足耆人

校厨押

惣見廻り

校門東道筋押

校門之番

表門

裏門

玄関

巳之上刻御入御熨斗目しゝら御上下被着之

御供左之五人御先江来り、御入之時門外より中室江御供

安井李兵衛

居相孫八郎

則武弥七郎

御供之御徒押之

御徒横目一人

御足軽式人

御足軽式人

御足式人

御足式人

茨木左太夫

小島権内

山田五郎左衛門

安藤孫九郎

斎藤小一郎

一市浦清七郎御先江立、東階より御入

一御手水中室之縁端東ニ竹縁ヲ設、御手水桶置之、御手拭ハ飲室ニ置之、御児小性^(性)上之

一中室之開戸、捲簾裏帳

松井七右衛門

淵本弥三左衛門

一中室御上香御拜之後、松井七右衛門・淵本弥三左衛門両人降帳乘簾鎖室、畢御廟江参

一御熨斗奉上

安藤孫九郎

一御書物奉上

斎藤小一郎

小原善助講釈仕

是兼而講堂櫛方之内ニ設置タル見台ニ論語ヲ載タルヲ持出、櫛形之外え

席之上西向ニ座シ、学而篇子禽問子貢之章ヲ講、畢而論語見台其俣置之

退

一御立之節食堂江御廻り、中室之西廊下より講堂之内御通、西階ヨリ御帰駕、直ニ御廟へ御詣、市浦清七郎泮橋之南東方御先江出奉送、直ニ御廟江行出テ奉迎、面々如前奉送

一内匠君不被為入

一今日参校之諸生四拾五人

中野伝十郎 佐分利久次郎 山川小平次

伊丹久八郎 山川槌之助 岩田忠作

津沢万次郎 窪田友竹 石黒槌之助

野崎用齋 丸山梶之助 津田小源太

伊丹佐太郎 田坂猪三郎 龜嶋安之助

小原文次郎 野崎吉之助 武田茂助

神野十之丞 龜嶋市之丞 津田源六郎

安田七之進 伊丹重三郎 野間伝八郎

大森提安 尾沢幸之助 高木卯之助

和田善次郎 三神三太郎 梶川孫三郎

野間三三郎 小谷文三郎 多賀平十郎

坂井伝之助 中野弥二之助 三宅林賀

宮部兵吉 出石権七郎 安宅門次郎

出石佐助 市浦作之助 堀 又吉

丹羽春蔵 土倉三之助 横山甚之丞

一御立之後御祝之酒果出、如左

師匠中 諸生中 楽人

学校役人 学房中 次諸生

小頭 足輕 人足

津田佐源太・三宅誠庵於桃舎祝之

小原善助 窪田道和 坂口勘左衛門

市浦善蔵 小原宗助

一今晚左之銘々江御祝之夕飯出之

師匠中 楽人 学校役人

学房中 次諸生 人足

市浦清七郎 小原善助 淵本弥三左衛門

窪田道和 市浦善蔵 小原宗助

三月十二日

一山川槌之助元服仕ニ付、入大生之列、改名十郎兵衛

十四日

一山口藤助写候姫鑑今日出来

十六日

一野中忠三郎病死仕、跡断絶仕ニ付、忠三郎母并諸道具共、ニ市浦清七郎当分預り置候様ニと被仰出、依之今日清七郎方江引取之

同日

一春秋之内講習止

是市浦清七郎依隙入有之也

十七日

一参校初

同日

一土倉弥助次男三之助初而入学、十歳、右座

十九日

一山口藤助自今習字之師ニ被雇之、依之左之通申渡ス

左座 梧舎

右座 山口藤助 幸元自齋

二月十九日

一野間三之丞次男三三郎初而入学、九歳、左座

廿一日

一大坂之医師塩野谷立節観学

是龜山立閑相達市浦清七郎、如斯

廿二日

一山口藤助ニ金子百疋被下之旨申渡

是写シ物依相勤也

同日

一辻本文平四儀之御加増都合拾俵被下之旨申渡

同日

一善七郎儀自今朝夕喰捨被下、年中銀札六拾目被下之旨申渡

同日

一草野善兵衛金子百疋被下之旨申渡

是悴勘六郎義每年被下候処、病死仕_二付、役人中僉議之上_三而如斯

二月廿七日

一山口藤助自今日大友記写之

廿八日

一狩野幽知并町絵師五人・見届津川喜三郎、自今日於柳舎御絵之御用初、諸

事如前

是洛陽葵祭之絵図之由

三月七日

一参校初、自今日昼飯出之、如例

同日

一早川忠八郎読書之師_二被雇、自今日出勤

十日

一細川越中君今夜当町夷屋又右衛門家御泊被成、依之今夜若出火有之候ハ、

暫時学校江御避被成候様_二可致用意旨、御両老被仰付_二付、为学校掃除今日

大役人拾五人終日相詰、申ノ刻_二、御徒三神伝六・荒木善七郎・那須茂右衛門・

長谷川来助・鈴木甚五右衛門、以上五人、其外斎藤三郎助預り御足輕拾人、

薙百枚持せ参、但右大役人ハ掃除仕舞、晚_二帰、御徒・御足輕ハ夜中学校_二

相詰

一学校之用意ハ講堂以屏風囲之、為御寢息之所、其外燭台・風呂釜設置之、

門_二幕張、其外兼而作置取置之雪隠取立之、御手水其器迄悉相備、尤所_三之

用意大挑灯外門、校厨_二ハ有明申付之、以撃柝其夜之当番校内夜廻り仕、火

用心申付、亥之刻夜食酒出之、但足輕_二ハ酒不出之、翌日ハ右人数不殘於学

校令支度、御本陣御発駕之後退出也

三月十三日

一地球御屏風被仰付候節、其図学校_二も写置可然_二付、図一紙六枚納文庫、

但図之書付山田藤四郎書殘候分、文平書繼之、今日読合_二相済

三月十三日

一草野善七郎儀自今刀令免許之旨申渡_二又

十八日

一洛陽賀茂葵祭之御絵今日出来候_二付、御絵書并見届皆退校也

十九日

一土倉弥兵衛子初而入学、兄弥吉、十歳、左座、弟弥次郎、七歳、見習

廿日

一狩野自得江金子百疋被遣之

是武楽之屏風_二双依御頼也

廿一日

一春秋之講習止

是泉八右衛門昨曉病死仕、今夕依有葬送也

三月廿二日

一多賀十兵衛次男長吉初而入学、十二歳、右座

廿四日

一窪田友竹自今日当分学房江来居

是弟忠助疱瘡仕_二付、本復仕内從学房登城仕度旨、以道和市浦清七郎へ

達之候故、如斯

四月朔日

一春秋之講習止

是御法事依有之也

二日

一山川市内次男戌之丞初而入学、九歳、左座

同日

一石黒槌之助元服仕_二付、入大生之列、改名平之丞

七日

一紙屋町之浪士千原新内読書之師ニ被雇、自今日出勤
八日

一丹州君御家来森了節講釈聴聞ニ初而出

四月十六日

一今明参校并内講習止、如例

是依御祭礼也

廿一日

一狩野幽知・町絵師式人・見届林理左衛門、自今日出勤、於柳舎写之

是地球之御屏風写、浅野瀬兵衛依被申付也

廿二日

一大森肥後儀自今時々参校仕、一兩日も致逗留、御書物拝借仕、学房ニ而見

申度旨、以居相孫八郎願申ニ付、任其意、但来居之内ハ喰捨被下之旨、市

浦清七郎申渡

廿九日

一千原新内自今日於橘舎古文之後集講釈仕

是依市浦善藏・小原宗助所望也

五月朔日

一自今日六日迄参校止、如例

六日

一御屏風之写出来ニ付、絵師見届皆退校

七日

一参校始、如例

同日

一山田藤四郎自今日出勤

是御屏風之写書付依被申付也

九日

一市橋孫次郎子竹之助初而入学、十四歳、左座

同日

一三枝六之丞右同断、十一歳、左座

十二日

一持田加兵衛次男卯之助右同断、十六歳、右座

同日

一千原新内自今毎日参校仕、幸元自齋同事ニ朝夕喰捨被下之旨申渡

十三日

一村田瀬兵衛子新之丞講釈聴聞ニ初而出

十四日

一陰涼寺・大隣寺・陰涼寺之客僧提河、其外同宿老人觀学

是市浦清七郎迄兼而断有之由ニ而、丸山文左衛門同道之

五月廿一日

一中川因州君之御家来吉村又三郎觀学

同日

一御門番弥五助子長吉義自今日校厨之小使ニ申付

是朝夕喰捨被下候間、自今悪心ヲ改候様ニ市浦清七郎申渡

廿二日

一参校講習共ニ止、如例

廿七日

一千原新内ニ米式俵被下之

是毎日相詰、校内之通之子共読書ヲ授、講釈才依好相勤故也

六月四日

一仁科道竹読書之師ニ被雇、自今日出勤

十二日

一学校両所之悪水拔之樋破損有之ニ付、津田佐源太被申付、高木左近右衛門・

近藤七助兩人為見分参、居相孫八郎・安井奎兵衛出合

六月十三日

一高木左近右衛門・近藤七助・佐藤助右衛門并手代兩人、大役之者拾人召連

参、樋繕之、但下之樋ハ水通候得共、上之樋ハ大破損故、水不通ニ付、重

而修理被仰付筈ニ相定

但右之人数江吸物洒出之

十七日

一 関屋左助子亀之助初而入学、十三歳、左座

同日

一 辻本文平儀自今参校日之朝夕三八と休日ハ朝計喰捨被下旨申渡

是読書之師ニ加り精出シ指南仕候故也

廿一日

一 門田市郎兵衛御用之儀ニ付、参会桃舎

但市郎兵衛・市浦清七郎兩人江朝飯并濃茶出之

同日

一 山田久之助・居相吉十郎・幸元権助、此三人為袴代銀札拾五匁宛被下之

是校内通之子共ニ依申付也

六月廿六日

一 土用ニ入参校止

但諸生土用中さらへニ内参校望ニ付、任其意、如例

同日

一 地球之書付今日山田藤四郎書終

廿八日

一 右読合左之三人ニ申付

幸元林庵 横山瀬兵衛 千原新内

七月朔日

一 校厨門自今日当月中出入限戌之刻、如例

十日

一 横山瀬兵衛主膳様江御徒ニ被召出、今日御目見申上

同日

一 幸元林庵銀式被下之

是諸生中参校之節、諸事精ニ入相勤候、依之為御褒美被下之旨、市浦清

七郎申渡

七月十日

一 横山瀬兵衛金子式百疋被下之

右参校諸生習礼方之手伝并勘定之節相勤、依之右之通被下之旨、市浦清

七郎申渡

十一日

一 今日中校内鳴物停止之旨、市浦清七郎申渡

是立花莫山君・黒田素軒君御卒去ニ付而也

十四日

一 横山瀬兵衛今日退校仕

十七日

一 土用明参校初

同日

一 幸元自斎江当分被借学房、自今出入仕

十九日

一 参校之諸生江自今日於菊舎點茶之儀幸元林庵指南仕

七月十九日

一 地球御屏風之写書付読合済候ニ付、御屏風幸元林庵持参仕、浅野瀬兵衛へ

相渡

廿日

一 今晚師匠中振舞有之

窪田道和 坂口勘左衛門 早川忠八郎

和田元利 長瀬問誰 仁科道竹

山口藤助 幸元自斎 千原新内

浅原日向

相伴

市浦善蔵 小原宗助 窪田友竹

佐々木半平 山田藤四郎 石原久甫

次之小子三人給仕雇之

守田三太郎 佐治才次郎 山田久之助

学校附下役人并今井伝三郎・鈴木紋左衛門

市浦清七郎 小原善助 松井七右衛門

淵本弥三左衛門

七月廿一日

一地球之御屏風少損シ有之由ニ而、狩野幽知出勤仕候而繕仕

廿二日

一右地球之御屏風御後園江幸元林庵持参仕、丹羽久左衛門江相渡ス

廿九日

一講堂之講釈小学終

八月二日

一講堂之講釈従小学句読序窪田道和講初

七日

一辰之刻正千代君被為入、巳之刻御歸駕

九日

一藤岡勘右衛門・八田弥三右衛門・市浦清七郎御用之儀ニ付参会松舎、夕飯

出之

村川権六

箕浦徳之丞

十一日

一藤岡勘右衛門・八田弥三右衛門・市浦清七郎参会、右同断

八月十四日

一竹内次郎三郎初而入学、十四歳、右座

十五日

一中秋之詩会有之、如例

十九日

一学校破損有之、為見分久山長助参、夕飯出之

廿二日

一安井李兵衛義自今朝飯喰捨被下之旨申渡

八月廿三日

一故少将君御野遊之御旧地川上ニ有之ニ付、為拜見御用人中も取前参、校内役人も川上江参、依之從津田佐源太小船并肴一種指越、弁当從校厨遣之

市浦清七郎

同 作之助

小原善助

同 宗助

窪田道和

同 友竹

当番故不参

横山半助

居相孫八郎

幸元林庵

隙人不参

弁当肝煎

幸元自斎

同 安井李兵衛

市浦善藏

幸元自斎

同 安井李兵衛

同

通之子共

居相吉十郎

同 辻本文平

草野善兵衛

同 居相吉十郎

同 辻本文平

幸元権助

同 草野善七郎

同 草野善七郎

外二

加藤恵也

同 江見仁八郎

八月晦日

一洪水、依之中室之御神主文庫之二階江奉遷、文庫并兩塾勘定場校内奉行屋敷惣長屋水入、座ノ上自三寸七寸迄

是川崎町之上堤切、晚七ツ過込水来ル

閏八月二日

一参校止

是洪水以後掃除依未調也

三日

一講堂之講釈止右同断

同日

一御神主今日奉安置中室

四日

一参校初

閏八月七日

一藤岡勘右衛門・八田弥三右衛門・市浦清七郎御用之儀ニ付参会松舎、夕飯出之

村川権六

箕浦徳之丞

八日

一 書経筆記写物自今日初

和田元利 仁科道竹

十日

一 高木佐近右衛門・大原半之助・浦上十右衛門三人参、校内兩処之樋見分仕

十一日

一 藤岡勘右衛門・八田弥三右衛門・市浦清七郎御用之儀ニ付参会松舎、夕飯出之

村川権六

箕浦徳之丞

十二日

一 千原新内・辻本文平自今日筆記写之

十九日

一 学校之繕普請自今日初ル
普請奉行郡方久山長助・下役若林文内

閏八月十九日

一 書経筆記三冊出来

和田元利 仁科道竹

廿五日

一 詩経筆記自今日辻本文平写初

廿七日

一 御小人目付儀当分泉文之丞跡屋敷之長屋ニ置候由ニ而、今日校内江参

九月五日

一 自今日九日迄参校止

十二日

一 佐治才次郎元服仕、改名角之丞、自今日致参校、読書仕度旨願ニ付、任其意、自今日読書之師ニ被雇

十二日

一 佐々木半平儀十一日ニ庭瀬迄立退候処ニ、從津田佐源太被呼返、口津高郡尾上村ニ被指置、然共岡山江不帰ニ付、市浦清七郎・岩井喜兵衛兩人参、今夜妻子共ニ引返、泉文之丞跡屋敷之長屋江来居
是只今迄郡会所菜園場ニ在之也

九月十四日

一 御門番之弥五助子長吉郡会所之牢ニ入
召連参候時

草野善兵衛

御人足式人

釘貫御紋付箱挑灯

見届

居相孫八郎

右於郡会所河原左助・岩井勘左衛門へ相渡

居相孫八郎書上之覚

一 学校御門番弥五助忰長吉十四歳、此者自幼少手くせ悪敷、親弥五助色々せつかん仕候へ共、直り不申、其上切々参宮仕候とて近所又ハ町方ニ而幼少成者ヲそ、なかし、親方之衣類などを質ニ置せ、ぬけ参仕候ニ付、弥五助追懸、度々引戻シ申候、つよくせつかん仕候ハ、欠落仕、他所ニ而如何様之儀可仕も無心元存候ニ付、鹿喰嶋江被遣被下候様ニと奉願候、以上

午ノ九月十四日

居相孫八郎

市浦清七郎様

九月廿一日

一 横山甚之丞読書精出申ニ付、四書集注壹部被下之

同日

一 居相吉十郎右同断

但自今喰捨被下候旨申渡

廿八日

一 幸元権助儀自今辻本文平・三宅仁兵衛ニ相加り、掃除才可相勤旨申付、依

之自今朝夕共ニ喰捨被下旨申渡

十月六日

一三八一六之講習日ニ自今如先年吹螺候様ニ申渡

吹手

辻本文平

三宅仁兵衛

七日

一市浦平太夫自肥後市浦清七郎宅江来ル

是清七郎甥肥後浪人也

同日

一京都仏師播磨并八郎兵衛今日校内江到着

是関谷御用有之二付、如斯

九日

一佐々木清之助今日從京都歸、父半平同居

十一日

一仏師兩人今日関谷江参

十五日

一辰之刻正千代君被為入、巳之刻御帰駕、玉盤五枚被召上、御供中江菓子煮

肴酒出之

十月十五日

一佐々木半平泉文之丞從跡屋敷学校之御長屋江今日引越

廿四日

一市浦平太夫今日江戸江発足任

廿七日

一生類之儀ニ付從江戸御公儀被仰出候書付、御家中江日置猪右衛門被相触、

依之校内江も市浦清七郎申触

從公儀被仰出書付之趣

一諸人仁愛之心有之様ニと常々被思召候故、生類哀之儀度々被仰出候所ニ、

今度橋本権之助犬ヲ損さし、不屈被思召、依之死罪ニ被仰付候、弥人々

仁愛之心ニ罷成候様ニ、大身小身共ニ相守、末々迄急度可申含者也

午十月 日

十月晦日

一於備中玉嶋村牢ぬけ有之、日置猪右衛門より御家中江被申ニ付、校内江も

市浦清七郎申触

從玉嶋来書付之写

一備中玉嶋村ニ而牢ぬけ仕候者男女式人ニ而御座候、当十月廿七日牢ぬけ

仕候、道筋ニ而若左様成者見付申者御座候者、御留置可被下候

一牢ぬけ男年比三十計、小男也、咽之下ニ疵有

一着物花色布子壱ツ、紋之内ニ梅はち共、裏同色布子壱ツ、袷紋入山かた

一女年比廿六、七、中女、咽ノ下ニ疵有

一着物黒茶布子壱ツ、同花色布子壱ツ、あわせミるちや紋三ツ花ひし、す

そニ梅之折枝ちらし有

右之通者若々見付申者御座候者、御留置奉頼存候、以上

大草太郎左衛門御代官所

玉嶋村

数右衛門印判

岡山町

御奉行様方

十一月朔日

一白鹿洞之学規佐々木清之助於食堂講之、校内諸役人御人足ニ至迄令聴聞之、

但自今毎朝不可欠旨市浦清七郎申渡

出座

市浦清七郎 同 善蔵 窪田道和

四日 一今日冬至ニ付会有之、窪田道和於食堂講易復卦

市浦清七郎 小原善助 窪田道和

淵本弥三左衛門 市浦善蔵 小原宗助

此外校内役人学房師匠中不残会集、夕飯酒出之

十一月五日

一 京都之町人木野自安観学

是 小原善助相達奉行所如斯

八日

一 野間三次郎自今毎日参校、読書仕度旨横山半助願申二付、任其意

同日

一 大雲寺町之医師斎藤元庵子古庵講釈聴聞二初而出

十三日

一 水野数之進家来川上一平講釈聴聞二初而出

十七日

一 内匠君御家来尾関平助子万之丞初而入学、十一歳、左座

十一月十九日

一 今日寒二人、自今宵夜食出、如例

廿五日

一 和田元利・仁科道竹・浅原日向・辻本文平、此四人朝飯後二小学之講習仕

廿七日

一 岩田忠作・中村辰之助元服仕三付、入大生之列

廿九日

一 当秋悪米有之三付、御家中一同二応高十分一渡候、依之学校も同事二付、

校内下役人江も以其割十分一銀札三而相渡候旨、市浦清七郎申渡

十二月朔日

一 学校之士手数自今御敷方奉行作廻二相定候旨、市浦清七郎申渡

是 学校破損繕、自今從郡方依被仰付也

二日

一 中村辰之助自今日習礼之助二被雇

十二月二日

一 左之四人自今校厨之寝番可相勤之旨、市浦清七郎申渡

草野善兵衛

福井五兵衛

辻本文平

三宅仁兵衛

同日

一 幸元林庵儀自今紙筆墨草花預候役義令免許

同日

一 安井弁兵衛儀只今迄之役儀之上二右林庵預り候紙筆墨草花共加役申付

十二日

一 湯浅源左衛門子吉之助初而入学、十一歳、右座

十三日

一 講堂之講習今日迄二而止、如例

同日

一 槍稽古右同断

十四日

一 参校右同断

但 昼奈良茶出之、如例

十六日

一 煤掃有之、如例

十二月十八日

一 幸元林庵自今安井弁兵衛同事二毎朝喰捨被下之旨申渡

廿一日

一 春秋之講習今晚迄二而止、如例

廿五日

一 中室御掃除有之、如例

一 当年参校之諸生五拾八人

内 拾七人初而入学

龜嶋安之丞

同 市之丞

十助三男

伊丹十三郎

小平太二男

丹羽春蔵

弥助二男

土倉三之助

三之丞二男

野間三次郎

弥兵衛子

土倉弥吉

十兵衛二男

多賀長吉

市内二男

山川戌之丞

孫右衛門子

市橋竹之助

光枝六之丞

加兵衛二男

持田卯之助

九八郎子

大内長吉

左助子

関谷亀之助

竹内次郎三郎

平助子

尾関万之丞

源左衛門子

湯浅吉之助

次之子共九人

元禄十六癸未年

正月朔日

一中室御鏡餅辰之刻横山半助開中室之扉、奉之

御鏡餅之飾如例

一蓬菜二ツ

もち 大こん いも

一雑煮 やきたうふ こほう

こんふ するめ

二日、三日雑煮同前、二日吸物 はまくり、三日吸物 塩鯛

正月朔日

一中室御鏡餅今日申ノ刻徹之

是從近年四日ニ徹之候処、從今年又如斯可然旨市浦清七郎横山半助ニ申

渡

元朝

田作膾

汁 つみいれ な こほう
大こん しいたけ

さしみ 鯉 いろ酒

めし

煮物 焼たうふ 大かつを

引而かうの物

同晩

田作膾

汁 かき ほしな
からし

煮物 いも こほう

めし

焼物 かつを

引而香物

二日朝

田作脛

烹物 とうふ 牛房
山のいも

めし

汁 たら こんぶ
こせうのこ

やき物 せい
おろししやうか

引而香物

同晩

田作脛

烹物 白うを
な

めし

汁 はまくり
大こん

焼物 鱒

引而かうの物

三日朝

田作脛

烹物 かまほこ 焼たうふ
こほう

めし

汁 菜 山のいも
からし

焼物 いな
おろししやうか

引而かうの物

三日晩

田作脛

汁 雉子 な こほう

烹物 たうふ くす
おろし からし

めし

大こん しいたけ

牛房はりく
引而香物

右何も酒三献

正月五日

一読初之儀如例

諸生於講堂如例

一開戸捲簾褰帳

松井七右衛門
淵本弥三左衛門

一焚香俯伏

市浦清七郎

衆皆再拜

但從今年横山半助唱之

下座 奥

鞠躬 奥

拜 奥

拜 奥

平身 着座

一降帳垂簾閉戸

松井七右衛門
淵本弥三左衛門

畢而讀書之師何茂講堂之中通りへ出、横山半助撃柝、孝経五等之孝ヲ同
声ニ読之、次小原善助講孝経卷頭、畢而松井七右衛門・淵本弥惣左衛門
侍中室之左右、授胙諸生、堂中之諸生從左右壺人宛詣中室ニ、頂戴、退
出也

參校之諸生

伊丹久八郎 同 佐太郎

同 重三郎

高木卯之助 持田卯之助

梶川孫三郎

多賀平十郎 同 長吉郎

竹内次郎三郎

津田小源太 同 源六郎 関屋龜之助
 龜嶋安之助 同 市之丞 武田茂助
 安宅紋次郎 安田七之進 堀 又吉
 丹羽春蔵 土倉三之助 湯浅吉之助
 岩田忠作 中村辰之助 三神三太郎
 野間伝八郎 同 三次郎 小谷文三郎
 市橋竹之助 光枝六之丞 坂井伝之助
 三宅林賀 宮部兵吉 田坂猪三郎
 野崎吉之助 神野十之丞 大内長吉
 右者參校之諸生
 中川来助 丹羽小平太 岡 猪兵衛
 守田与五郎 石原周甫 松末織部
 八木左衛門 今村和泉 西屋与兵衛
 鏡餅奉行并鎗稽古ノ諸生・学房中・下役人・読書之師・次之小共不残、其
 外津田小源太・同源六郎・市浦作之助・横山甚之丞頂戴仕ル
 雑煮 あつき さたう
 吸物 ミそ ふな わりさんせう 酒三献
 稽稽古遣初如例、坂口勘左衛門出勤
 山脇猪内 宮城六兵衛 津田源吉
 田中惣兵衛 上嶋浅右衛門 市浦善蔵
 守田与助 荒尾紋左衛門 泉 文之丞
 平井万之助 尾関弥三郎 岩田忠作
 糟谷源左衛門 浅野与七郎 中村竹之丞
 船橋吉兵衛 塩見友之助 早川忠八郎
 梶川七郎太夫 横山半助
 一四ツ前諸生群座
 左座菊舎 後見 幸元自斎

右座竹舎 千原新内
 右両舎二一ツ宛手水桶拵置之、巳之時大鞍前二左右共、二老人宛盥、講堂
 江着座 御足輕式人
 一校門番人
 正月十日
 一学校之勘定初ル、如例
 正月十六日
 一春秋之講習初、雑煮酒出之、如例
 一十七日
 一參校初、雑煮酒出之、如例
 同日
 一土倉弥兵衛次男弥次郎初而入学、八歳、右座
 同日
 一内匠君御家来坂井伝吉次男松之助、右同断、八歳、同座
 十八日
 一槍稽古初ル、雑煮酒出之、如例、坂口勘左衛門出勤
 上嶋浅右衛門 市浦善蔵 守田与助
 荒尾紋左衛門 尾関弥三郎 平井万之助
 泉 文之丞 糟谷源左衛門 梶川七郎大夫
 山田加四郎 横山半助
 廿四日
 一岩田玄東子東悦初而入学、十四歳 左座
 廿八日
 一講堂之講釈從今日窪田道和講之
 是依小原善助病氣也
 二月一日
 一积菜有之、池田佐兵衛御名代被仰付
 二月上丁积菜之儀
 唱賛 横山半助

開戸

捲簾褰帳

啓櫃

献果

参神再拜

焚香再拜

献酒俯伏

告辞俯伏

辞神再拜

徹酒果

閉櫃

降帳垂簾

闔戸

礼畢

音楽雙調

松井七右衛門
淵本弥三左衛門
同前

市浦清七郎

御名代 池田佐兵衛

佐兵衛

佐兵衛

備前国主左少将源綱政朝臣使臣池田信起謹修积菜之礼敢告

善助

弥三左衛門

佐兵衛

七右衛門

弥三左衛門

同前

楽人

太鼓 見垣近江守

笙 金谷石見

同 大守对馬

同 大守隠岐

同 八木左衛門

同 大守弥平次

同 松末織部

同 今村和泉

窪田道和講論語卷頭ヲ、畢而松井七右衛門・淵本弥三左衛門侍中室之左
右、授胙諸生、堂中ノ諸生從左右老人宛詣中室、頂戴之、直食堂飯台ニ
着

今朝飯台出諸士

池田佐兵衛 津田佐源太

右者於桃舎料理出又

参校之諸生

岩田忠作 石黒平之丞

中村辰之助 伊丹久八郎

山川小平次 山川十郎兵衛

津田小源太 津田源六郎

伊丹重三郎 野崎用斎

持田卯之助 梶川孫三郎

多賀長吉 竹内次郎三郎

中野弥次之助 龜嶋安之助

関屋龜之助 出石権七郎

武田茂助 尾関万之丞

安田七之進 土倉弥吉

堀 又吉 丹羽春蔵

岩田東悦 土倉三之助

三神三太郎 野間伝八郎

小谷文三郎 市橋竹之助

坂井伝之助 坂井松之助

宮部兵吉 野崎吉之助

田坂六十郎 大内長吉

窪田友竹 小原文次郎

横山甚之丞

居懸 加世藤三郎

佐分利久次郎

尾沢幸之助

山川戌之丞

伊丹佐太郎

小嶋甚之助

多賀平十郎

高木卯之助

龜嶋市之丞

出石佐助

安宅紋二郎

土倉弥次郎

和田善次郎

湯浅吉之助

野間三次郎

光枝六之丞

三宅林賀

田坂猪三郎

神野重之丞

市浦作之助

岡 助右衛門

富田甚之丞 津田源吉 坂口勘左衛門
 平井万之助 丹羽小平太 守田与五郎
 守田与助 岡 猪兵衛 山田加四郎
 大森重左衛門 中村随軒 にしや与兵衛
 御廟付

高田弥右衛門 横山五郎太夫 若林猪兵衛
 新庄作大夫 理兵衛 長大夫
 市浦清七郎 小原善助 窪田道和

松井七右衛門 淵本弥惣左衛門 市浦善蔵
 小原宗助 横山半助 佐々木半平
 佐々木清之助 和田元利 長瀬問誰

山口藤助 千原新内 幸元自斎
 仁科道竹 居相孫八郎 幸元林庵
 守田三太郎 山田久之助 居相吉十郎

幸元権助 安井奎兵衛 草野善兵衛
 福井五兵衛 辻本文平 三宅仁兵衛

草野善七郎 草野善八郎 片岡左五兵衛
 町料理 同 土肥右近預
 助九郎 弥兵衛 足軽八人
 御人足六人

以上

二月三日

一 御国之古検地帳書直シ候様ニと被仰出由ニ而、如前年於学校相調申度旨、
 津田佐源大江学校借シ候へと市浦清七郎江御老中被申渡ニ付、今日佐源太
 江学校明渡

但御帳不濟内参校并諸講習難致中絶ニ付、泉文之丞跡屋鋪ニ加修理、暫
 為学問所、依之繕作事從佐源太久山長助江被申付、繕初ル

三日

一 於泉文之丞跡家之学問所燃火候儀停止可然ニ付、如左
 一 校内下役人朝夕支度御帳方江致附食於校厨給候事
 一 参校日并槍稽古日之昼飯右同断、但取寄出之候事
 一 横山半助・幸元林庵両人ハ從御帳方喰捨被下之旨、津田佐源太被申渡由
 二 而其通ニ成ル

一 槍稽古之夕飯致附食、市浦清七郎座敷へ取寄出之候事
 二月三日
 一 学問所之勤番初ル
 横山半助 居相孫八郎 幸元林庵

六日
 一 春秋之講習初ル
 但市浦善蔵・小原宗助・佐々木清之助

十二日
 一 今朝御祭有之ニ付、從校厨弁当遣之、如例

十四日
 一 参校初ル
 十八日
 一 論語ノ講釈初ル、窪田道和煩ニ付、佐々木半平講之
 是講堂講掛り也

二月十八日
 一 磨屋町之眼医河村是三子三真、三八之講釈聴聞ニ初而出ル
 廿四日
 一 宮部清四郎三男三之進初而入学、十歳、右座

廿八日
 一 槍稽古初ル
 是坂口勘左衛門牛窓御用依被仰付不参

田中惣兵衛 上嶋浅右衛門 市浦善蔵
 守田与助 尾関弥三郎 平井万之助

山脇猪内 横山半助

三月朔日

一 学規之講釈初ル如例、佐々木清之助講之

二日

一 從今日六日迄參校止、如例

七日

一 參校初ル、昼飯出之、如例、但諸生中迄二而餘ハ不出之

是依学校御簡略也

三月八日

一 長崎助九郎長子太郎八、三八ノ講釈聴聞ニ初而出ル

九日

一 忍衆藤村半七郎子吉之助次江初而入学、十一歳

十二日

一 詩経ノ内講習初ル

但二七之晚七ツ時より左之三人代ルミ講之

市浦善蔵 小原宗助 佐々木清助

三月十四日

一 丹州君御家来遠藤弥次右衛門子又三郎初而入学、十歳、右座

十七日

一 山口門平子兄弟共ニ初而入学

兄兵太郎、十四歳、左座 弟権次郎、九歳、右座

同日

一 河田奎右衛門子七助初而入学、十一歳、左座

同日

一 今井夫右衛門二男猪之助初而入学、八歳、右座

三月十七日

一 御城代組藤田弥大夫子源次郎次江初而入学、十四歳

同日

一 巳之刻正千代君学校江被為入、於松舎ニ御遊、学問所江茂被為入、巳之半

刻ニ御帰駕

廿日

一 大守肥後学問所江来校

是一宮之宝物頼朝公之御判物并一宮縁起記録、其外數通有之処、致持参
市浦清七郎・小原善助・窪田道和各以評儀、右之目錄并上包ニ外題相調

可然之旨津田佐源太被申由ニ付、令参会、筆者佐々木半平申付、今日成
就之也

廿九日

一 内匠君御家来土方又之丞五男又五郎初而入学、十三歳、右座

四月朔日

一 学規講釈有之

四月二日

一 今朝參校止

是毛利大炊君先月三日御遠去被成候由、從江戸昨日申来、即日より三日

穩便、作事普請ハ不苦旨、依御触有之也

四日

一 參校初ル

同日

一 主膳君御家来津川源次郎弟八郎五郎初而入学、十一歳、右座

十日

一 伊丹久八郎坂口勘左衛門弟子ニ成、從今日坂口流槍稽古仕

十三日

一 持田卯之助毎日參校仕、致読書度旨願ニ付、任其意

廿二日

一 野間伝八郎右同断

五月朔日

一 從今日六日迄參校止、如例

七日

一 參校初ル

五月八日

一 参校今明止

是少将様近日依御帰城也

十八日

一 参校来ル廿三日迄止ム

是御家中御礼不濟内ハ如例無之

廿二日

一 参校止、如例

廿三日

一 今日之講釈止

是小姓組之御礼今日依有之也

六月七日

一 今日土用二入、参校止、如例

但諸生望次第さらへニ参校可然旨去年相定処、当年も望有之ニ付、任其意

ニ、二七四九三八左右一日代リニ参校候様ニ申渡、從明八日初ル筈ニ相定

八日

一 村田作之右衛門坂口勘左衛門弟子ニ成、自今日坂口流槍稽古仕ル

六月八日

一 槍稽古ノ諸生へ昼飯并瓜出之

十八日

一 左之諸生今日於川下饗之

是例年有之処、御国御帳清書於学校相調申ニ付、如斯

和田元利

佐治寛之丞

千原新内

長瀬問誰

幸元自斎

山口藤助

幸元林庵

居相孫八郎

居相吉十郎

幸元権助

安井李兵衛

福井五兵衛

廿七日

一 土用明参校初ル

同日

一 持田卯之助元服仕ニ付、入大生之列

同日

一 参校之諸生中三八并一六之日さらへニ内参校仕度旨願ニ付、市浦清七郎望

之通令許容、依之居相孫八郎・幸元林庵兩人請込可然旨申渡ス

七月朔日

一 学規之講釈有之

二日

一 左之小生孝経之講習初ル

武田茂助

梶川孫三郎

野崎大助

居相吉十郎

六日

一 内参校止

是明日依節句也

九日

一 参校今日迄ニ而止、如例

十一日

一 辰ノ半刻正千代君被為入、左之諸生諸礼御覽被成、且絵入之十二候老部指

上之

武田茂助

田坂猪三郎

野崎大助

岡部権十郎

伊丹佐太郎

伊丹重三郎

河田七助

関屋亀之助

坂井伝之助

宮部兵吉

十六日

一 春秋之講習止、如例

七月十七日

一 参校初ル

同日

一 正千代君自今被為入、諸生之諸礼稽古御覽可被成旨被仰出ニ付、諸事趣如

左

一 長瀬問誰七五三之式ヲ取立、使者奏者組合并太刀折紙披露、使者御盃頂

戴、畢而七五三ヲ居、引替之膳出之候事

一 講堂并松舎竹舎之掃除、津田佐源太久山長助ニ被申付

十八日

一 辰之平刻正千代君被為入、右之諸礼御覽被成、且召居相孫八郎楽大鼓ヲ被仰付、打之、午ノ刻過ニ御帰駕、正千代君御前江奉上熨斗、御供中江八酒菓出之

一 諸生講堂之西縁側ニ着座

一 市浦清七郎・窪田道和・小原善助・松井七右衛門・淵本弥三左衛門校門迄奉迎

一 横山半助左ノ熟^(巻)ニ伺候仕ル

一 講堂之外御徒横目押之

七月廿三日

一 今日於川下饗之

市浦清七郎 窪田道和 小原善助

中村辰之助 野崎用齋 横山半助

小原源次郎 小原文次郎 横山甚之丞

勝手肝煎

居相孫八郎 幸元自齋 草野善兵衛

草野善七郎

八月二日

一 土倉百助初而入学、十歳、左座

七日

一 伊丹久八郎從今日読書之助ニ參校

是自分為稽古願ニ付、如斯

十一日

一 竹村小平太預小頭林弥兵衛子兵内次江參、読書習字仕度旨以泉文之丞願申

ニ付、任其意、十二歳

八月十一日

一 和田元利ニ五経集註壹部被遣之

是依文学精出也

十二日

一 藤田源次郎辞校

是正千代君江依被召出也

十五日

一 於学問所中秋之詩会有之、如例

市浦清七郎 小原善助 窪田道和

笹岡次郎七 窪田友竹 佐々木清之助

和田元利 横山半助 居相孫八郎

幸元林庵 幸元自齋 千原新内

市浦作之助 小原源二郎 小原文次郎

横山甚之丞

廿七日

一 居相吉十郎儀為見習御後園江相詰候様ニ稻川佐内被申渡、且行々ハ可被召

出旨佐内内意有之

九月二日

一 參校之昼飯今日より止、如例

四日

一 居相孫八郎・安井李兵衛兩人、和氣郡学校領江竹伐御用ニ可參旨、市浦清

七郎申渡、今日參ル

但孫八郎儀ハ馬老疋人足老人并式人増之御扶持方雜用銀一日ニ三分宛御定之通被下之、李兵衛ハ如先例扶持計被下之、塩噌才從学校被遣之旨申

渡ス

同日

一 孫八郎留守中ハ諸見届メ判横山半助ニ申付

五日

一 今日より十一日迄參校内參校共ニ止、如例

八日

一 水風呂今日より仕、如例

九月十一日

一 巳之刻正千代君被為入、午ノ刻御歸駕、諸礼具足着初之式今日仕ル、御供中へ酒菓子出之

十二日

一 參校初ル

同日

一 高崎喜庵子文庵初而入学、九歳 左座

十三日

一 三三八之講釈初ル

同日

一 居相孫八郎・安井李兵衛今日学校領より歸ル

十六日

一 今明參校内講習止、如例

十七日

一 御祭礼御旅所相濟候迄裏門出入止并校内火用心仕候様ニ市浦清七郎申付ル

廿七日

一 丸山文左衛門子文之丞初而入学、十歳、左座

廿八日

一 持田加兵衛長子丑之助講釈聴聞ニ初而出ル

廿九日

一 仁科友竹今日より出勤候而、東照宮御遺訓写之

十月朔日

一 学規ノ講釈止

是佐々木清之助依頼也

三日

一 今日正千代君於御後園音楽被仰付

是兼而御聞可被成ニ付、楽人相詰罷有ル

四日

一 佐治寛之丞ニ五経之白文壹部被遣之

是文学精出、且読書師依相勤也

六日

一 山口藤助自今幸元自齋同事ニ毎日相詰、朝夕喰捨被下之旨申渡

十三日

一 大橋茂右衛門子茂助初而入学

十四日

是元服仕候得共、小生參校日ニ茂参、読書習字仕度旨ニ付、任其意

十四日

一 八田佐助市浦清七郎方之御留帳見習ニ被仰付、依之折々学校ニ而支度仕管ニ申渡又

十月廿三日

一 林兵内自今附食ニ而終日読書習字仕度旨願申ニ付、任其意

廿四日

一 槍場ノ修理今日出来

同日

一 自今草花ハ幸元林庵、樹木ハ安井李兵衛、芝ハ草野善兵衛・福井五兵衛請込之候旨申渡又

廿七日

一 參校之小生自今学校之下諸役人之名ヲ呼候時、様ヲ付申間鋪旨、何茂相談之上ニ而今日淵本弥惣左衛門諸生中江相達之

十一月二日

一 御遺訓之写物今日仁科道竹写終之、且五経筆記写残之分写之候様ニ申渡

三日

一 内匠君御家来片岡文次郎坂口勘左衛門弟子ニ成、今日より坂口流槍稽古仕ル

十一日

一 幸元権助読書精出シ申ニ付、依之四書集註古本壹部被遣之

十一月十三日

一 辻本文平・三宅仁兵衛兩人加扶持被下、自今式人扶持被下之旨申渡

同日

同日

同日

一三八之論語ノ講釈今日終ル

同日

一草野善兵衛二男善八郎從今日朝夕喰捨被下之旨申渡

十四日

一亀嶋安之助今日御児小姓ニ被召出由ニ付、除列座之札

十七日

一津川甚左衛門子加左衛門初而入学、十四歳、左座

十八日

一三八之講釈今日より孟子初ル

廿四日

一森杏庵子養誠初而入学、十歳、右座

廿六日

一内講釈之春秋終、依之吸物酒出之

廿七日

一内匠君御家来荒子源大夫子四郎太郎初而入学、九歳、左座

同日

一巳之刻正千代君被為入学校、御供中江煮肴酒出之、小生中江粥出之

十二月十一日

一内講習大学今晚初ル

但市浦善蔵・小原宗助・佐々木清之助講之申筈ニ相定

(貼紙)

「十二月十一日

一津田左源太郎代役御免、閑谷江休息被仰付、脇谷之事・社倉米之事相計候様、休息補ニ五百石御加増被仰付

右之三品之御用相勤候者ヲ組ニ被仰付、足輕廿人其俣御預ケ被成、今迄之組之者了簡ニて、外之組へ御附被成、組之内八人、外ニ組頭御鉄

砲引廻し共三人ハ、不相替組ニ御附被成候旨被仰渡」

十三日

一三八之講習今日迄ニ而止、如例

十三日

同日

一居相孫八郎儀銀三枚被下之旨申渡

是学校見届方諸事打はまり相勤、其上悴吉十郎事御城江相詰物人多由ニ付、如斯

如斯

同日

一幸元林庵銀式枚被下之旨申渡ス

是学校諸生中之儀諸事精ニ入勤候ニ付、如斯

十四日

一参校今日迄ニ而止、如例

廿一日

一大学之内講習今日迄ニ而止、如例

十二月廿五日

一中室之煤掃有之、如例

一当年参校之諸生七拾四人

内初而入学拾六人

清四郎三男

宮部三之進

内匠君御家来伝吉二男

坂井松之助

玄東子

岩田東悦

丹州君御家来弥次右衛門子

遠藤又三郎

門平子

山口兵太郎

同

同 権次郎

李右衛門子

河田七助

夫右衛門子

今井猪之助

又之丞五男

土方又五郎

主膳君御家来源次郎弟

津川八郎五郎

土倉百助

文左衛門子

丸山文之丞

茂右衛門子

大橋茂助

甚左衛門子

津川加左衛門

杏庵子

森 養誠

内匠君御家来源大夫子

荒子四郎五郎

次之子共拾貳人

内三人初而入学

御城代弥大夫子

藤田源太郎

小頭弥兵衛子

林 兵内

半七子

藤村吉之丞

但右之内壺人辞校

浅右衛門子

佐治才次郎